ワンランク上のレイアウト・ジオラマを作ろう！

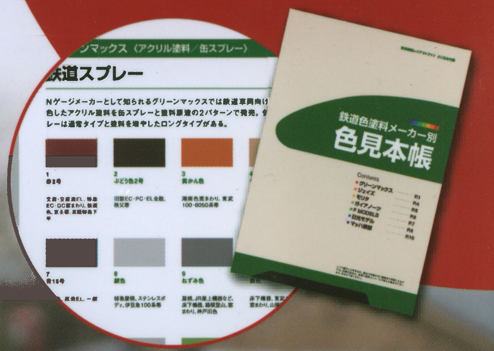
鉄道模型レイアウトファン

Gakken Mook

とじ込み付録

車両の色がすぐ選べる！

鉄道色塗料メーカー別色見本帳



トイショー'13

ニュルンベルク速報！
植物表現はリアルに大進化！



諸星昭弘

建築物に郷愁を加える
至高のウェザリング

宮澤雅文

[惜別記念ジオラマ]

東北の夜空を走る
200系

鉄道模型の⑥達人

情景から車両まで
至高の作品
詳細レポート

●多彩に塗り分ける
1mm幅のマスキングテクニック

●「EF65」に見る
会津式部分塗装のマジック

特集

今さら聞けない「基本のキ」から達人に学ぶ上級テクまで

塗装のすべて!!



CONTENTS

とじ込み付録

鉄道色塗料 メーカー別色見本帳 ▶▶▶



鉄道模型 レイアウトファン








Expert Modelers Of Model Railway

鉄道模型の達人たち

“鉄道模型”と一言でいっても、その種類や楽しみ方は多岐に渡る。ある人は日本の情景を作り、またある人はヨーロッパやアメリカの情景を追い求める。達人モデラーたちの作品を通じ、鉄道模型の魅力に触れていただきたい。





藤田 弘

3′6″の線路が美しい国鉄ローカル線の魅力

本文：松本典久／写真：編集部

長閑でゆったりとした情景の中を単行運転のキハ20が走っていく。そして奥の線路には9600の牽く旅客列車。昭和30年代のローカル線が見事に再現された。

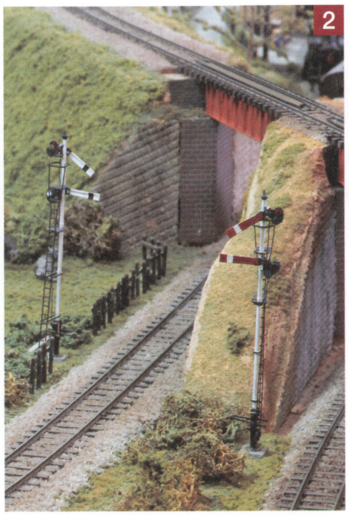
DATA

作品名	「国鉄湯の里線」
縮　尺	1/87
軌　間	12mm



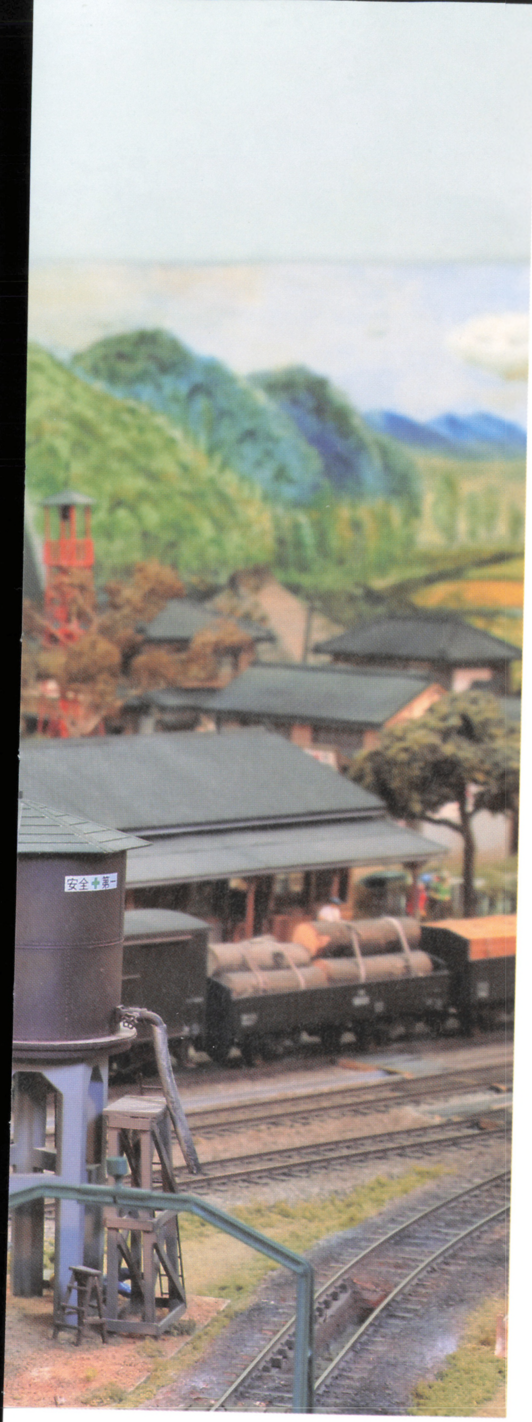
湯の里駅を中心に広がる「国鉄湯の里線」の情景。行き止まり式の終端駅としてデザインされ、機関車の駐泊施設も併設されている。輻湊する線路がローカル線ながら活気のあった良き時代を演出してくれる。



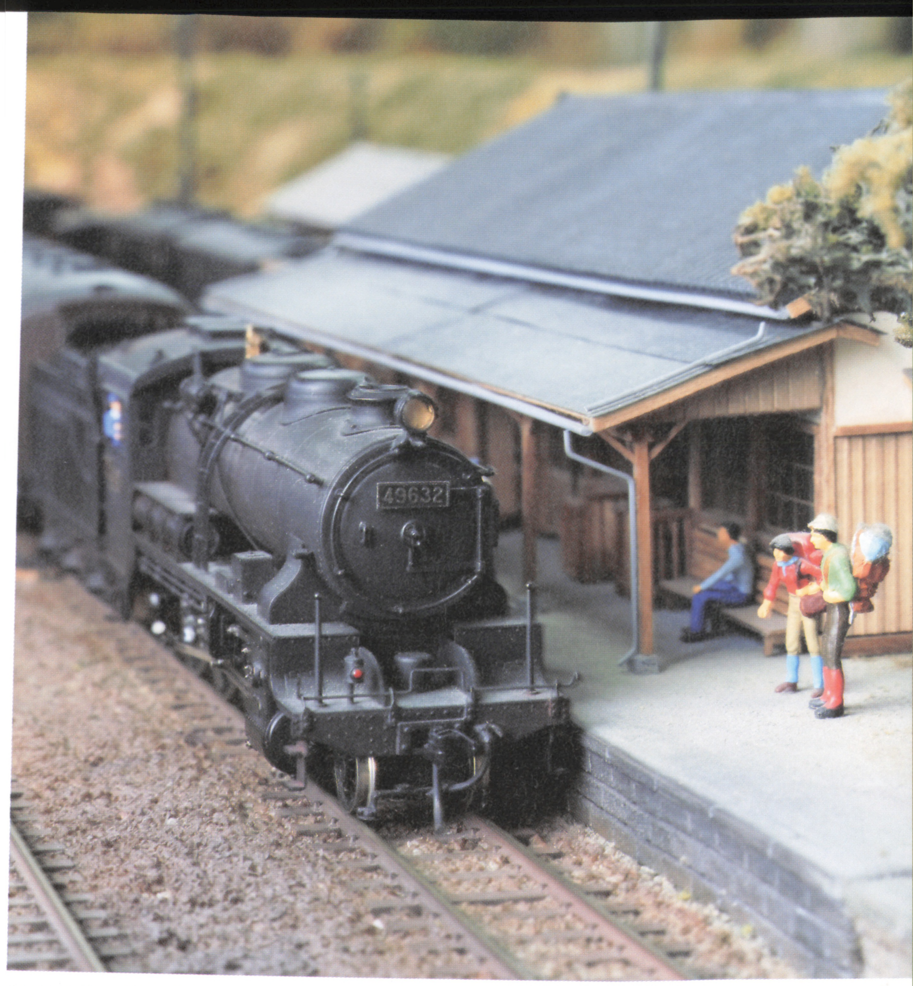




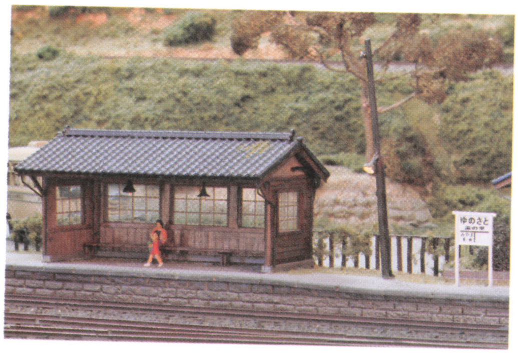
1湯の里駅に9600の牽く旅客列車が到着。ホームに着いたところで機関車を切り離し、ターンテーブルで向きを転換。再び本線へと発車していく。そんな流れを再現できるレイアウトだ。2この時代のローカル線には欠かせない腕木信号機。これはlazyJackの製品を利用。3ポイント脇の転轍器もリアルに再現。効果的なアクセサリーだ。



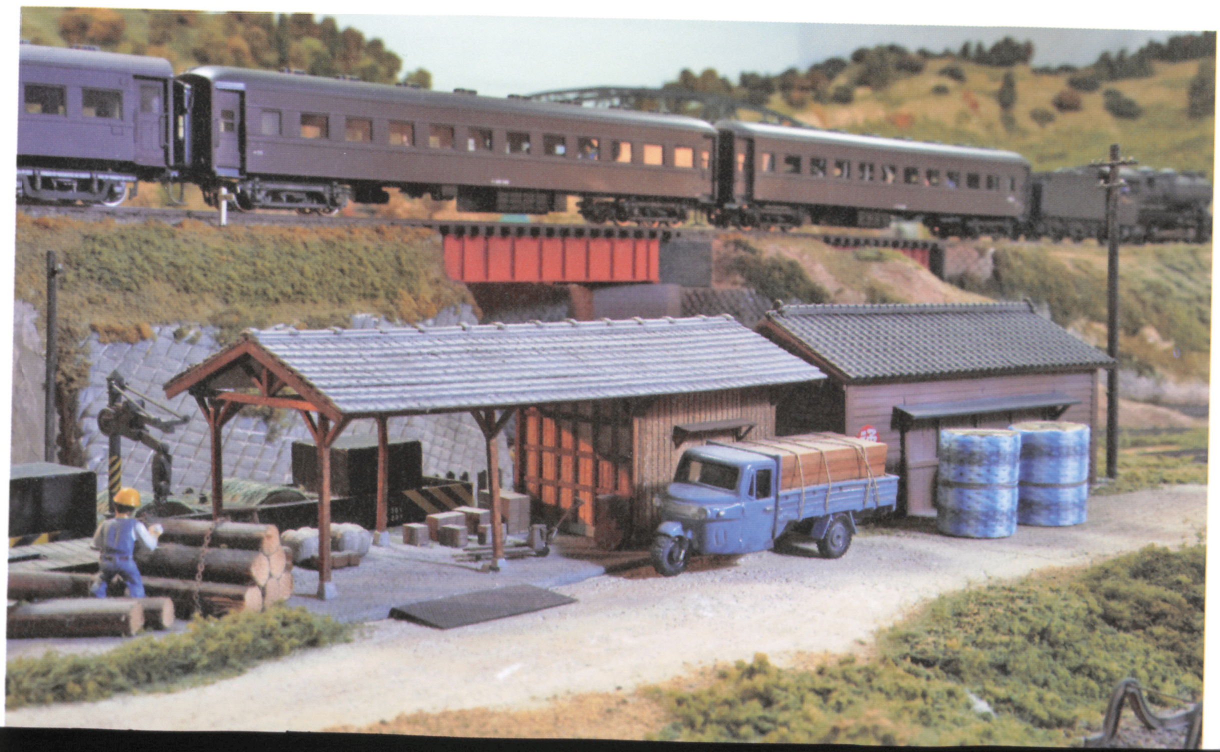
ローカル線をひた走る蒸気列車の情景を懐かしむ



9600の牽く旅客列車が湯の里駅に到着。ホームには旅人が列車の到着を待っている。日本人の人形は1/80サイズが中心で、1/87サイズの欧米人が増えてしまうのが辛い。



湯の里駅のホームにある待合室。昼間の写真ではわかりにくいが、この待合室には黒い傘を付けた電球が2つあり、夜景としたとき、いい雰囲気を出す。



湯の里駅の片隅には貨物ホームも設置。小さなクレーンも用意され、木材の運び出しといったところ。オート三輪も時代を感じさせる重要なアイテムだ。



ターンテーブルを中心とした駐泊施設。このターンテーブルはモーターで回転するROCOの製品。オリジナルはドイツ型のため、日本風に大改造している。さらに軌間も16.5㎜から12㎜に改軌した。

4乗務する機関車に向かう機関士と機関助士。この人形は1/80サイズと大きめだが、国鉄職員らしい作りとなっているので、欠かせない。背後の給炭台は角材を組んで自作したもの。5機関車のキャブにも機関士の姿が！　無人運転させない心配りがいい。出発を待つシーンとしてもドラマが見えてくる。6駐泊所で休むC56。これは珊瑚模型店のキットを組み立てたもの。バルブギアは黒染めで鉄らしさを表現した。この機関車にもサウンド装置が組み込んであり、停車中に蒸気の漏れる音などの演出も可能。

4



5



6





四国の吉野川に架かる土讃線の第二吉野川橋梁がプロトタイプ。当初は製品利用も考えたが、プロトタイプの美しい曲弦トラスを表現するため自作。オール真鍮製で、この製作だけで半年かかってしまった。

1067ミリの味わいを リアルに再現したレイアウト

日本の鉄道情景をリアルに作るには軌間への追求が欠かせない

実物の国鉄/JR在来線の軌間は1,067㎜。メートル法では中途半端な数字だが、ヤード・ポンド法では3フィート6インチと切りのいい数字。鉄道の技術を欧米諸国から学んだ日本では、その証拠がこんなところに残っているである。そして日本の多くの私鉄もこの軌間に準拠して建設されていった。

話は鉄道模型に転じて、NゲージやHOゲージの軌間を見てみよう。日本型の場合、前者は1/150、後者は1/80の縮尺で作るのを基本としている。軌間はそれぞれ9㎜、16.5㎜が標準となる。

ここで1,067㎜を1/150や1/80に縮尺してみると、およそ7㎜、13㎜となる。「スケールモデルと謳いながら軌間があってない！」などと憤慨しないでほしい。これは鉄道模型の先人たちが長年培ってきた文化なのだ。実は鉄道模型の軌間は、標準軌（1,435㎜）を基本として計算されている。日本では新幹線や一部の私鉄の軌間として使われているが、欧米諸国ではもっとも基本的な軌間だ。1,435㎜を欧米諸国の模型で採用されている縮尺（1/160や1/87）にするとおよそ9㎜、16.5㎜となるのだ。日本の鉄道模型ではこの軌間を基準に定め、縮尺をちょっと大きくすることで車体と軌間のバランスを取っているのである。

一方、やはり足元のすっきりした実物のプロポーションを追求したい、実物の線路の雰囲気を再現したいという考え方も生まれ、いくつかの規格が考案された。その一つがHO1067などと表記される1/87・12㎜なのだ。藤田弘さんが「国鉄湯の里線」で採用した規格もこれである。まだ歴史の浅い規格ながら、その魅力を最大限に活かしたレイアウトとして完成した。



踏切で一旦停車するミゼット。車種だけで時代が見えてくる。写真は築堤下の通路から眺めた情景。レンガ造りも時代を感じさせる。こんな細かい部分も作り込まれ、鑑賞する楽しみが増えていく。







7 製作時間を節約したいため、建物やアクセサリーは製品利用を考えたが、1/87サイズの日本型製品はほとんどない。そのため、ほとんどの建物は自作を余儀なくされた。日本家屋の1間（1,820㎜）を20㎜に換算する簡易法を考え、図面おこしはかなり楽になった。8 茅葺き屋根は紙粘土で製作。筋彫りして塗装でリアルに見せる。9 駅周辺では町屋建築の建物なども並んでいる。

半年かけてレイアウトプランを熟考

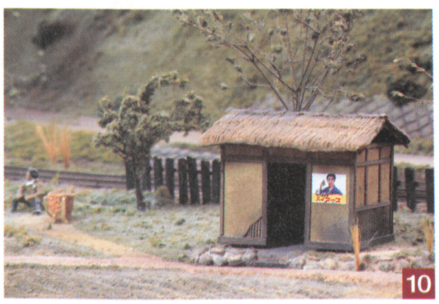
藤田弘さんがHO1067という規格に出会ったのは、1983年のこと。鉄道模型専門月刊誌『とれいん』の誌上で新たな鉄道模型の規格として発表されたのだ。日本型鉄道の狭軌感を模型でも再現したいと考えていた藤田さんは、それまでにもHOナローやOナローさらにはOJなどに触れていた。その経験からHO1067の秘める大きな魅力に惚れ込んだ。

やがてHO1067用の線路が発売され、車両も少しずつ製品化されていった。藤田さんは好みの車両が発売されると入手、キットであれば組み立て、完成品であれば自分のめざす鉄道用として手を加えていった。

車両が揃ってくると、それらの活躍するレイアウトを作ってやりたい。しかし、新しい規格ということもあり、線路や車両以外の製品化は進まない。発表から30年が過ぎた現在でも1/87サイズの建物はもちろんのこと、アクセサリーも皆無に等しい状態なのだ。

しかし、藤田さんは1995年にレイアウトの製作を決意。まずは自宅の2階を6畳分ほど拡大改造してレイアウトルームを確保した。もう、ここまで来たら後には引けない。HO1067による国鉄湯の里線の建設が始まったのである。

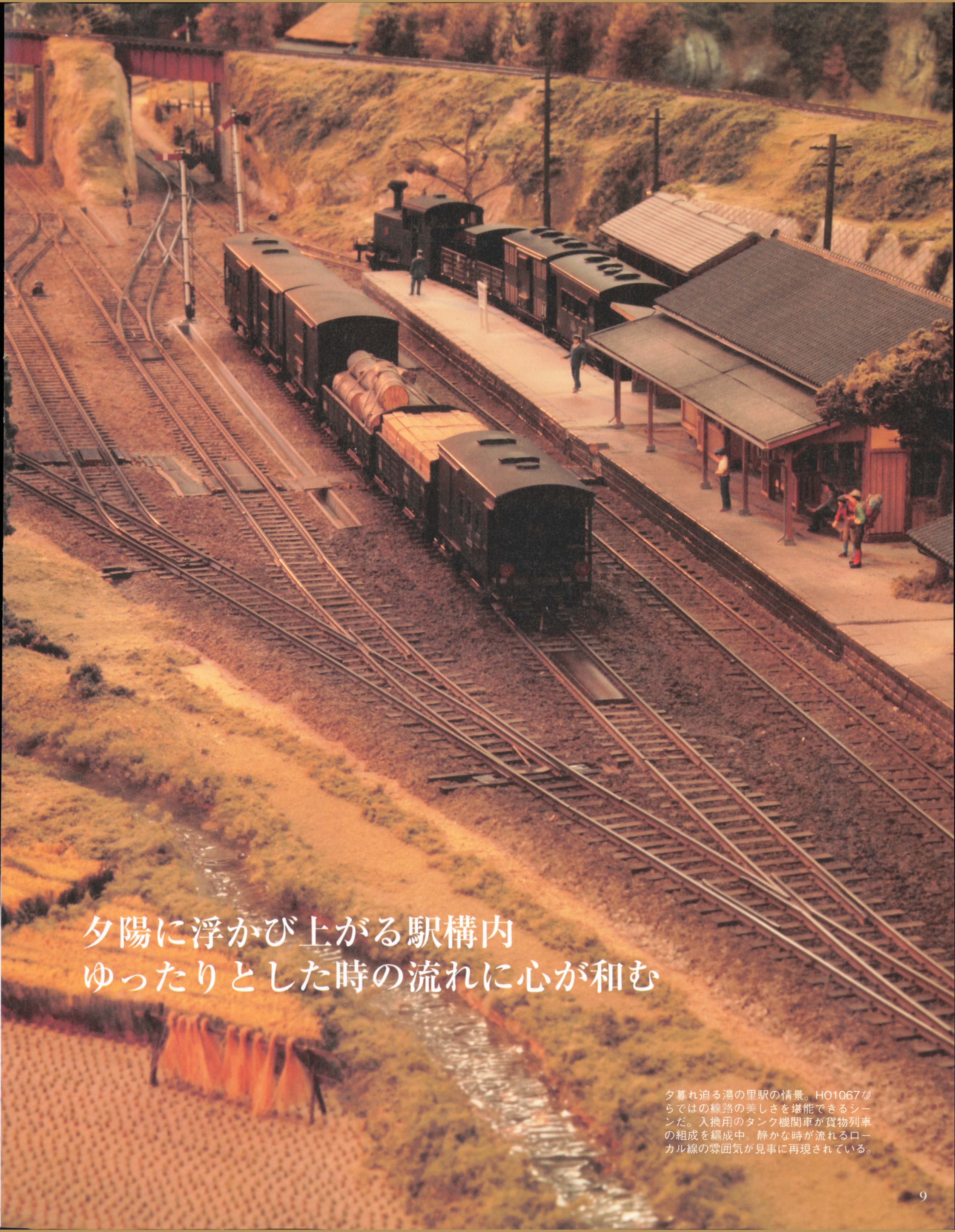
藤田さんのレイアウトルームは多くのモデラーにとって恵まれたスペースとなるが、無限というわけではない。限られた広さを最大限に活かし、また長く飽きずに付き合えるレイアウトとすべく、プランを練っていった。テーマは昭和30〜40年代の国鉄ローカル線。車両はSLや気動車が主体となる。列車長は機関車＋20m級4両編成程度は欲しい。また、スペースはとってしまうがターンテーブルも設置したい。基本となる風景は初秋の里山。刈田の情景もぜひ盛り込みたい……。およそ半年ほどかけて終着駅とリバースを基本にしたプランが完成。3,700×2,200㎜のレイアウト基盤から工作が始まった。







10 国鉄湯の里線では随所に農村地らしい情景が作り込まれている。これは田んぼの脇に立つ小屋。ホウロウ看板を掲示、土壁の剥がれた所などの演出も見事だ。11 湯の里駅の裏手には小さな神社が立てられている。神社の脇に続く田んぼは刈り入れが終わったところ。田んぼに干された稲などの表現にも注目。12 あぜ道をゆく耕運機と牛。手前に見える刈り入れ後の田んぼはミシンで糸を埋め込んで表現。このためにミシンを購入したとか。



夕陽に浮かび上がる駅構内
ゆったりとした時の流れに心が和む

夕暮れ迫る湯の里駅の情景。HO1067ならではの線路の美しさを堪能できるシーンだ。入換用のタンク機関車が貨物列車の組成を編成中。静かな時が流れるローカル線の雰囲気が見事に再現されている。



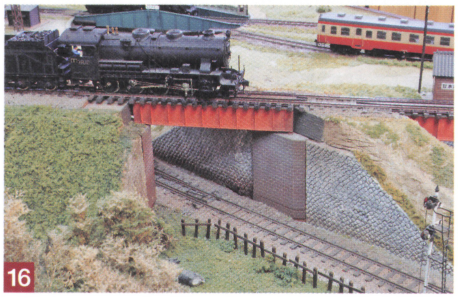
13



14



15



16

13支線の貨物駅で出発を待つ古典機。この機関車は東武鉄道で昭和40年ごろまで使われていた明治生まれのイギリス製車両。ポイントの右側の線路は不要になり、剥がされたという想定。残こされた枕木も表現されている。14トンネルを抜ける列車。トンネルポータルは紙粘土などで製作。15第二吉野川橋梁をプロトタイプとした鉄橋。スパンが長く、強度も必要なことから真鍮製となっている。16駅出口と本線の立体交差部分。切通し部分の石積みは紙粘土を薄く塗り、パイプ材を押し付けて表現したもの。

時間をかけ、レイアウトの見せ場を一つずつ作り上げていった

レイアウト基盤は100×40㎜の杉材を井桁に組んだオープントップ方式。ここまでは部屋の拡張に合わせて大工さんに依頼したが、その後はすべて手仕事。

最初に線路を敷設していくが、その基盤は線路の形に切り抜いた5.6㎜厚の合板に３㎜厚のコルク板と４㎜厚の合板を貼り重ねた３層構造。一部は木ネジも併用しているが、大半は木工用接着剤で接着。釘は一切使っていない。これで十二分な強度が出て、完成から20年近く過ぎた今でもねじれなどのトラブルは起こっていない。走行音も満足できるものだが、残念なことにポイント切り替えのモーター音が反響してしまう。しかも経年変化か調子が悪くなったものもあり、この補修が大きな課題となっている。

建物は1/80サイズの製品から小型のものを選んだが、違和感なく使えたのは２軒だけ。結局、日本家屋の１間(1,820㎜)を20㎜とする約1/90で自作することになった。このほか、大物では鉄橋も自作している。サラリーマン時代ゆえ、工作は休日しかで



湯の里駅前に立ち並ぶ民家。白壁の家はこの町に唯一ある食事処で屋号は越後屋。その左隣はバスの車庫。最終バスはこの車庫で駐泊、翌朝大きな町に向かっていく……。そんな物語を考えながら家並みを作っていった。



国鉄湯の里線の全景。この方向から眺めると左右2,200㎜、奥行きが3,700㎜となっている。天井に見える撮影用ライトは今回の取材に合わせて設置したものではなく、普段から常備。適度な明るさがレイアウトをより美しく見せる。

きず、鉄橋だけで６ヶ月もかかってしまったという。

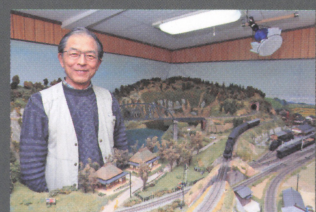
　車両はレイアウトでの好調な運転を目指して改造したものが多い。例えば固定軸はバネやイコライザーを組込んで可動式にしている。集電方法の改善も大きなポイントとなる。そして蒸気機関車は基本的にサウンド装置（天賞堂製SL1）を搭載している。汽笛を鳴らし、シュシュシュという排気音を響かせながら走る姿を見ていると長かった苦労も忘れてしまう。

　現状では樹木がまだまだ不足していると考えているが、もう十分完成の域に入っている国鉄湯の里線。長閑な情景を眺めているだけで心が休まるようだ。

PROFILE

藤田 弘 | Hiroshi Fujita

鉄道模型は小学校４～５年から３線式Ｏゲージでスタート。当時、万世橋の交通博物館や銀座の天賞堂にあったレイアウトを見て、自分でもこんなものを作りたいと夢を描いていたそうだ。



物作りが好きで日曜大工、家電製品の簡単な修理、庭いじりなど、家では便利屋を自称。野鳥観察も好きで撮影のため時折遠征することもあるという。

国鉄湯の里線の運転はレイアウトの一角に設けられた制御盤を前にして行う。線路は電気的に細かくブロック分けされ、さまざま運転に対応する様になっている。レイアウトの高さは駅構内の線路基準で床上から1,060mm。これは椅子に座ったとき、車両や情景がリアルに見える高さとしたものだ。





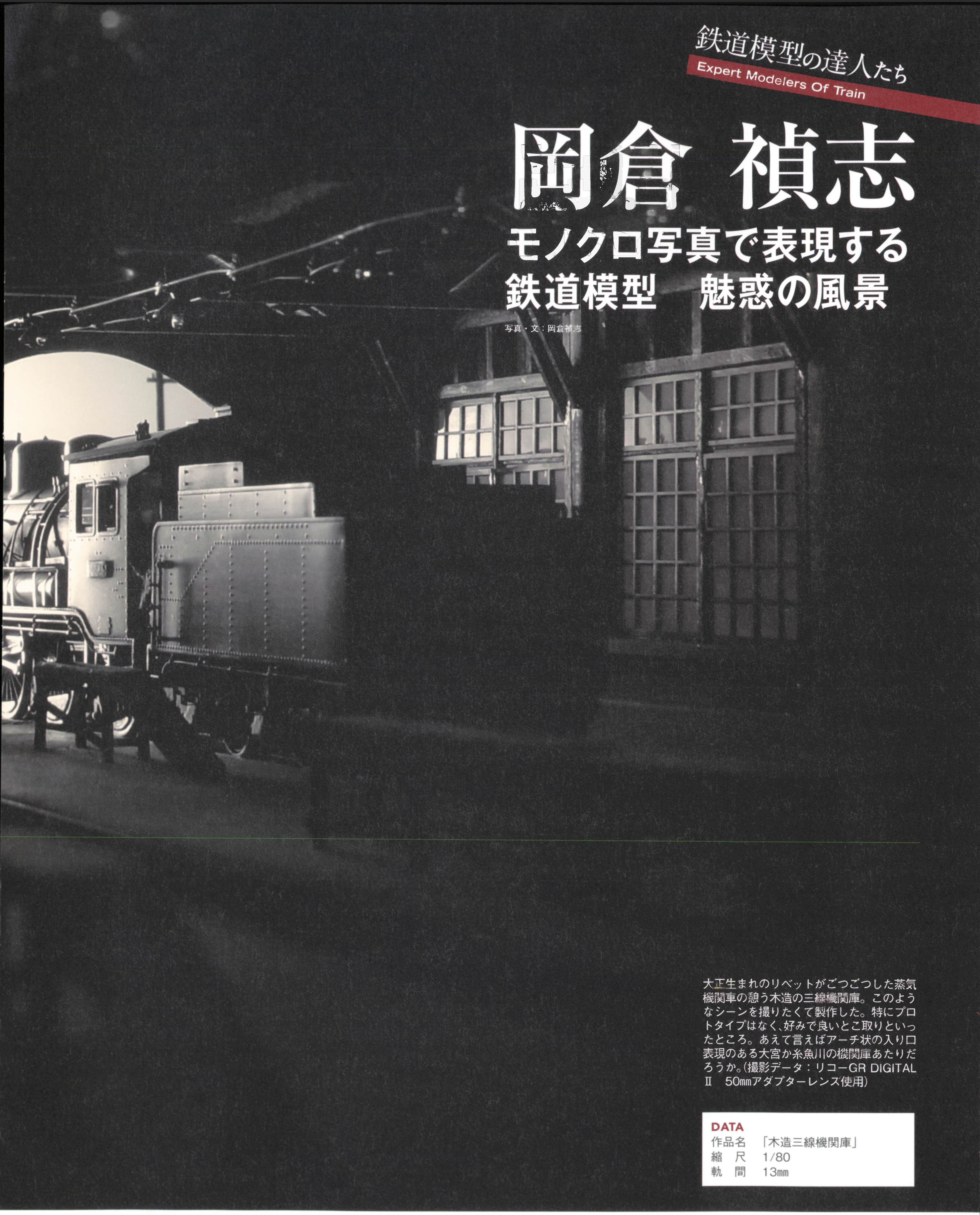


鉄道模型の達人たち
Expert Modelers Of Train

岡倉 禎志

モノクロ写真で表現する 鉄道模型　魅惑の風景

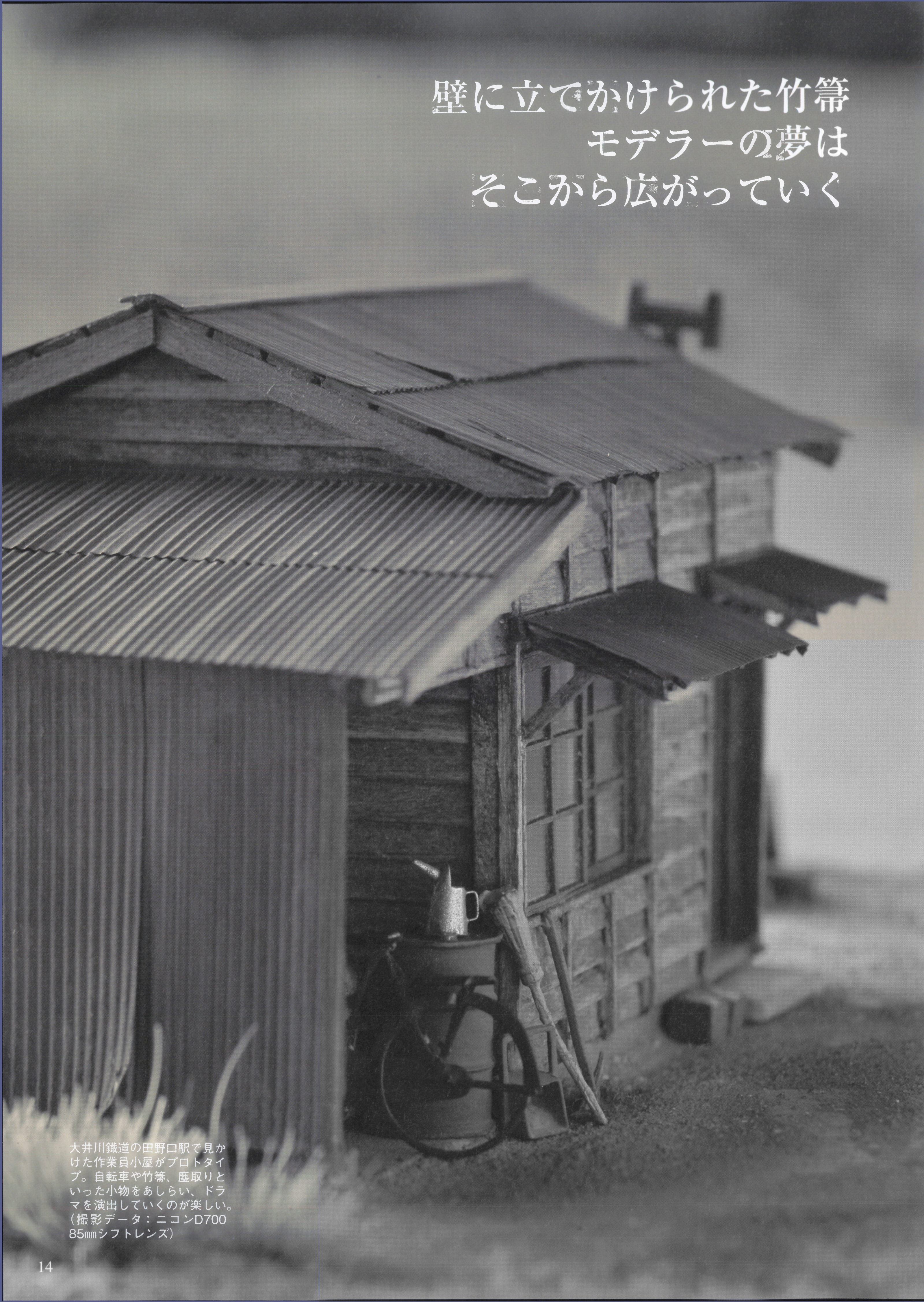
写真・文：岡倉禎志



大正生まれのリベットがごつごつした蒸気機関車の憩う木造の三線機関庫。このようなシーンを撮りたくて製作した。特にプロトタイプはなく、好みで良いとこ取りといったところ。あえて言えばアーチ状の入り口表現のある大宮か糸魚川の機関庫あたりだろうか。（撮影データ：リコーGR DIGITAL Ⅱ　50㎜アダプターレンズ使用）

DATA

作品名	「木造三線機関庫」
縮　尺	1/80
軌　間	13㎜



壁に立てかけられた竹箒
モデラーの夢は
そこから広がっていく

大井川鐵道の田野口駅で見かけた作業員小屋がプロトタイプ。自転車や竹箒、塵取りといった小物をあしらい、ドラマを演出していくのが楽しい。（撮影データ：ニコンD700 85㎜シフトレンズ）



これも同じく大井川鐵道田野倉駅で出会った保線小屋。基本の建物部よりも増築された部分や、少々前にオフセットされた物置き部分が何とも模型的で魅力にあふれている。季節は初冬といったところ。薄く雪化粧した浅間山をA4サイズにプリントして背景画としてみた。(撮影データ：ニコンD700　85㎜シフトレンズ)

こんな所で“写真”を撮りたい！ そんな思いから模型工作が始まる。

“決定的瞬間”とまではいかないまでも､誰しも“心に残る一瞬”をお持ちではないだろうか。

それは、おおよそ他人には何でもない場所であったり、物であったりするものであろうが、鉄道に限っては意外と心象を共有できるのだろうと思う。だからこそ、かつての名機、名シーンを我が物にするべく模型に手が伸びるのだ。こんなことを改めていうのは少々野暮とは思うが、鉄道の良き時代を現実に体験できた世代に時間とお金ができ始めた昨今、よりその流れを感じている。

残念ながら私は蒸機現役時代を記憶していない。しかし、本や雑誌などから受ける印象は、子どもの頃よりもなぜか年を重ねるにつれより強くなり、強烈なあこがれの対象となってきたのだ。何とか自分でもこんな所で“写真”を撮りたい！ということで作り始めたのが、私のストラクチャーシリーズだ。

最近は鉄道に限らず昭和レトロが流行りのようで、特に“鉄ちゃん”の悪い癖でどうしても時代考証に走りがちなのが少々気になってしまう。だからこそ、私はいっそあまり細かいことにこだわらずにすむ、そしてもう当時を知る人がほぼいなくなりつつある、明治、大正あたりの日本の原風景に大いに魅力を感じている。自分の中にある鉄道風景を“煙り薫る頃”というテーマで表現したいのである。

岡田 徹也

最初は絵に描き、図面化して、最後に模型へと仕上げていく 平面から立体におこすのが楽しみ

本文：岡田徹也／写真：編集部



DATA

作品名	「南アフリカ　ロボスレイルの車両たち」
縮　尺	1/87
軌　間	16.5㎜

すべては紙から始まり紙に終わる

振り返ってみると70年余り。休み休みながら模型を作り続けてきた。人間、歳をとると、やることなすこと子どもに戻るという。まさにそれを地で行く昨今である。紙から始まった模型も、プラスティックや金属材を使うようになって、次第に精密感を追うようになってゆく。ところが、このところ何か忘れ物があるような気がしてきた。あれこれ考えていくうちに、いくら精密な作りでも、架線のない空間でパンタグラフを上げて走るELやうっすらと煙の出るSLたちの姿に飽きた自分に気が付いた。

鉄道模型への情熱を失いかけていた老人に再開のきっかけを与えてくれたのは、南アフリカのロボスレイルだった。ホームを歩きまわるクジャクたち。車庫にはベティと名付けられたボスを筆頭に４羽のダチョウもいる。彼女は地面に落ちている金属部品が大好物!!　作業員はビスの１本も落とさないように整理整頓を心がけている。そんな情景の中、美しくレストアされたSL、EL、客車などが出番を待っている——。

社主のローハン・ボス氏はマニア中のマニア。正に1/1のモデルを自分好みに仕立てて楽しんでいるのである。そんな情景の想い出を楽しんでいるうち



これも同じく大井川鐵道田野倉駅で出会った保線小屋。基本の建物部よりも増築された部分や、少々前にオフセットされた物置き部分が何とも模型的で魅力にあふれている。季節は初冬といったところ。薄く雪化粧した浅間山をA4サイズにプリントして背景画としてみた。（撮影データ：ニコンD700　85㎜シフトレンズ）

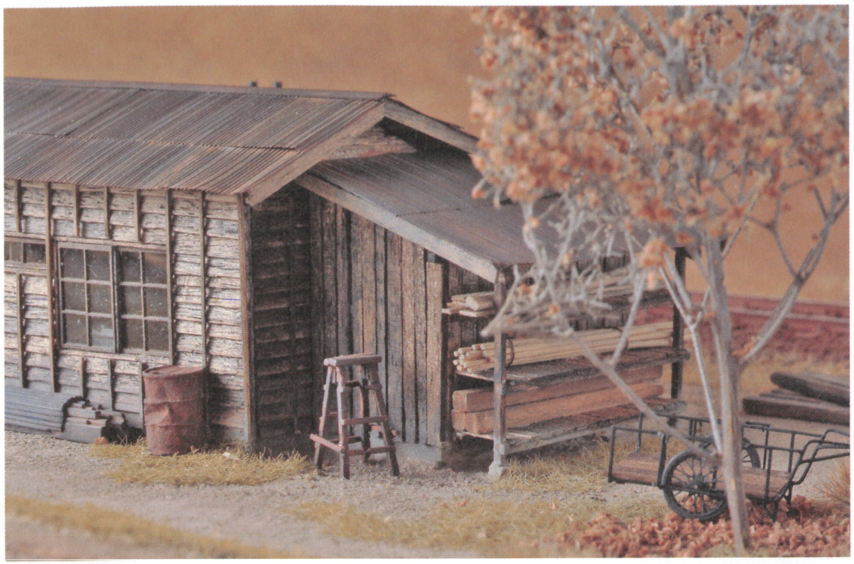
こんな所で“写真”を撮りたい！ そんな思いから模型工作が始まる。

“決定的瞬間”とまではいかないまでも、誰しも“心に残る一瞬”をお持ちではないだろうか。

それは、おおよそ他人には何でもない場所であったり、物であったりするものであろうが、鉄道に限っては意外と心象を共有できるのだろうと思う。だからこそ、かつての名機、名シーンを我が物にするべく模型に手が伸びるのだ。こんなことを改めていうのは少々野暮とは思うが、鉄道の良き時代を現実に体験できた世代に時間とお金ができ始めた昨今、よりその流れを感じている。

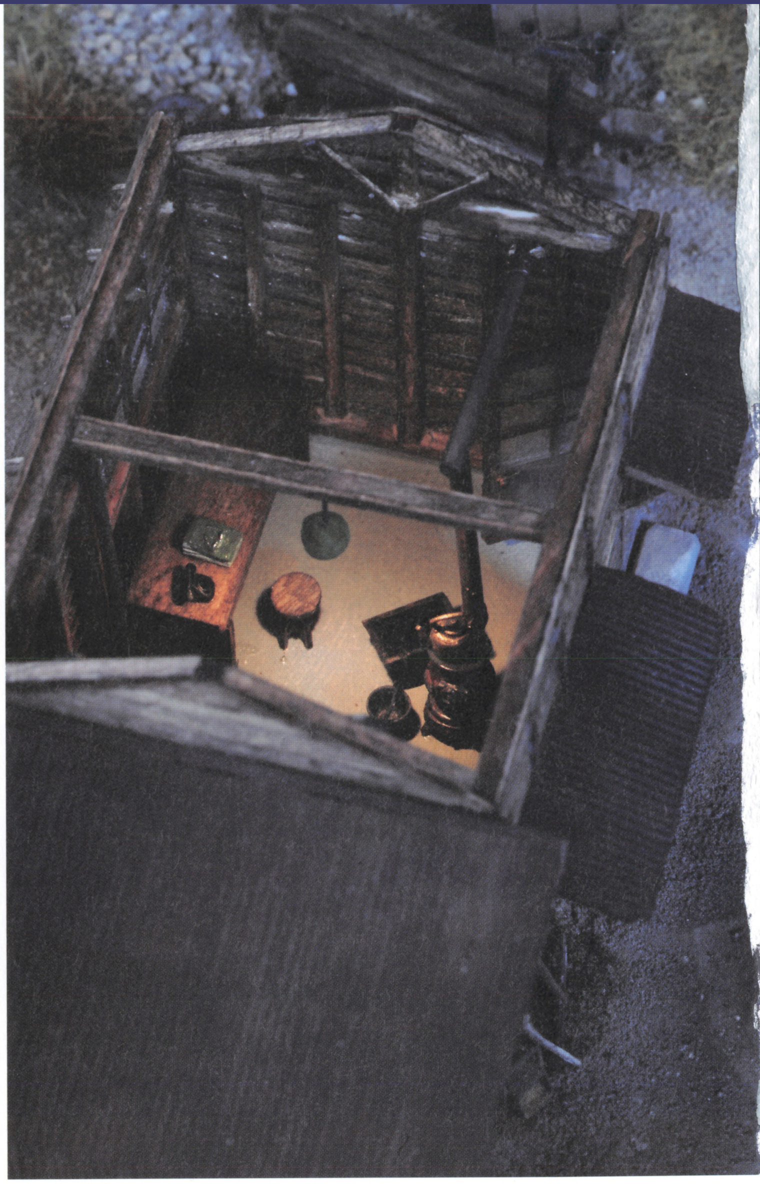
残念ながら私は蒸機現役時代を記憶していない。しかし、本や雑誌などから受ける印象は、子どもの頃よりもなぜか年を重ねるにつれより強くなり、強烈なあこがれの対象となってきたのだ。何とか自分でもこんな所で“写真”を撮りたい！ということで作り始めたのが、私のストラクチャーシリーズだ。

最近は鉄道に限らず昭和レトロが流行りのようで、特に“鉄ちゃん”の悪い癖でどうしても時代考証に走りがちなのが少々気になってしまう。だからこそ、私はいっそあまり細かいことにこだわらずにすむ、そしてもう当時を知る人がほぼいなくなりつつある、明治、大正あたりの日本の原風景に大いに魅力を感じている。自分の中にある鉄道風景を“煙り薫る頃”というテーマで表現したいのである。



14ページで紹介した大井川鐵道田野口駅の作業員小屋。外観の再現だけでなく、内部のディテールや照明も作り込み、小屋組みの構造までもプロトタイプを参考に仕上げている。こういった情景のディテールを再現するには、今やエコーモデルのアクセサリー類なくしては考えられない。例えばリヤカー、脚立、ストーブ、机の上の黒電話なども同社の製品。本当に重宝している。時間のある時にまとめて色を入れておくと作業効率アップとなる。また、最近のLEDの発色は満足できるところまで来た。こんな小屋でも照明の楽しみがある。





15ページで紹介した大井川鐵道田野口駅の保線小屋。A4サイズのベースに作り込まれたジオラマだが、背景を付けて写真に撮るとその世界観がぐっと広がって見える。





右の情景のプロトタイプとした大井川鐵道田野口駅の作業員小屋。旅先で自分にとって魅力的な建物に出会った時は、必ず記録するようにしている。



模型に作った大井川鐵道田野口駅の作業員小屋。ベースはハガキ大の合板。風雨に耐えてきた建物の枯れた感じを表現するため、草なども彩度を落として作ってある。

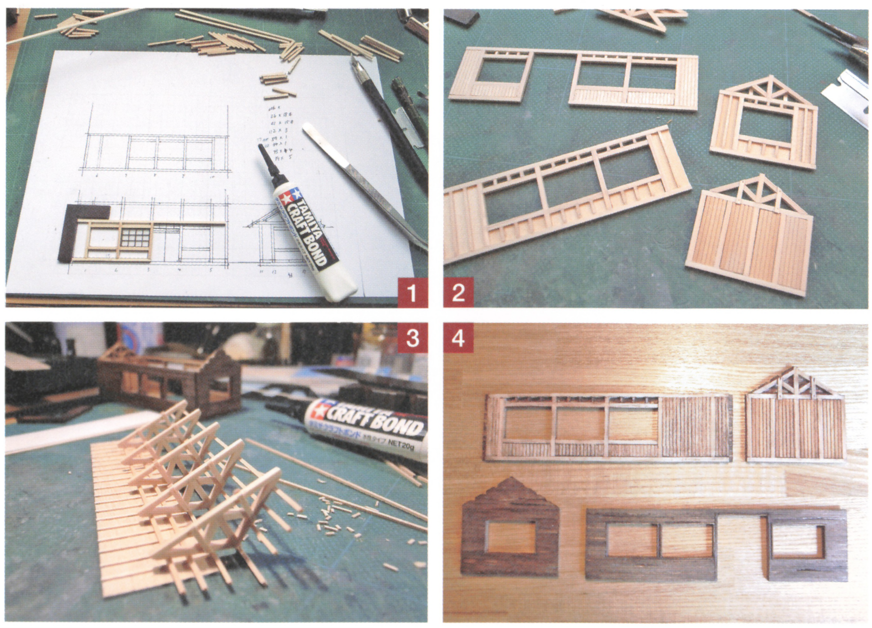
小さな小屋の一つでも細部まで精緻な観察を注ぎ“煙り薫る頃”をめざす

小さなセクションの製作ならモチベーションも維持できる

鉄道模型は走らせて楽しむことが最終目的と思われがちだが、そこに至るプロセスも楽しんでしまうという考え方から「写真撮影」も大いにありではないだろうか。

Nゲージならいきなりレイアウト制作に入りやすいが、車両や建物に細密感を求めると、どうしてもHOゲージあたりの縮尺になってしまう。HOでの本格的なレイアウトとなると用地などの条件を整えるのが難しくなるが、セクションであれば何とかなる。ダイナミックな風景の表現には向いていないが、その分、作り込みを大いに楽しむことができる。そして何より、セクション程度なら製作のモチベーションも維持でき、完成まで持ち込めるというわけだ。

仕事柄、目がレンズになってしまっているようなので、あまり一般的な意見として伝えづらいところもある。しかし、自分の視線を1/80にして、自分で作り上げた“あこがれの世界”を散策する。鉄道模型にはそんな楽しみ方もあるのだ。



1建物の模型を作る工程。これは完成作例とは別の建物だ。まず方眼紙に模型原寸で柱の組み方を描く。この図面から読み取った寸法に角材を切り出し、図面上で組んでいく。接着剤はタミヤクラフトボンドが使いやすい。組み立ての際はスコヤを使い直角を出す。2柱が完成したところで壁板も取り付けていく。3屋根の小屋組みが、一番手間がかかる。同一寸法のパーツを量産するのが大変で、正確に組み上げるのも難しい。4壁面ができたところで塗装。木の質感を出すため、薄く溶いた塗料を染めるように塗っていく。エコーモデルのSTカラーなども良く使う。その後、家の形に組み上げる。

PROFILE

岡倉 禎志 | Tadashi Okakura

1963年、東京生まれ、カメラマン。小学1年の時、カツミ模型店（現カツミ）のEB電機を手にしたのが鉄道模型との出会い。1985年『とれいん』に発表したC12の憩うジオラマから鉄道模型を写真で表現する楽しさを開眼。『鉄道模型趣味』などにも作品を発表。趣味とする鉄道模型との縁から『写真と図面で楽しむ鉄道模型　珊瑚模型店45年の仕事』（二玄社）などの撮影も担当している。

岡田 徹也

最初は絵に描き、図面化して、最後に模型へと仕上げていく平面から立体におこすのが楽しみ

本文：岡田徹也／写真：編集部



DATA

作品名　「南アフリカ　ロボスレイルの車両たち」
縮　尺　1/87
軌　間　16.5㎜

すべては紙から始まり紙に終わる

振り返ってみると70年余り。休み休みながら模型を作り続けてきた。人間、歳をとると、やることなすこと子どもに戻るという。まさにそれを地で行く昨今である。紙から始まった模型も、プラスティックや金属材を使うようになって、次第に精密感を追うようになってゆく。ところが、このところ何か忘れ物があるような気がしてきた。あれこれ考えていくうちに、いくら精密な作りでも、架線のない空間でパンタグラフを上げて走るELやうっすらと煙の出るSLたちの姿に飽きた自分に気が付いた。

鉄道模型への情熱を失いかけていた老人に再開のきっかけを与えてくれたのは、南アフリカのロボスレイルだった。ホームを歩きまわるクジャクたち。車庫にはベティと名付けられたボスを筆頭に４羽のダチョウもいる。彼女は地面に落ちている金属部品が大好物!!　作業員はビスの１本も落とさないように整理整頓を心がけている。そんな情景の中、美しくレストアされたSL、EL、客車などが出番を待っている――。

社主のローハン・ボス氏はマニア中のマニア。正に1/1のモデルを自分好みに仕立てて楽しんでいるのである。そんな情景の想い出を楽しんでいるうち



ダチョウが闊歩するロボスレイルのキャピタルパーク駅で購入した１両の客車が始まりだった。機関車や続きの客車も再現しようと鋭意作業中である。







1ロボスレイルの客車たちはコンパートメントを中心とした豪華編成。どうせなら車内も再現しようと作り込みが始まった。写真はようやく形を成してきた展望車。一角にはバーもあり、バーテンダーが客待ち中。彼が失職しないよう、もう少し乗客を増やす予定。2オープンスタイルの展望デッキにはカップル。ご夫婦で訪ねた思い出のシーンでもある。3一昔前のハリウッド女優を思わせる派手な女性も良く似合う。実際に出会ったが、本業は歌手とか。オーラがあった。



DATA
作品名　「南満洲鉄道の車両たち」
縮　尺　1/87、1/160
軌　間　16.5㎜、9㎜

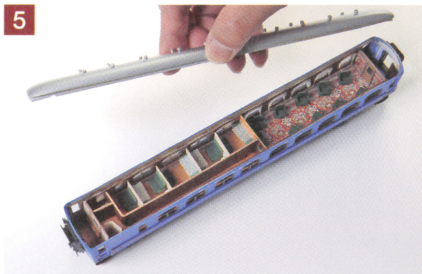
左上からケハ7形（日本初のトルコンディーゼルカー）、ダブサ形蒸気機関車（HO、N）、パシナ形蒸気機関車（N）、キハ3形気動車（N）、デキ2形電気機関車（HO）。



岡田さんが日本に戻ってきてからは長らく東京の山手で過ごした。渋谷から玉川通りを走って二子玉川などへ向かっていた玉電（東京急行電鉄）との付き合いも長い。玉電をモチーフとした絵も模型も数多くある。写真は1/80サイズで作ったペーパー製の70形電車。

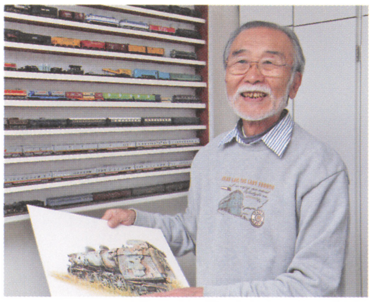








4 1920年代に登場した中国初の寝台列車。5両編成で運転され、写真は談話室付きの1等寝台車。後に「泰山」と名付けられた展望車と共に張作霖将軍に愛用されたことでも知られる。1928年6月4日に起こった張作霖爆殺事件という悲劇の舞台となったのもこの客車だった。5 1/87サイズで作った客車の屋根は取り外し式。6 内装も当時の資料を探して作り込んだ。



作り上げた模型は自作の飾り棚に展示。手に持つのは板門店を訪ねたときに発見したマテイ形蒸気機関車を描いたもの。子どものころ見た南満洲鉄道の名機の残骸に心が痛んだ。

実物に触れた想い出が模型と共に蘇る

に、いつしか自分の手も動き出していた。

長い歳月を経ても忘れられない車両たちもいる。少年期を過ごした中国大陸で出会った鉄道の車両たちだ。古くは旧南満洲鉄道や華北交通、最近では西蔵鉄路まで。いろいろな車両を手あたり次第、気の向くままに絵に描き、図面化し、模型にしてきた。HOだったり、Nだったり、スケールも気ままだが、平面から立体におこしていく作業がおもしろい。模型を作ることにより、実物の設計者の心の一端にも迫ることができる。デザインの仕事に携わってきた業なのか、この丸い窓は、この車体のカーブはどうして生まれたのかと、密かな楽しみが広がっていく。さらに1両1両の車両には奥の深い物語も秘められている。資料を探り、その背景に踏み込んでいくのも楽しみだ。

模型を作っていくと、実物に触れた想い出も蘇えってくる。オーストラリア、南米、エジプトなど、それぞれの地域の人々の発想の違いなどもおもしろく思い出す。インドのニューデリーで出会ったモデラーは有名なダージリン・ヒマラヤ鉄道のSLを質の悪いボール紙で作っていた。「日本では昔、この紙を馬糞紙と呼んでいた」というと「これは象の糞から作った紙だ」という。分けてもらったサンプルの紙は、今も工作机で出番を待っている。

PROFILE

岡田徹也 | Tetsuya Okada

1932年、中国天津市生まれ。工業デザイナー。工芸財団理事、桑沢デザイン研究所講師などを歴任。富士急バス、東京モーターショウ、由比宿場館などのデザインも手掛ける。その一方、鉄道に造詣が深いことから『鉄道ファン』『鉄道ジャーナル』、ヤマケイ鉄道シリーズなどの編集にも携わっている。

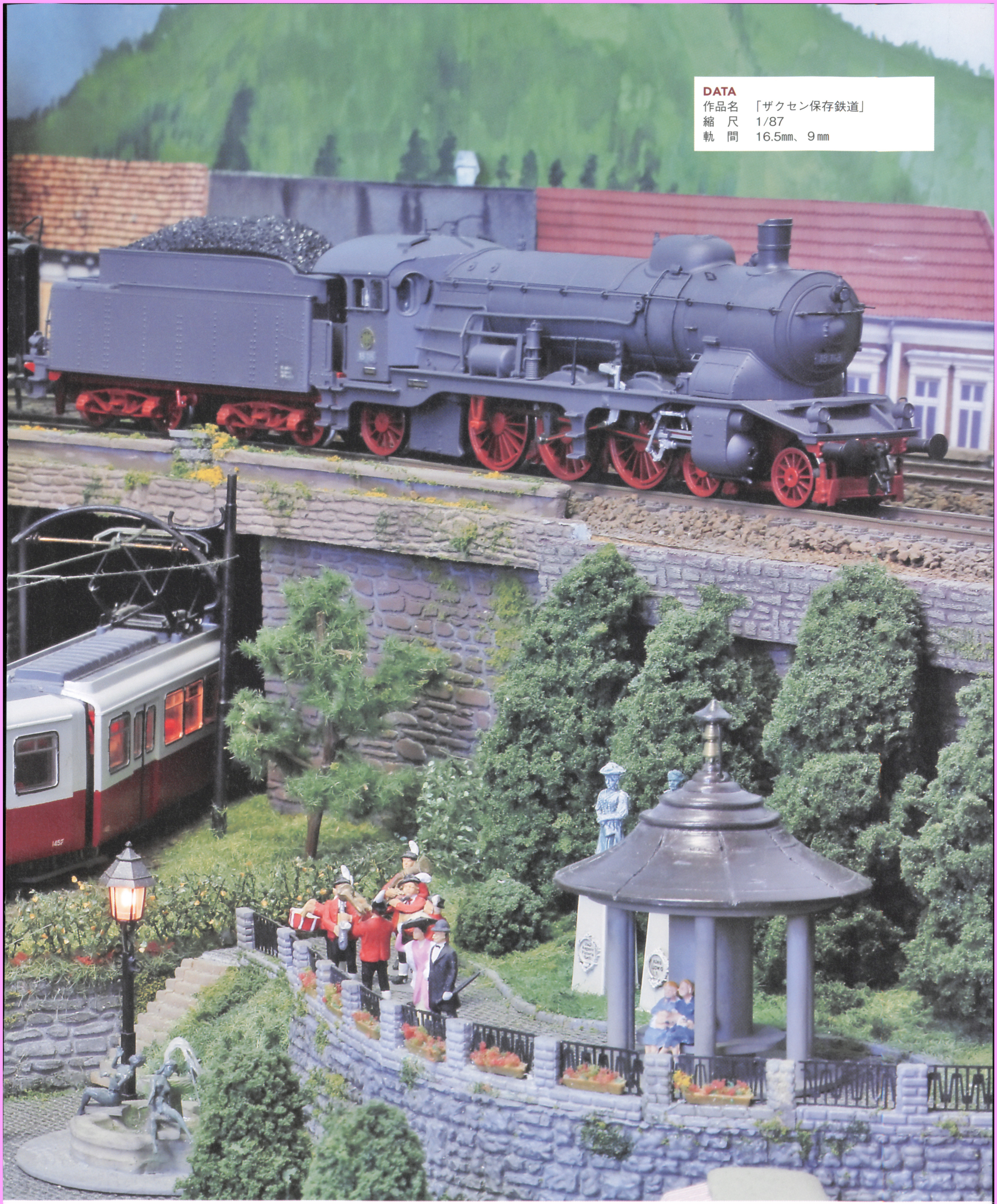
畑川 政勝

古き良き時代のドイツ ドレスデンの町が甦る

本文：松本典久／写真：編集部

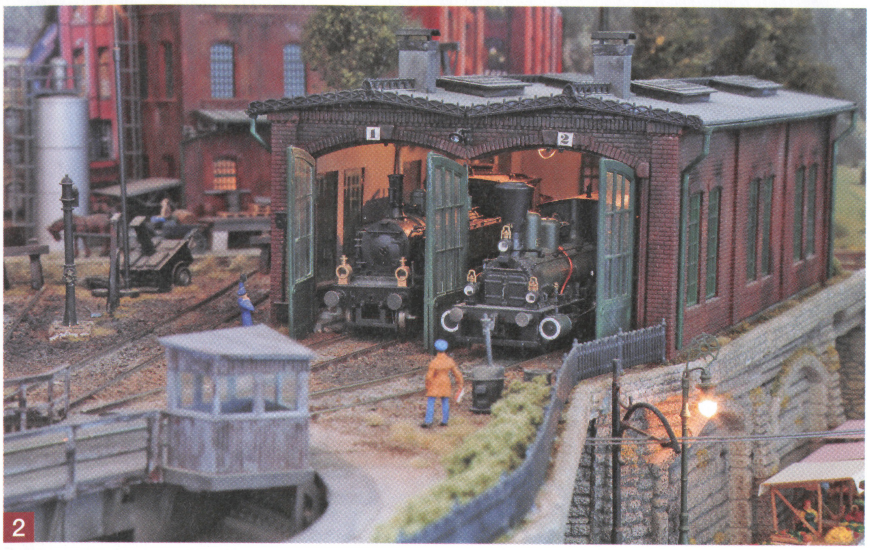


市街地に位置する小さな公園。ドレスデンのウエスティンホテルにあった噴水などをイメージしながら作り上げたもの。テーブル上のコーヒーセットなど精緻に作り込まれている。隣接する通りには市電、そして石積みとなった高架には蒸気列車が走り抜けていく。

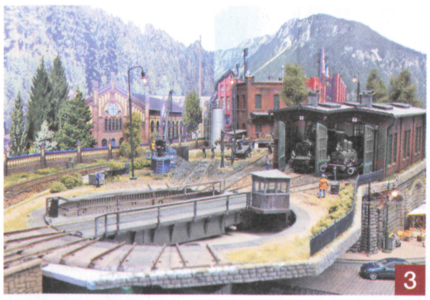


DATA
作品名　「ザクセン保存鉄道」
縮　尺　1/87
軌　間　16.5㎜、9㎜

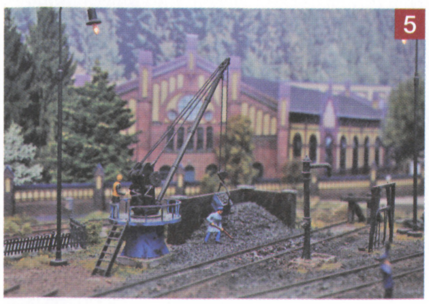




1中央駅と隣接する機関区。中央駅の駅舎はファーラーのキットを組んだもの。ホームにある円柱上の広告塔は角材を旋盤で加工して製作。くるくると回転するのが楽しい。2クラシカルな機関庫はフォルマーのキット。製品のままでは大きすぎるため、かなり短くした。









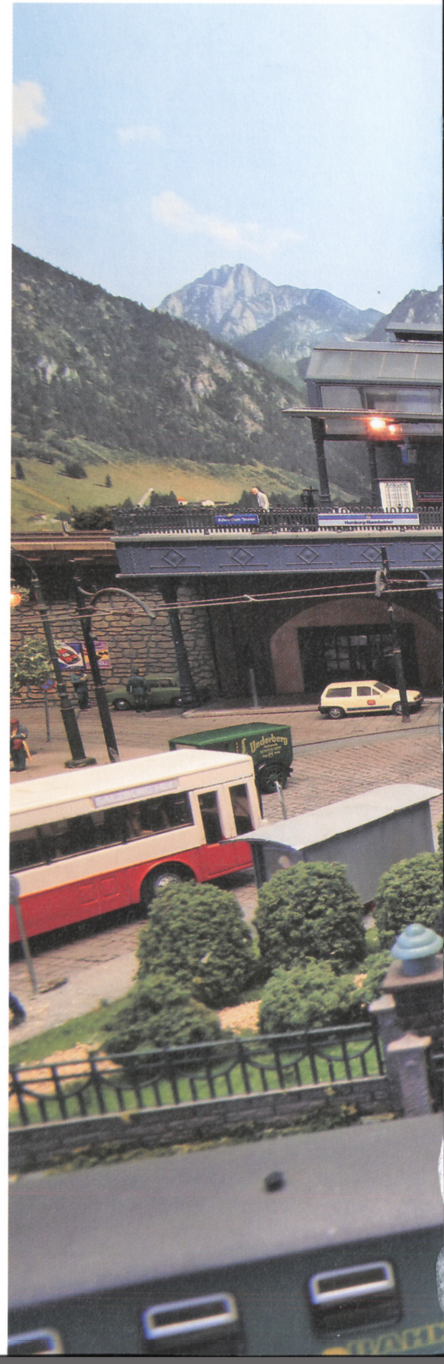
3機関区の中央を占めるターンテーブルはフライッシュマン製。4ホームの人形は動き回る仕掛け。これはファーラーの製品を組込んだもの。車両以外に動くギミックがあると楽しい。5機関区にある給炭用クレーン。ワイヤーは糸を使ったが、ピンと張るのが難しい。バケットを鉛製にして自重ですっきり張っている。6中央駅前に停車中の路面電車。石畳に注目。





7郊外にある軽便鉄道の駅。駅前広場にはちょっとした屋外市場の風情。こまごまとした作り込みに目を見張る。8線路脇の作り込みもリアルな雰囲気をかもしだす。公園側は石垣で仕切られ、草花に埋もれた感じもいい。

のどかな情景を走る小さな機関車
古き良き時代のドイツに思いを馳せる



心に描く夢の世界を三次元に作り上げていく

「まだ、蒸気機関車が全盛だった古き良き時代のドイツ。小さな機関車がかわいい客車を牽いてのどかな景色の中を走る……。そんな情景にあこがれるんです」というのは、京都在住の畑川政勝さんだ。

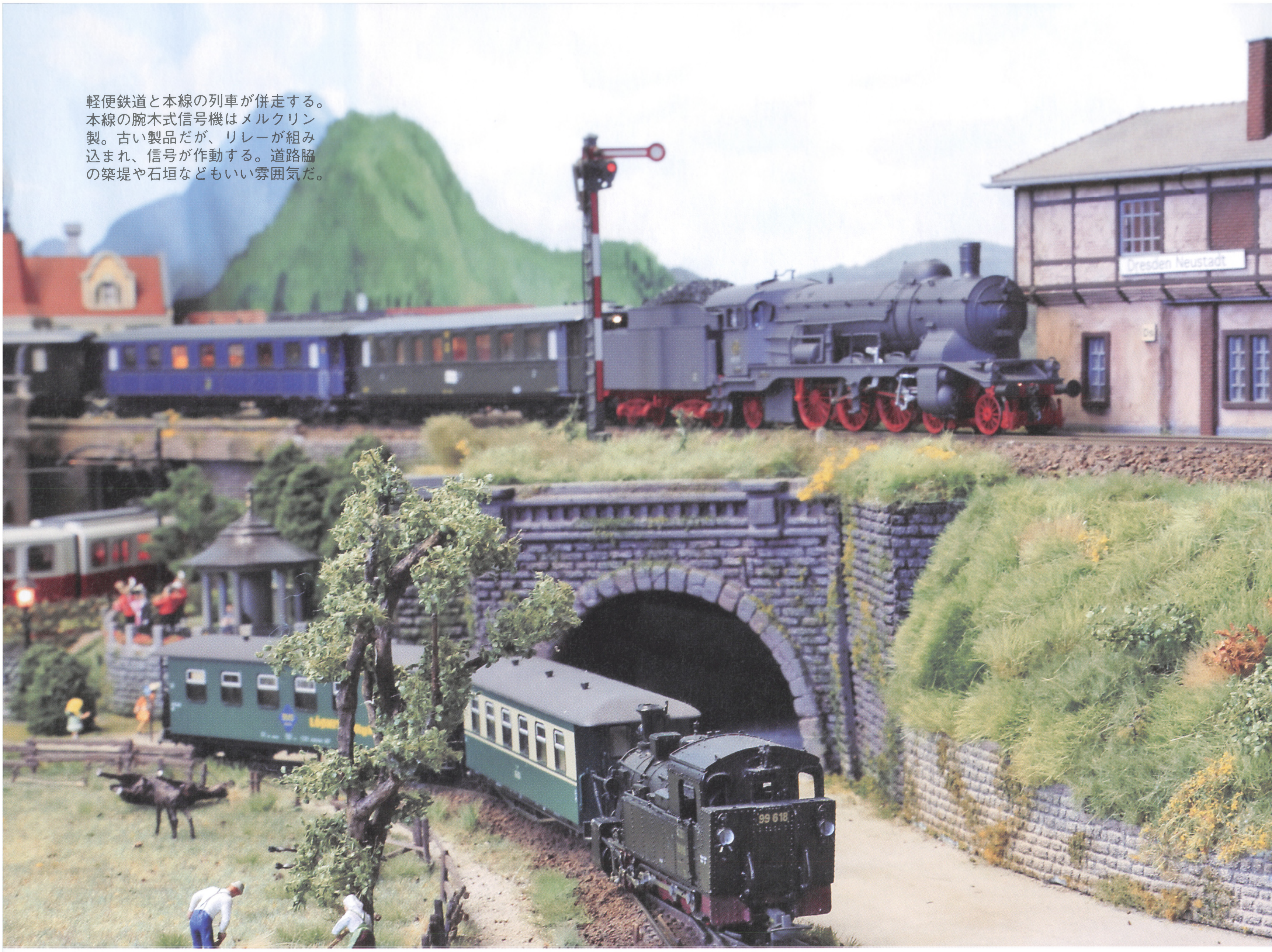
畑川さんは鉄道模型に触れて間もなく、レイアウトの持つ魅力にはまった。心に描いた夢の情景の中を車両が気持ちよく走っていく。そこに魅力を感じたのだ。1965年には最初のレイアウトに着工。以来、数多くのレイアウトを作り上げてきた。初期は日本の情景がメインだったが、20年ほど前からはドイツを中心とするヨーロッパの情景になっている。実物の鉄道にも興味を持つ畑川さんは、現地を訪ねて新たなテーマを見出したのだ。

それは情景の素晴らしさだけではない。鉄道模型先進国ドイツならではの懐の深さに触れたのだ。彼の地では車両に留まらず、鉄道情景に欠かせないさまざまなものが製品化されている。もちろん、車両は調子良く走ることが基本。しかもHOゲージで半径360㎜なんていうNゲージ並みの急カーブもスムーズに走れる。レイアウトを楽しむためには、急カーブをクリアしてこそ可能性が広がるのだ。こうしたハード面での支援も受け、ヨーロピアンタイプの虜となっていったのだ。

現在のザクセン保存鉄道は3畳の納戸に収められたHOゲージのレイアウトだ。実はここには前作のレイアウトがあった。その基盤を活かし、線路や情景を新規につくったもの。2009年に着工、およそ２年間で現在の姿に仕上がっている。

中央駅の駅前にはツヴィンガー公園が広がり、右手には旧宮廷教会も建っている。この教会は畑川さんによるスクラッチビルド。窓辺に立つ聖者の像もリアルだ。





軽便鉄道と本線の列車が併走する。本線の腕木式信号機はメルクリン製。古い製品だが、リレーが組み込まれ、信号が作動する。道路脇の築堤や石垣などもいい雰囲気だ。



上の列車が走りすぎるところを追い打ちして撮影。ここでは川が見せ場となっている。川底を塗装した後、レジンを流し、最後はジェルメディウムで仕上げてある。

DCCサウンドと環境音で聴覚的にも豊かな情景を演出

ザクセン保存鉄道が前作と大きく変わったのは本線のカーブ半径。たまには手持ちの日本型車両も走らせてやりたいと考えているが、いかんせん半径360㎜では厳しい。そこでこれは半径420㎜へと緩くしてある。それでも製品そのままでは走行困難、日本型車両はすべて急カーブ対応に改造されている。

このほか、本線での運転はDCからDCC対応となった。この10年ほどで欧米の製品は基本的にDCC制御となっている。しかもサウンド付き。一度その魅力を知ってしまったら後戻りはできない。

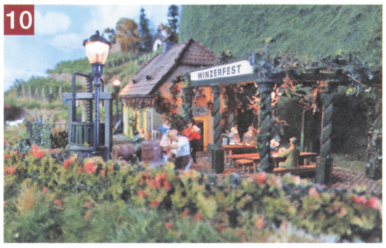
情景ではザクセン地方の首都ドレスデンのイメージを盛り込むことが最大のテーマ。中央駅はファー



数多くのギミックを取り込んだ 秀逸な作りのレイアウト



9



10



11

9 農家は厚紙で自作したもの。壁の表現は石膏。この農家では脱穀機や手押しポンプなども見もの。これらもすべて自作している。10 ブドウ園の中腹にあるレストラン。この情景を作りたくて、入り口側のスペースを山にしたとか。11 小川にある水門とトウモロコシの畑。水門のハンドル部は真鍮線、コンクリート部分はスタイロフォームで作っている。トウモロコシはブッシュ製。こんな作り込みもやり始めると止まらなくなる。

ラーのキットを改造したものだが、駅前のツヴィンガー公園に面してそそり立つ旧宮廷教会はプラシートなどから自作。この建物だけで半年かかってしまったという。駅周辺の道路は石畳。パテで仕上げた表面をケガキバリで彫刻したもの。単調で辛い作業だったが、映画『シェルブールの雨傘』のイメージを盛り込んだオレンジ系に塗ると、いい雰囲気になった。畑川さんにとってお気に入りのポイントだ。

そのほか、動きのあるギミックも数多く取り込んである。道路を走るファーラーのバスは前作からの移設品だが、駅のホームを歩きまわる乗客、出発合図の標識をかざす駅員、実際に水の流れる水車などが追加された。街のあちこちから情景音も流れ、列車のDCCサウンドと共にリアルで見どころの多いレイアウトしてまとめられている。

PROFILE

畑川 政勝 | Masakatsu Hatagawa

1945年生まれ。鉄道模型は小学5年のころ、Oゲージのブリキの車両から始めた。35歳ごろにHOナローのレイアウト「駿遠線」を完成させ、これ以後色々なレイアウトを製作してきた。本職は診療放射線技師。53歳で工学博士取得により退職後は大学で非常勤講師となり、この収入で鉄道模型が続けられている。



鉄道模型の達人たち
Expert Modelers Of Model Railway

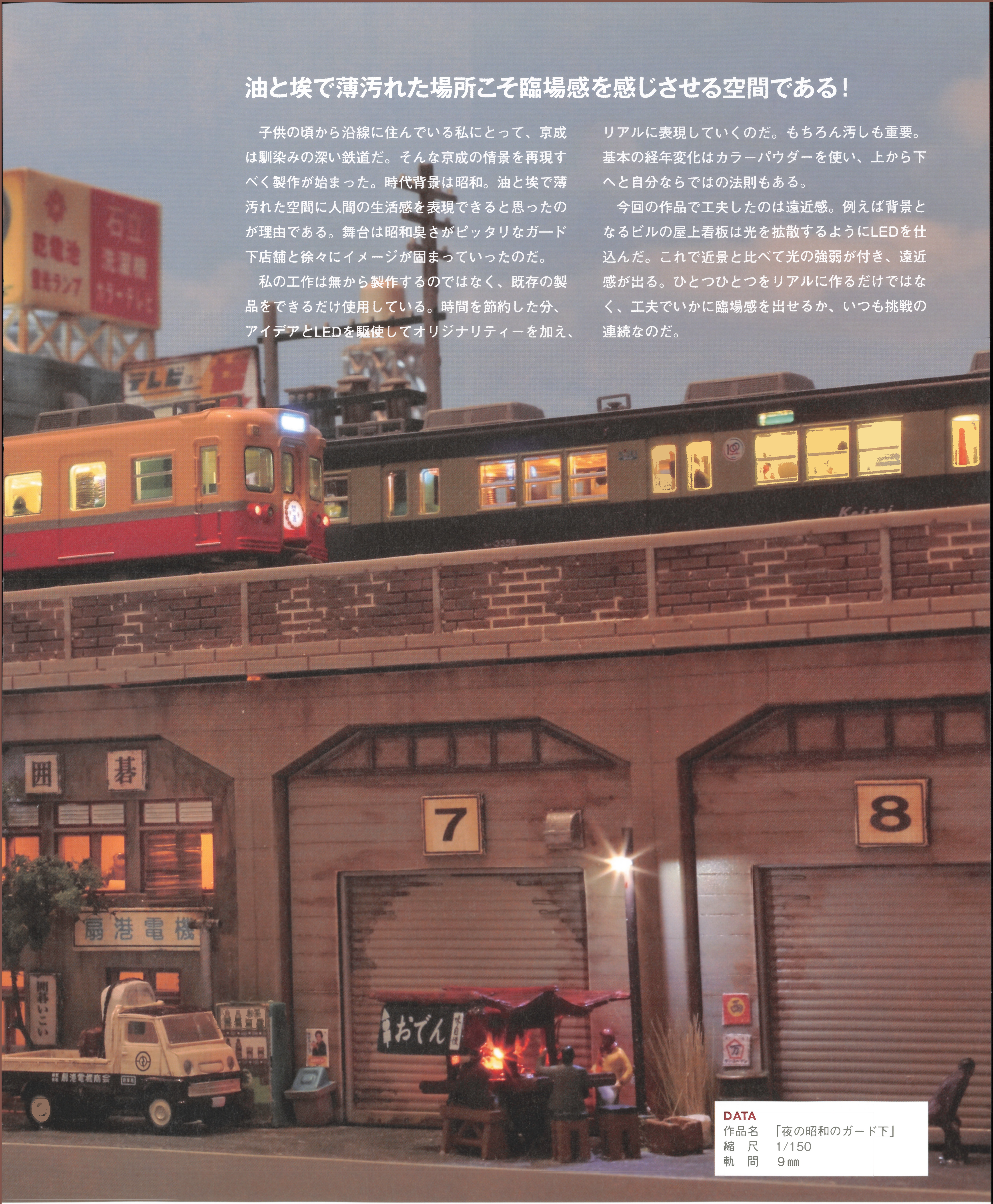
石川 博康

数々のドラマが生まれたガード下 30個のLEDで夜の昭和の世界へ

本文：石川博康／写真：編集部



京成青砥から日暮里あたりをイメージしたガード下の情景。メインの店舗は山口板金。壁にはボンネットやルーフが立てかけられている。昭和を象徴する三輪トラックの荷台には、車のパーツを乗せている。もちろん店の娘の名前は「百恵」だ。



油と埃で薄汚れた場所こそ臨場感を感じさせる空間である！

子供の頃から沿線に住んでいる私にとって、京成は馴染みの深い鉄道だ。そんな京成の情景を再現すべく製作が始まった。時代背景は昭和。油と埃で薄汚れた空間に人間の生活感を表現できると思ったのが理由である。舞台は昭和臭さがピッタリなガード下店舗と徐々にイメージが固まっていったのだ。

私の工作は無から製作するのではなく、既存の製品をできるだけ使用している。時間を節約した分、アイデアとLEDを駆使してオリジナリティーを加え、リアルに表現していくのだ。もちろん汚しも重要。基本の経年変化はカラーパウダーを使い、上から下へと自分ならではの法則もある。

今回の作品で工夫したのは遠近感。例えば背景となるビルの屋上看板は光を拡散するようにLEDを仕込んだ。これで近景と比べて光の強弱が付き、遠近感が出る。ひとつひとつをリアルに作るだけではなく、工夫でいかに臨場感を出せるか、いつも挑戦の連続なのだ。

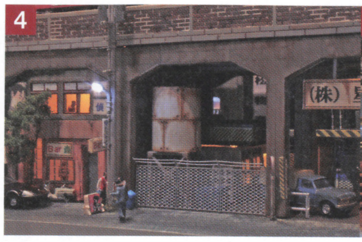
DATA
作品名　「夜の昭和のガード下」
縮　尺　1/150
軌　間　9㎜







1前ページでも紹介した「山口板金」。雑然と置かれたボンネットやルーフが生活感を演出。2LEDが照らすビルの屋上看板は、当時実在した看板を縮小コピー、錆や経年変化による汚れ加工を施している。実在の看板を使用することでよりリアル感が増す。電車の中にも乗客を乗せている。3ガード下には屋台も欠かせない。





4直線構成が多い中で丸い錆びたタンクがアクセントに。その横にある「BAR森」では窓越しにママの姿も見える。もちろん、ママの名は「昌子」である。5ガード下の一部はブチ抜き、背景のビルが見えることで奥行感を出している。今では少なくなった易者さんも昔はこんな場所でよく見かけられた。

時代は昭和、ガード下の店舗には数々のドラマがあった

この作品のテーマは「昭和」。その時代の空間をいかに凝縮して端的に切り取り作品に盛り込むかでリアル感が違ってくる。

作品にはテーマに合わせた幾つかのストーリーが隠れている。例えば、「BAR森」のママが店前に乗りつける車はフェアレディZ。その横にはベスパ(風)。乗っているのは2階の探偵、そう探偵はベスパに乗っていた時代だったのだ。頷いた人は同じジェネレーションなのでは？

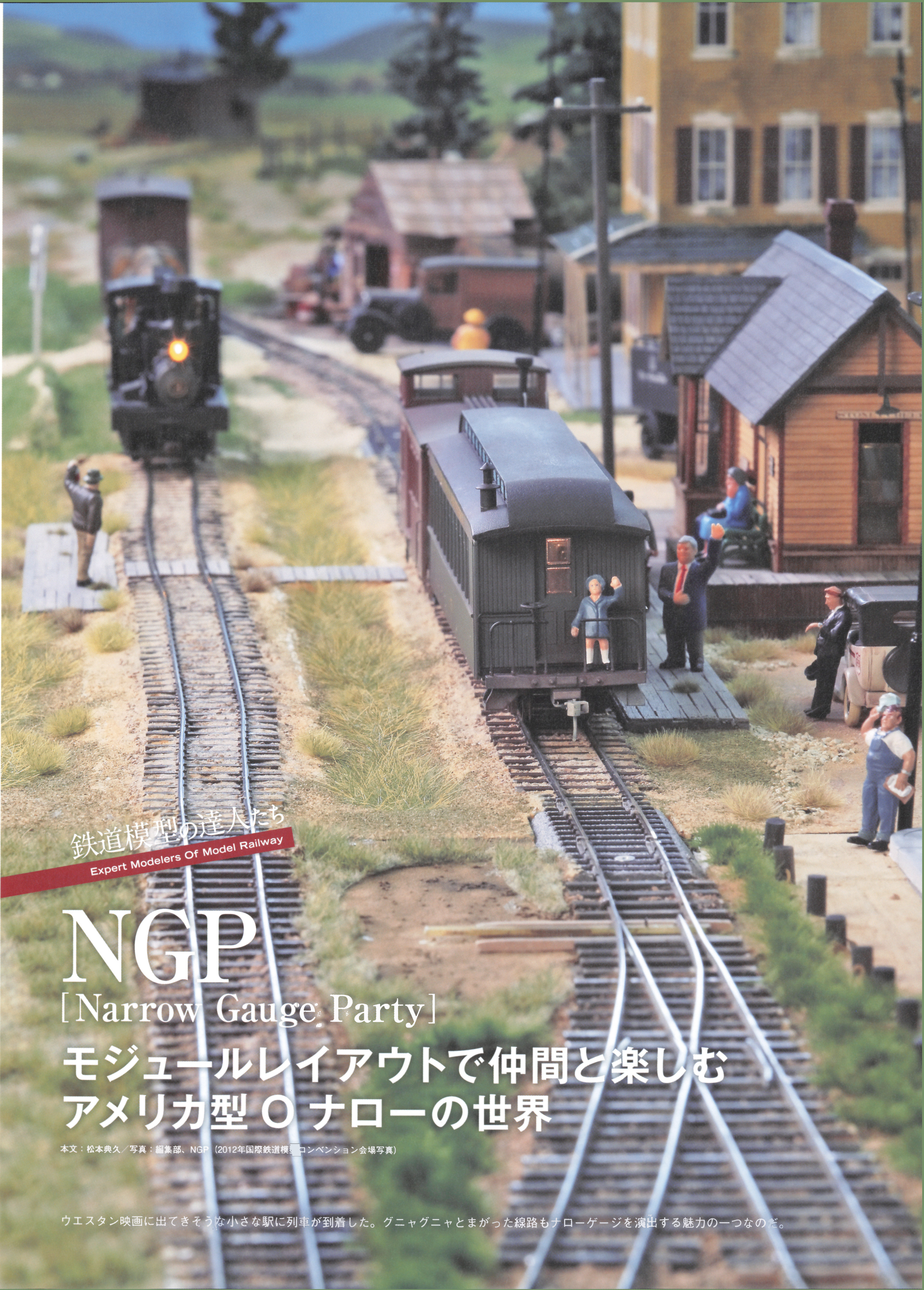
そして、もう、お気付きの方もいるのでは？　この中には当時の人気歌手にちなんだ店の名前が幾つか登場しているのだ。そのうちの一軒は先ほどの「BAR森」。そして自動車修理工場の「山口板金」。と来れば！お次は？……写真では隠れて見えない背景のビルにテナントとして入っている「桜田貿易」の看板もちゃんとある。昭和の中三トリオがこんなところに隠れている。私事で恐縮だが「石川模型」も同じビルで営業中。

また、人形を置くときは必ずその存在意義を考えている。屋台からちょっと離れてお客さんがうつむいているが、これは不法なことをしているのではない。捨て犬を見つけ、どうしたものかと迷っている心優しい人なのだ。こんな自分の思い出やエピソードを作品の中に織り込み、ストーリーを考えながら製作するのも楽しみのひとつ。

PROFILE

石川 博康 | Hiroyasu Ishikawa

1958年生まれ。千葉県在住。子供の頃にG・アンダーソンのテレビ「サンダーバード」のリアル感に影響を受け、プラモデルのウェザリングにはまる。その後シーンとして表現する鉄道模型へ、さらには情景模型へと幅を広げる。現在はLEDの表現力に魅力を感じ、夜景のジオラマを中心として製作。「さかつうギャラリー」でウェブ個展を発信中。
http://www.sakatsu.jp/gallery/koten/ishikawahiroyasu.html



鉄道模型の達人たち
Expert Modelers Of Model Railway

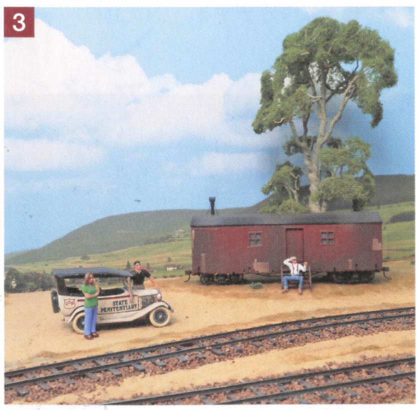
NGP
[Narrow Gauge Party]
モジュールレイアウトで仲間と楽しむ アメリカ型 O ナローの世界

本文：松本典久／写真：編集部、NGP（2012年国際鉄道模型コンベンション会場写真）

ウエスタン映画に出てきそうな小さな駅に列車が到着した。グニャグニャとまがった線路もナローゲージを演出する魅力の一つなのだ。

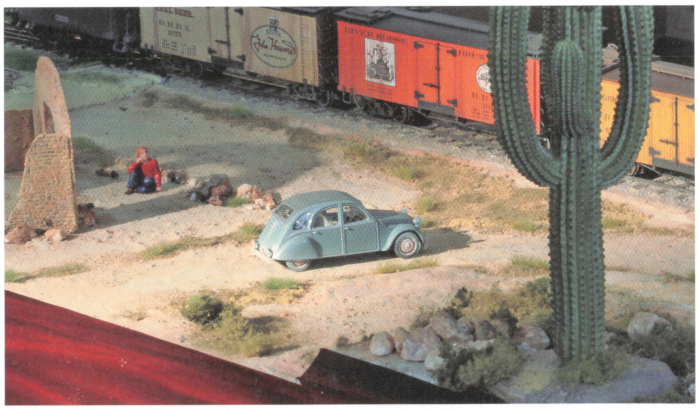


踏切に差し掛かったSL。この機関車はナローファンには有名なアメリカのD&RGW鉄道のK-27。実物は軌間910㎜だが、On30ではおおらかに同居。(M氏製作)



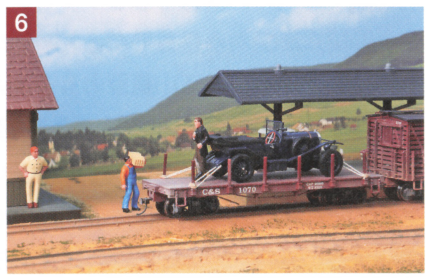


3客車を使った宿泊施設のある情景。この客車は台車をはいており、線路に載せればそのまま移動可能となる。現場を移動する森林鉄道やサーカス列車などで実際に使われている。(Y氏製作)
4 33ページで全景を紹介したモジュール。エポキシ樹脂とリキテックスのジェルメディウムで表現した小川が見せ場。(S氏製作)

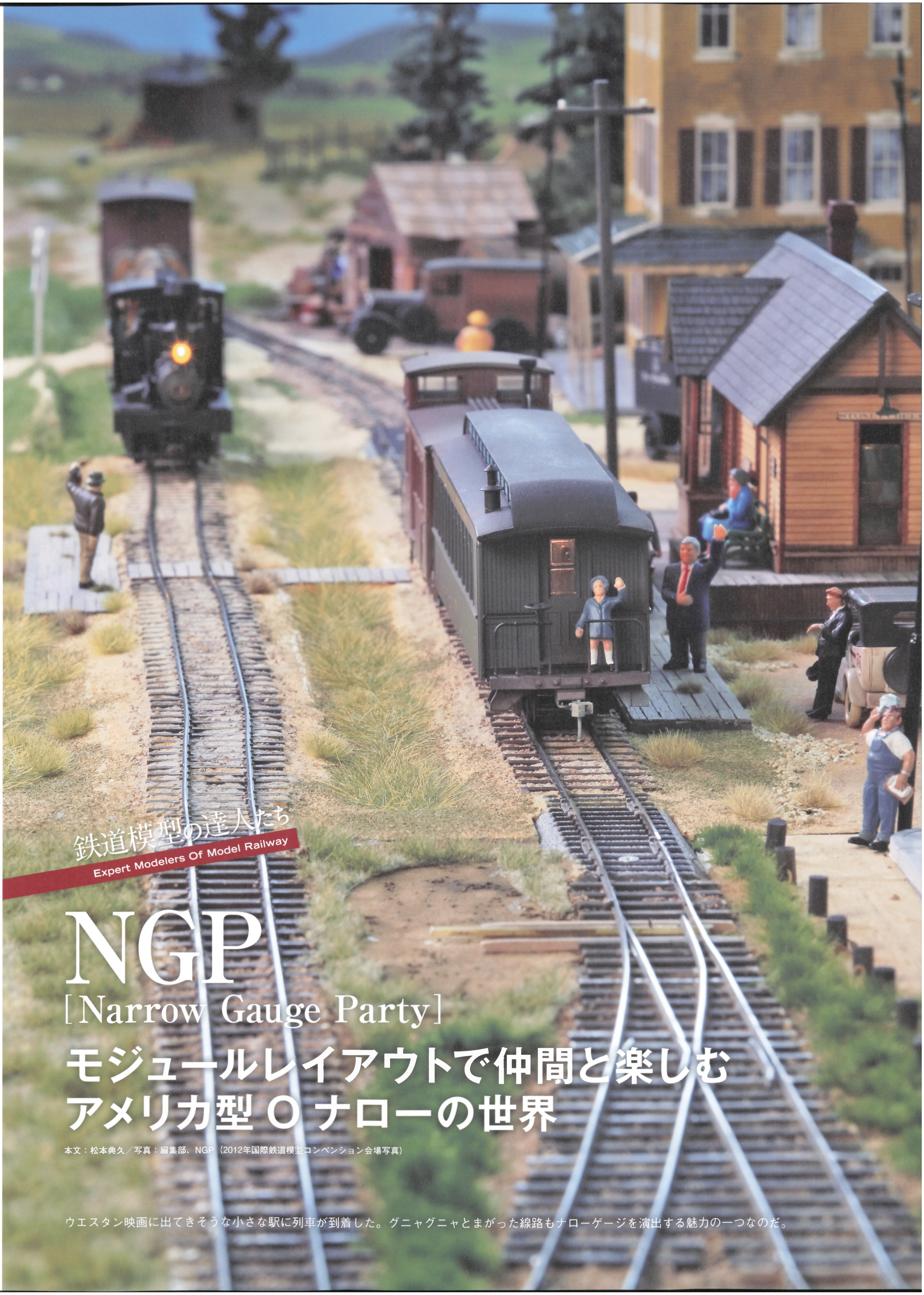


シトロエンに乗った旅人が廃墟の前で一休みといった情景。崩れた家がいかにも西部らしい雰囲気だ。サボテンのスケールは合ってないというが、さほど違和感はない。(N氏製作)





5駅に隣接したカフェ。コカコーラの看板が大きなポイントとなっている。NGPのモジュールは移動することも考え、建物が取り外し式となっているものも多い。6フラットカーに積載したクラシックカーが楽しい。新車購入といったシーンだろうか。(共にA氏製作)



鉄道模型の達人たち

Expert Modelers Of Model Railway

NGP

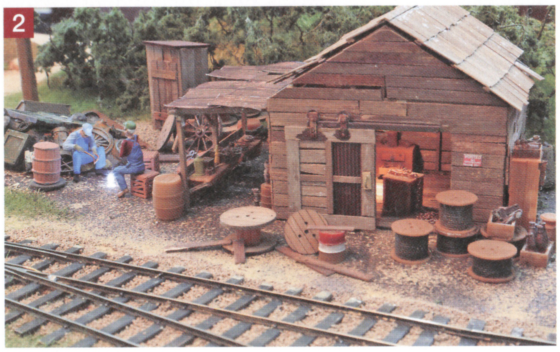
[Narrow Gauge Party]

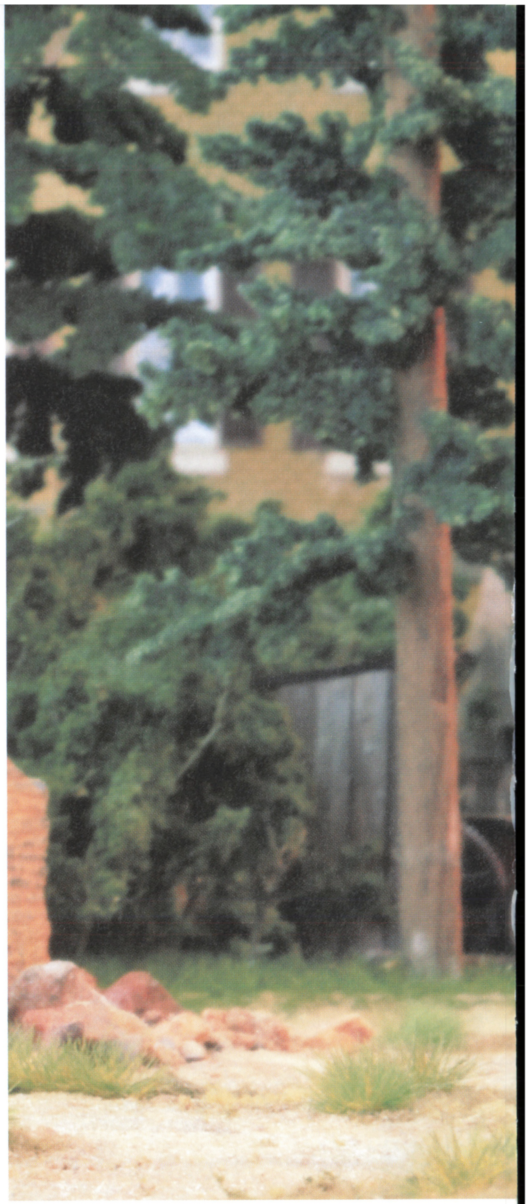
モジュールレイアウトで仲間と楽しむ アメリカ型 O ナローの世界

本文：松本典久／写真：編集部、NGP（2012年国際鉄道模型コンベンション会場写真）

ウエスタン映画に出てきそうな小さな駅に列車が到着した。グニャグニャとまがった線路もナローゲージを演出する魅力の一つなのだ。







1 給水塔の下で整備を受けるSL。軸配置は2-4-4。ファンの間ではフォーニーの名前でもナローゲージの人気機関車のひとつだ。2 小屋の脇で作業員が溶接作業中。溶接は点滅するLEDで演出。こんな作り込みを楽しめるのもOスケールという大きめのサイズならでは。(共にN氏製作)

アメリカンテーストを閉じ込めた ナローゲージ独特の世界観

鉄道模型の新しい楽しみ方を提案するOn30の世界

ナローゲージ（Narrow Gauge）——。読んで字のごとく、それは標準的な鉄道よりも軌間の狭い鉄道だ。日本語では狭軌という。

実物の場合、標準軌の鉄道よりも簡素な施設で運転されることが多く、設備投資がリーズナブルとなる。一方、車両も小型にせざるを得ず、輸送力も標準軌より相対的に小さくなってしまう。ただし、投資対効果から鑑み、主に地方鉄道や森林・鉱山鉄道などでは狭軌を採用するケースもあったのだ。実をいえばミニ新幹線区間を除くJR在来線の軌間（1,067㎜）は世界的に見ると狭軌なのだ。日本の場合、これが標準となってしまったので、一般的にはさらに狭い軌間のものをナローゲージと呼んでいる。

ナローゲージの車両は、軌間を狭くしても、乗務員や乗客が小さくなるわけではなく、やや頭でっかちなフォルムを作ることになる。また、多くの場合、線路への投資も節約するため、急カーブや急勾配も多くなってしまう。その結果、新幹線やJR在来線などとは違った独特な世界を築いているのだ。

鉄道模型でも、こうしたナローゲージの世界を楽しむべく、さまざまな規格が考案され、製品化されているものも多い。中でも近年、世界的なヒットとなっているのが「On30(オーエヌサーティー)」という規格だ。「O」はOスケール、「n」はナローの頭文字、「30」は30インチ（762㎜）を示し、「Oスケール（On30の始まったアメリカでは1/48）でつくった762㎜軌間のナローゲージ」という意味になる。ちなみに模型の軌間は16.5㎜を採用。762÷48＝15.875なので計算が合わないが、16.5㎜はHOスケールの標準軌間。この線路を活用しておおらかにナローゲージを楽しもう！ という規格なのだ。



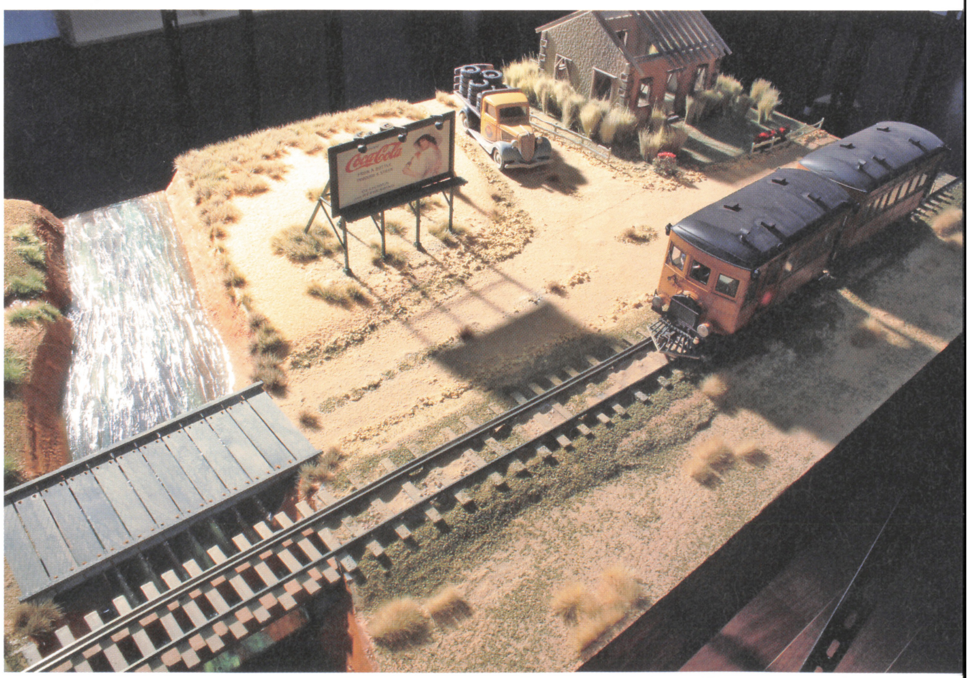
DATA
作品名　「Narrow Gauge Party」
縮　尺　1/48
軌　間　16.5㎜

大きな火の粉止め煙突を掲げたSLに牽かれた貨物列車。左ページ写真2の脇を走行中。機関車もウエザリングが施され、情景にマッチする。（N氏制作）

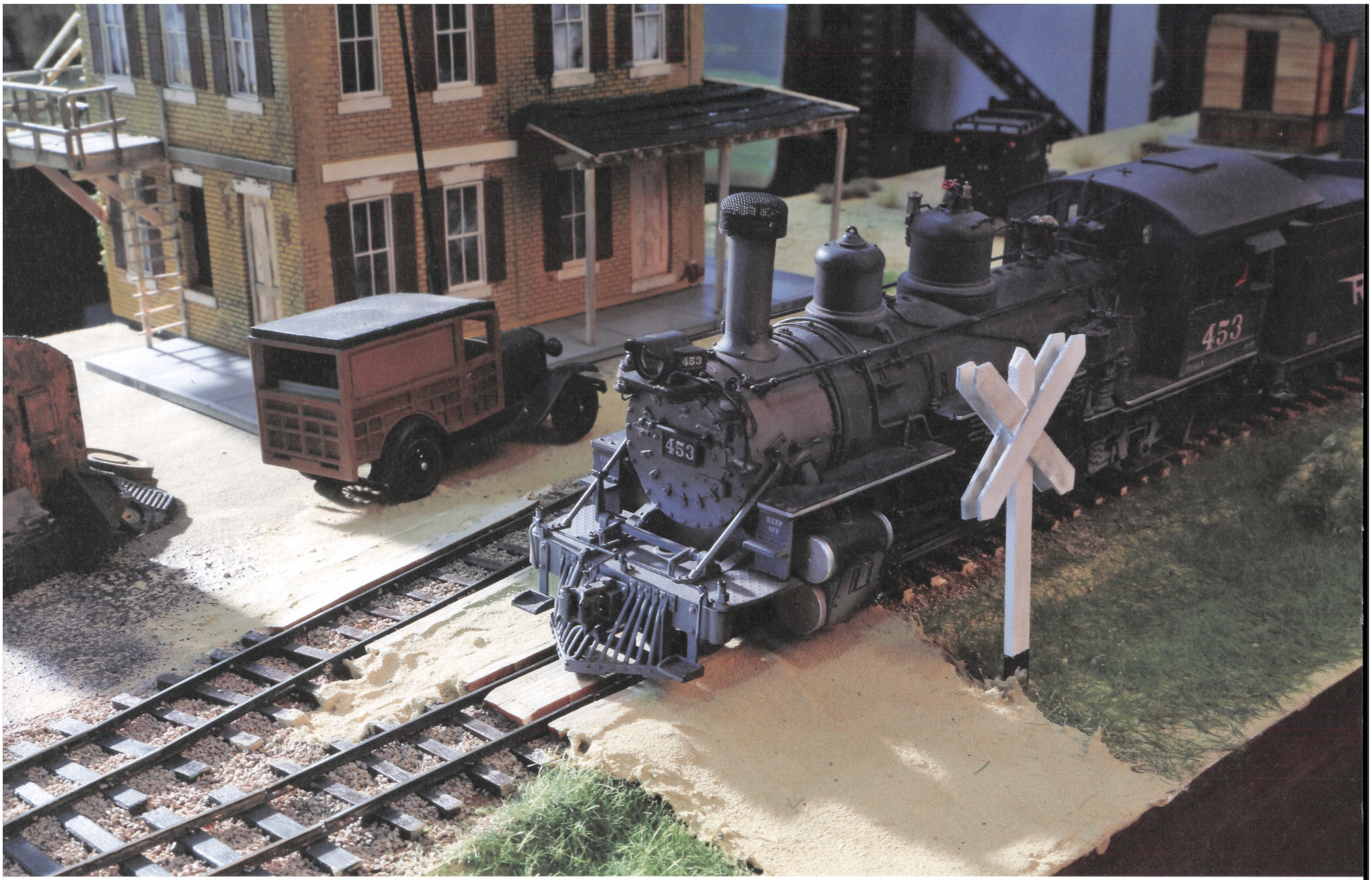
このおおらかさゆえ、On30の世界では実物が762㎜軌間のものだけでなく、例えば610㎜軌間や914㎜軌間のものもすべて16.5㎜で再現されている。さまざまな鉄道で活躍した個性的な車両をクロスオーバーさせて運転することができるのだ。

類似規格で日本型やヨーロッパ型の車両も製品化されているが、車種の多いのはやはりアメリカ型だ。しかもこれらの製品は比較的リーズナブルで、Nゲージ並みの価格になった動力車もある。写真では大きさの感覚をつかみにくいが、タンク式のSLでも両手で持ち上げるサイズ。模型として見たときのボリューム感もあり、日本でも老眼の進んだ熟年モデラー（失礼!）を中心に静かなブームとなっているのである。

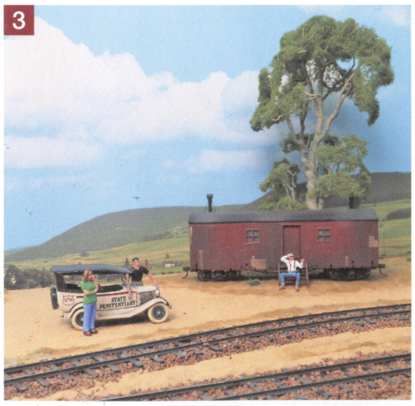
ここでご紹介するNarrow Gauge PartyもこんなOn30の魅力にはまったグループだ。皆でアメリカンテーストのモジュールレイアウトを競作、それをつなぎ合わせて運転を楽しんでいるのだ。



小川を渡る単端式気動車と客車。看板はHO用を利用しているが、情景の中に置けば違和感はない。NGPモジュールの基本サイズは900×450mmだ。（S氏製作）

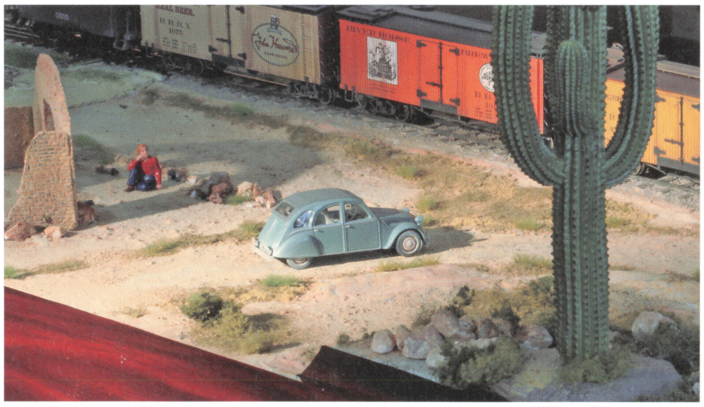


踏切に差し掛かったSL。この機関車はナローファンには有名なアメリカのD&RGW鉄道のK-27。実物は軌間910㎜だが、On30ではおおらかに同居。(M氏製作)



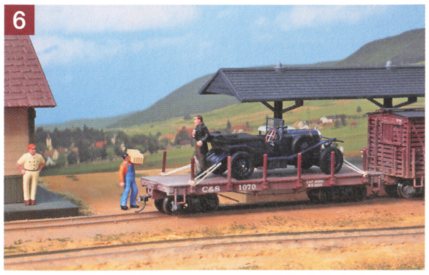


3客車を使った宿泊施設のある情景。この客車は台車をはいており、線路に載せればそのまま移動可能となる。現場を移動する森林鉄道やサーカス列車などで実際に使われている。(Y氏製作) 433ページで全景を紹介したモジュール。エポキシ樹脂とリキテックスのジェルメディウムで表現した小川が見せ場。(S氏製作)



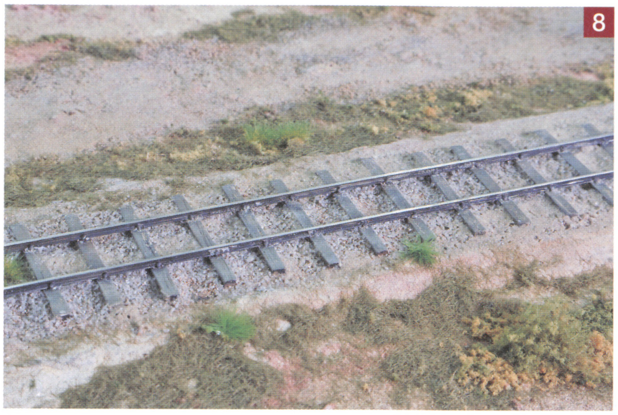
シトロエンに乗った旅人が廃墟の前で一休みといった情景。崩れた家がいかにも西部らしい雰囲気だ。サボテンのスケールは合ってないというが、さほど違和感はない。(N氏製作)





5駅に隣接したカフェ。コカコーラの看板が大きなポイントとなっている。NGPのモジュールは移動することも考え、建物が取り外し式となっているものも多い。6フラットカーに積載したクラシックカーが楽しい。新車購入といったシーンだろうか。(共にA氏製作)





7駅舎を通して眺めた情景。こんな視点からも楽しめるように作り込んでいけるのは、Oスケールというラージサイズのメリットだ。8線路の表現も徐々に進化。これは角材を枕木として並べ、実物のようにレールを犬釘で留めたもの。線路脇の草も含め、ちょっと頼りないナローゲージの雰囲気が出ている。9ネイティブアメリカンが狩りの真最中。こんなお遊びも楽しい。(共にS氏製作)



気の合う仲間と紡ぐモジュールには視点が移り変わるおもしろみが生まれる

独自のテーマを作ってモジュールを競作

「最初はOn30の製品を入手したところから始まったんです。とにかく個性ある変わった車両が多い。しかも価格はリーズナブル。例えばバックマンの2-6-0SLは銀座の天賞堂で1万円でした。これなら加工したり運転したりするのも気楽で、子どもに触らせても安心。また、最近の製品はDCC制御でサウンド付きのものも多く、これは走らせないともったいない。そこで仲間を募り、モジュールレイアウトを作り始めたのです」とはNGPの中心メンバーとなる鈴木ひろしさん（64歳）だ。線路はKATO製HOトラックをそのまま使っていたが、メンバーが増え、情報も増えたことから篠原製HO用線路を改造、あるいは実物並みに枕木を並べた上にレールを犬釘で留めていくなどモジュールによって個性が発揮されるようになった。今年も夏に東京ビッグサイトで開催される「国際鉄道模型コンベンション」に参加すべく、新しいモジュールの製作に入っているという。会場でのお披露目が楽しみである。

PROFILE

NGP | Narrow Gauge Party

「On30」の魅力にはまったモデラーが集まり、アメリカンテーストのモジュールレイアウトを競作。現在のメンバーは6名。その作品は毎夏開催されるJAMの「国際鉄道模型コンベンション」などでお披露目されている。今回、紙面で紹介させていただいた作者はA：浅野 一、N：中尾雄太郎、M：野々山真樹、S：鈴木ひろし、Y=山本裕之（敬称略）の5名だ。

10NGP発足のきっかけとなったOn30製品。写真はメンバーたちのコレクションの一部だが、アメリカ型を中心にさまざまな車種が揃っている。112012年の「国際鉄道模型コンベンション」の会場にて。今年はエンドレスの内側にヤードも増設する計画。







今さら聞けない「基本のキ」から

塗装の

Contents

- 塗料の基礎知識
- 塗装作業の流れ
- 塗装に必要な道具
- 鉄道模型に使えるいろいろな塗料
- 塗装の下準備
- 塗装にチャレンジ！ …… 缶スプレー／エアブラシ／筆塗り

鉄道模型の工作を楽しむとしたら塗装作業は避けて通れない。
しかし、初めてチャレンジする人にとって塗装はハードルの高い工作でもあるのだ。
また、慣れている人にとっても素晴らしい作品になるかどうか、
塗装の良し悪しで大きく差が付いてしまう。
鉄道模型に活かせる塗装の基礎から実践テクニックまで作業実例もまじえて紹介しよう。

本文：田村伸夫／写真：編集部



達人に学ぶ上級テクまで

すべて

● 塗装がもっと楽しくなる上級テクニック

…… 建築物に郷愁を加える至高のウェザリング術

…… 完成品加工に絶対役立つ部分塗装による仕上げテクニック

基礎① 塗料の基礎知識

使い勝手だけではなく環境と健康を考慮した塗料が増加

「塗料」は対象となる物の表面を覆い、素材を保護して、色を付けたり表面の風合いを出したりといった役割を果たすものだ。

一般的には顔料と塗膜を構成する樹脂などを混ぜたもので、これに溶剤（うすめ液）を加えて流動性を調整しながら塗っている。溶剤が揮発すれば、樹脂が硬化し、対象となる物の表面が顔料と樹脂で覆われるというしくみになっている。かつて溶剤は有機溶剤が多かったが、近年では環境・健康・利便性などの点から水を使うものも増えてきている。

身のまわりでも極めて多種多様な塗料が使われている。試しにDIYなどの塗料売り場に足を運ぶと、その種類の多さにびっくりすることだろう。すべてを紹介するとキリがなく、ここでは鉄道模型の車両や情景工作に向いた塗料を中心に紹介していこう。

主成分や溶剤によって変わる特性を活かした使い方が必要

鉄道模型で使われる塗料は、以下に紹介するようなものが一般的だ。塗料の主成分や溶剤などからジャンル分けすると「アクリル塗料」「水性アクリル塗料」「ラッカー塗料」「エナメル塗料」などがある。色は各社が調色しており、鉄道車両の塗装に使うなら鉄道車両用に調色された製品を使うのが便利だ。

ここで挙げた４種の塗料はそれぞれ塗料としての特性が異なっている。その長所を活かす形で使い分けたい。

例えば、プラスチック素材を塗装するなら、アクリル塗料、水性アクリル塗料、エナメル塗料などが向いている。素材との相性がいいのだ。プラスチック素材にラッカー塗料を使うと、溶剤成分によりプラスチックが侵されることもあり、普通は避ける。一方、ラッカー塗料は塗膜が丈夫なため、金属素材の塗装に向いている。そのため、真鍮でつくった鉄道車両はラッカー塗料を使うモデラーが圧倒的に多い。

また、溶剤成分の性質上、一般的にラッカー塗料は乾きが早く、エナメル塗料は乾きが遅い。アクリル塗料、水性アクリル塗料はその中間といったところだ。そのため、ラッカー塗料では筆の塗り目が消えないうちに乾燥が始まってしまうので、筆塗りならエナメル塗料が使いやすいということになる。

さらに溶剤成分や樹脂などの性質により、塗り重ねる場合の適不適もある。ラッカー塗料の上には大半の塗料を塗り重ねることができるが、エナメル塗料の上にはラッカー塗料の塗り重ねは不向き。こうした組み合わせは39ページに紹介するが、この使い分けも重要なポイントになってくる。

鉄道模型で使うおもな塗料



アクリル塗料

アクリル樹脂を塗膜の主成分とした塗料で、主にプラスチック素材の塗装に向く。乾燥時間がラッカーに比べて遅いため、慣れてくれば筆塗りも可能だ。タミヤ、クレオスなどの大手模型メーカーも各色豊富にラインナップ。グリーンマックス、ガイアノーツ、モリタ、F MODELSなど鉄道車両向けに調色された製品が発売されている。

水性アクリル塗料

これもアクリル樹脂を塗膜の主成分とした塗料だが、水溶性。塗料を水で薄めることもできないわけではないが、専用の溶剤を使うのがおすすめ。塗料硬化前の筆や塗料皿が水洗いできるので扱いやすい。やはり、プラスチック素材の塗装に向いており、クレオス、タミヤなどから発売されている。





ラッカー塗料

塗膜が強く、真鍮など金属素材を塗るのに適している。そのため、鉄道模型では古くから使われている。マッハ模型、日光モデルでは鉄道車両専用に調色した製品を各種ラインナップ。乾燥時間が早いため筆塗りには不向きで、基本は吹き付け塗装。ただし溶剤となるシンナーが有毒なので、取り扱いには注意したい。

エナメル塗料

塗料のノビや発色が良く、乾燥にはここで挙げた４つの塗料の中ではもっとも時間がかかる。そのため、筆塗りに一番適した塗料だ。色差しやスミ入れ、ウェザリングなどにも使いやすい。ただし、乾燥後の塗膜は弱く、ツヤなども変わりがち。タミヤ、イギリスのハンブロールなどの製品に定評がある。



① 塗料は使いやすいスタイルで製品化







使い勝手だけではなく環境と健康を考慮した塗料が増加

鉄道模型に使いやすい塗料は、鉄道模型専門店のほか、百貨店や量販店の模型売り場などでも取り扱っている。塗料コーナーに行くと、さまざまなメーカーの製品が並んでいるはずだ。その製品の形態はビン、缶、ポリ容器、缶スプレーなどがあり、カラーバリエーションは鉄道車両専用色を中心に各種ある。さらにそれぞれの塗料に合わせた専用溶剤、下塗り用の塗料、そして塗装用の道具など。品揃えの多いところでは、塗料だけで数百アイテム揃えているショップもあるぐらいだ。

何を買えばいいのかわからなくなったとき、鉄道模型専門店では相談にのってもらえるが、量販店などでは商品知識の深い定員がいないこともある。やはり事前に専門誌を読んだり、Webで調査したりと、自分で知識を蓄えておくことが必要だ。

なお、塗料は大きく分けて缶スプレー、原液、そしてマーカーと３つの形態で販売されている。

缶スプレーは手軽に吹き付け塗装できるもので、慣れてくるとエアブラシのような仕上がりを得ることもできる。原液は筆塗り、エアブラシによる吹き付けなど自分の好みによって使っていく。マーカーはスミ入れに便利な商品だ。これらは一般的に塗装するものや面積、さらには塗装効率などによって使い分けるが、最後は自分の好みともなる。なお、エアブラシには専門の道具が必要となるが、コンスタントに塗装をするようになると、缶スプレーよりもリーズナブルになってくるだろう。

② 使用される溶剤例



③ 塗料の重ね塗りは注意が必要

上塗り＼下塗り	ラッカー	エナメル	アクリル	ペイントマーカー
ラッカー	○	○	○	○
エナメル	×	○	○	△
アクリル	×	○	○	○
ペイントマーカー	×	×	○	△

ペイントマーカーはペンタッチのアルコール系塗料。ワンポイントの着色等に使用する。

達人タムラの技…①

塗装のときはマスクも用意したい

塗装作業には有機溶剤を使うことになるので、安全と健康に配慮することが欠かせない。特に吹き付け塗装は有機物質を吸い込まないためにも防毒マスク着用で行う。顔にしっかりフィットするようゴムベルトを調整する。着用していても塗料の臭いがしてきたら先端のカートリッジ式交換フィルターの交換時期である。室内で行う際には換気や風通しをよくすることも忘れずにしよう。



マスクは防塵用ではなく有機ガス用製品を使うこと。DIYや模型店などで取り扱っている。



マスクは顔にしっかりフィットさせる。塗料の臭いがしたら装着方法かカートリッジが悪い。

基礎2 塗装作業の流れ

全体を把握した備えで スムーズな塗装を実現

塗料の概要がわかったところで、次は塗装作業の流れをつかんでおこう。それぞれの工程が頭に入っていれば、道具の準備などもスムーズにいくはずだ。

組み立てが終わり、塗装後に取り付けるパーツも準備ができたら、塗装前の最終チェックだ。例えば接合部の確認は素材生地のままではわかりにくいが、着色するとこれまで気がつかなかった隙間や接着剤のはみ出しが目立つようになる。そんな部分を想像しながら念入りにチェックしていくのだ。もし、不都合なところが見つかったら、この段階で補修しておく。

続いて塗装するものを洗浄する。いきなり塗装を始めるのではなく、塗装に向いたコンディションを整えてやるのだ。プラの場合、成型時に付いた油分や工作時に付いた汚れ、静電気などを取り除く。金属の場合、さらにフラックス付着と自然発生した酸化膜、つまりサビを取り除かなくてはならない。これらの洗浄はしっかりやっておかないと、塗膜が剥がれたり塗料がのらなかったりする原因となる。

なお、金属の塗装では塗料の食いつきを良くするための下塗りも重要だ。これらが完了したところで、塗装の本番へと移る。

塗装方法による 道具の違いを理解する

塗装方法により使う道具も変わってくる。塗装に必要なおもな道具を表にまとめてみたので参考にしてほしい。実際にはこれらの道具以外にも、古新聞紙やキッチンペーパー、ティッシュペーパーなども豊富に用意しておきたい。

同じ名称の道具でもさらに複数のメーカーや種類が分かれており、価格も機能性で高価なものから安価なものまでさまざまだ。最初は価格で選んでしまいがちだが、高いものはそれなりの価値がある。特にエアブラシや筆などはその差が大きく出てくる。道具の大半は繰り返し使うことができるので、今後のことも考えて選んでみよう。

1. **全体の組み立て**
2. **最終チェック** [プラ素材の場合]接合部などの補修 [真鍮素材の場合]ハンダのはみだしなどを補修
3. **洗　浄** 中性洗剤などで洗う
   - 3+ **サビ取り** 真鍮素材の場合のみ行う ブラスクリーナーに浸す
4. **塗装台などにセット** 小さなパーツなどは吹き飛ばされないように固定する
   - 4+ **下塗り** 真鍮素材には塗料の食いつきを良くする下塗り剤を塗る
5. **塗　装**
6. **マスキング** 塗装しない部分を覆う
7. **塗　装** 以下❺、❻を繰り返す
8. **乾　燥**
9. **マスキングをはがす**

完　成

塗装に必要な道具（塗装法別）

	吹き付け塗装（缶スプレー）	吹き付け塗装（エアブラシ）	筆塗り	部分塗り（カラスロ）	墨入れ（筆塗り）	墨入れ（マーカー）
筆			◎		◎	
カラスロ				◎		
エアブラシ		◎				
缶スプレー	◎					
マーカー						◎
塗料皿		◎	◎	◎	◎	
調色スティック		○	○	○	○	
スポイト		○	○	○	○	
綿棒					◎	◎

◎必要な道具　○あると便利

基礎 3

塗装に必要な道具

塗る





エアブラシ

吹き付け塗装に欠かせない道具（写真左）。初期投資はかかるが、一度使ったら手放せない。最初はガス缶を使っていても、空気を圧縮して送り出す塗装用コンプレッサーが欲しくなる。ガンを置く台（写真右）も欲しい。



カラスロ

今や古典的な道具となったが、線を引くために使う。Hゴムなどの色入れに便利だ。大型文房具店、画材品店で入手可能。



筆

種類や価格もさまざまだが、高価な物は必要ない。ただし、細い線を描く面相筆はある程度の製品がおすすめ。



調色スティック

原液塗料は使用する際は必ず攪拌しなければならない。頭がスプーンやヘラ状になったものが使いやすい。

混ぜる

攪拌ミキサー

ラッカーの場合、しっかり攪拌しないと色むらを生じる。写真はウェーブ製。単三電池2本で作動する。

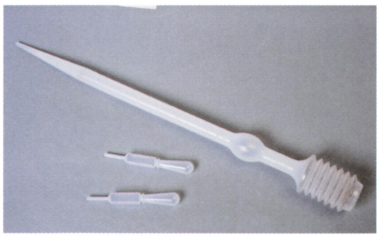




塗料皿

原液を移し濃度調節やパレットとして使う。吹き付け塗装では使う塗料の量が多いので、深めで注ぎ口のあるものがいい。

その他



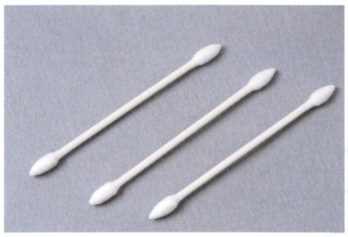
スポイト

溶剤の吸い上げに使用。こぼれる心配もない。スポイトの大小は溶剤ビンの大きさに合わせて使い分けると使いやすい。



キッチンペーパー

ぬるま湯で洗浄後、車体やパーツに付いた水分を取るときなどに使う。できるだけ繊維がほつれないペーパーを使うこと。



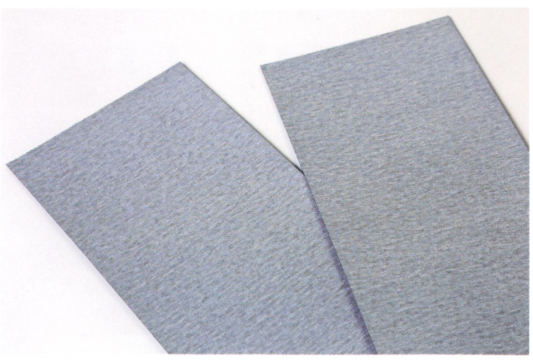
綿棒

小面積の水分と塗料除去に威力を発揮。この場合、先の尖ったものが使いやすい。ウェザリングの拭き取りにも必要。



竹串

マスキングテープの圧着をはがすときなどピンセットではキズが付く。そのほか、調色スティックの代りなど応用は広い。



紙ヤスリ

塗装中、表面に付いてしまったホコリは1000～2000番の細かい紙ヤスリで削り取り、再度塗装。この繰り返しで美しい塗膜を仕上げていく。



使い捨て手袋

塗料が指などに付くとなかなか取れない。塗料は有害物質と考え、面倒でも直に触れることは避ける。



基礎 4

鉄道模型に使える いろいろな塗料



鉄道模型専門に開発された塗料をはじめ、鉄道模型に使いやすい塗料を紹介しよう。なお、溶剤は専用のものや指定のものを使うようになっていることに、特に注意したい。

缶スプレー

鉄道スプレー

［グリーンマックス］



Nゲージメーカーとして知られるグリーンマックスからは鉄道車両向けに調色したアクリル塗料が発売されている。缶スプレーは写真の通常タイプのほか、塗料を増やしたロングタイプも発売。塗色の数はクリアコートなども含めて44種ある。各630円、ロング1,050円（共に税込）

缶スプレー

鉄道模型車輌色スプレー式塗料

［ジェイズ］



鉄道模型パーツメーカーとして知られるジェイズからアクリル塗料の缶スプレーが発売されている。製造元は家庭塗料で知られるアサヒペン。塗色の数はクリアコートなども含めて46種。さらに屋根板などの表現に便利なスエード調塗料もある。一般色は各1,344円（税込）

缶スプレー

タミヤ カラースプレー

［タミヤ］



プラモデルのメーカーとして知られるタミヤからもプラモデルに使える缶スプレーが発売されている。鉄道車両そのものと表記した色はないが、カラースプレー、エアーモデルスプレー、ポリカーボネート、ミニ四駆スプレーカラーなど合計200種近くラインナップ。630円（税込）～

缶スプレー

Mr.カラー スプレー

［GSIクレオス］



プラモデルなどの塗料専門メーカーとして知られるGSIクレオスからはMr.カラースプレーシリーズとして缶スプレーを発売している。鉄道車両そのものとした色はないが、現在69色ラインナップされており、屋根や下まわりなどに使えるものも多い。630円（税込）

アクリル塗料

鉄道カラー

［グリーンマックス］



グリーンマックスからは缶スプレーと同じ材質のアクリル塗料を原液でも発売。ただし一部の色は缶スプレーのみの発売となっている。溶剤はGSIクレオスのMr.カラーうすめ液またはMr.カラーレベリングうすめ液を指定。Mr.カラーと塗料の混合調色も可能だ。各262円（税込）

アクリル塗料

鉄道カラー

［モリタ］



各種模型用パーツや塗料を製造販売するモリタが鉄道車両用に調色されたアクリル塗料を発売。鉄道車両色は現在約20種。溶剤はGSIクレオスのMr.カラーうすめ液またはMr.カラーレベリングうすめ液を指定。Mr.カラーと塗料の混合調色も可能だ。263円（税込）～

アクリル塗料

Mr.カラー

[GSIクレオス]



Mr.カラーシリーズとしてさまざまな塗料をラインアップ。鉄道車両そのものとした色はないが、基本となるMr.カラーのほか、Mr.カラーGX、Mr.カラー城など幅広く展開、合わせて200種近い。筆塗り、吹き付け共に可能。溶剤はMr.カラーうすめ液など。168円(税込)～

アクリル塗料

鉄道模型用カラー

[ガイアノーツ]



模型用塗料メーカーとして知られるガイアノーツも鉄道模型用に調色したシリーズを発売。同社HPでは鉄道模型用カラーを溶剤系アクリル樹脂塗料(通称ラッカー系塗料)としているが、本書で紹介したアクリル塗料と同じ。溶剤はガイアカラー薄め液を指定。263円(税込)～

水性アクリル塗料

タミヤカラー アクリル塗料

[タミヤ]



筆塗り、吹き付けの両方に使える使いやすい水性アクリル塗料。溶剤は専用のX-20A(エナメル用はX-20なので要注意。Aはアクリルと覚えておこう)を使うが、乾燥前なら筆などを水で洗うことができる。鉄道車両そのものとした色はないが、100種揃っている。各157円(税込)

ラッカー塗料

鉄道調色塗料

[マッハ模型]



鉄道模型用ラッカーとして定番製品。アイテム数は300を超え、国鉄、JR、私鉄の各車両に対応した色を揃えている。ラッカーのため乾燥が早く、吹き付け塗装がベスト。専用の溶剤もマッハカラー溶剤として発売しているがラッカーシンナーなら利用可能だ。525円(税込)～

アクリル塗料

Mr.スーパーメタリック

[GSIクレオス]



Mr.カラーシリーズからは、メタリックな輝きを演出できるMr.メタルカラー、Mr.スーパーメタリック、Mr.メタリックカラーGXも発売。特にMr.スーパーメタリックは高級微細金属粒子でこれまでにない金属感を再現、ステンレス車体などにおすすめ。630円(税込)～

水性アクリル塗料

水性ホビーカラー

[GSIクレオス]



GSIクレオスから水性アクリル塗料をその名も水性ホビーカラーとして発売。色の数はおよそ100種。溶剤は専用の水性ホビーカラーうすめ液を使うが、乾燥前なら筆などを水で洗うことができる。このうすめ液はアルコールを含み乾燥を早める効果もある。各157円(税込)～

ラッカー塗料

特製調色塗料

[日光モデル]



HOの台車メーカーとして知られる日光モデルでも鉄道車両向けに調色したラッカー塗料を発売。こちらは国鉄色を中心に60種ほどあり、国鉄色なら何でも揃うといったラインナップだ。溶剤は一般的なラッカーシンナーを使う。やはり吹き付け塗装がベスト。各525円(税込)

エナメル塗料

タミヤカラー エナメル塗料

[タミヤ]



今、日本でいちばん入手しやすいエナメル塗料だ。エナメルはツヤありまたはツヤ消しの状態で製品化されており、ツヤ消しは製品記号Xの後にFと表示される。タミヤでは合わせて約80種発売。溶剤は専用のX-20を使う。筆塗りに向いた塗料だが吹き付けも可能だ。各157円(税込)

基礎5 塗装の下準備

本番の塗装に入る前、塗ろうとするものの洗浄や下塗り、マスキングといった下準備の作業が必要だ。どちらかといえば面倒で地道な作業だが、この工程がその後の出来栄えを左右するポイントなのだ。

1 洗浄

プラスチック、真鍮など素材に関わらず塗料の弾きやはがれの原因となる汚れを中性洗剤で良く洗う。古歯ブラシで隅々まで磨くようにするといい。

汚れのひどい真鍮の場合はさらに液体クレンザーでこすり洗いする。また、真鍮素材は最後に専用の薬品で付け置き洗いすると効果的だ。これはマッハ製プラスクリーンなどがおすすめ。この薬品は黒くなっても繰り返し何度か使える。洗浄を終えたらお湯で洗剤や薬品を洗い流し、キッチンペーパーと綿棒で水アカが出ないよう拭き取り、自然乾燥させる。



バットには小さな植木鉢がいい。側面下の排水キャップが便利。小部品を流さぬよう排水溝にはコンタクトレンズ用キャッチャーをかぶせておこう。



洗浄は台所用の中性洗剤、液体クレンザーなどで行う。真鍮の場合、最後に専用の洗浄薬品を使うといい。



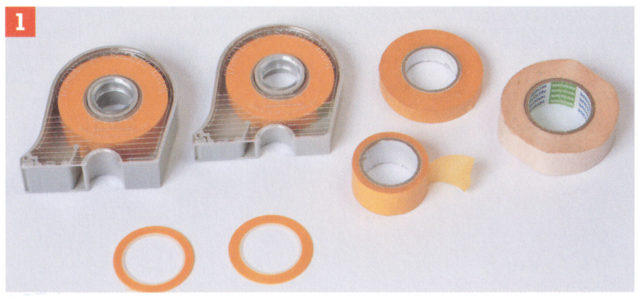
プラスチック素材の洗浄は、中性洗剤の水溶液をつくり、食器を洗う要領で歯ブラシなどでこする。

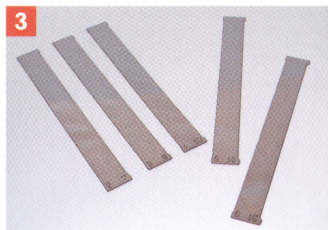


真鍮も中性洗剤を使うが、頑固な汚れは液体クレンザーを併用。最後は専用薬品で洗浄する。

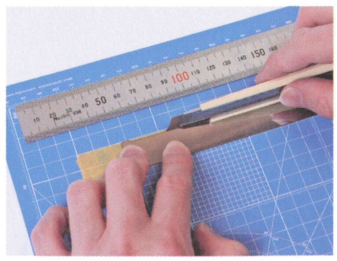
2 マスキング

塗装したくない部分はテープなどで覆っておく。これをマスキングという。テープは市販されている専用のものを使用。なお、テープは使用期限がある。製品に記載はないが、糊がべたついていたり、テープが波打ち状に変形していたら交換しよう。

1


3


2

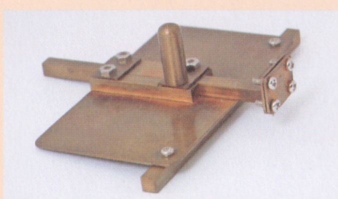



1さまざまなマスキングテープ。各社から発売されているが、糊移りがなく、毛羽立ちのないものを選ぼう。テープ幅も大小さまざま。ラインのマスキング用に細いものも製品化されているが、自分で切り出すこともできる。2マスキングゾルは鉄道模型の場合、主にテープ貼り重ね部分からの塗料入り込み防止に使用する。3マスキングテープを好みの幅に切り出す治具もある。写真はトレジャータウン製の製品と使用状態。0.2mmから1.5mmまで10種の幅に対応。

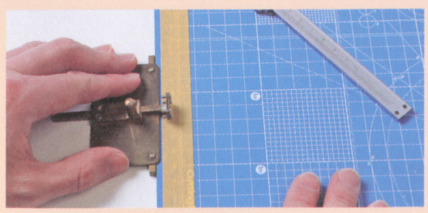
達人タムラの技…2

マスキングテープカッター

同じ幅に何枚も均一に切り出すのは根気が要る。そのため田村さんはプロモデラーからいただいた手作り治具を愛用している。カッターの刃をセットし、カッティングマットのふちをガイドにスライドさせる。幅の設定は本体底と刃送り出し棒との長さをノギスで計測しながら決める。便利な道具だが、残念ながら製品化には至っていない。



とあるモデラーが自作したマスキングテープカッター。右に突出した部分に刃をセット。



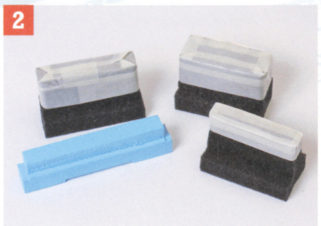
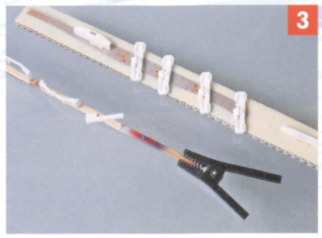
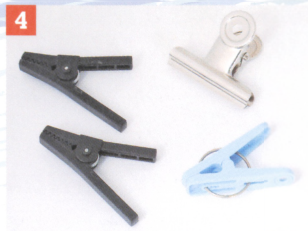
カッティングマットの縁をスライドさせ、マットに貼り付けたマスキングテープをカット。

③ 塗装台

塗装しようとする車体やパーツなどを支える工夫も必要だ。トイレットペーパーの芯などで適当に車体を固定している方法もあるが、塗装中に車体が倒れてしまうなどの失敗もある。取り外しが簡単にでき、なおかつしっかり安定した台が欲しい。

市販品もあるが、簡単に自作することもできる。おすすめなのは車両ケースなど使われるスポンジを写真のような凸型に切ったもの。車体とスポンジの間に塗料が染み込んで固着することを避けるため、車体に触れる部分にはマスキングテープを巻いておくのがコツ。

このほか、小さなパーツを固定する方法も工夫しよう。洗濯ばさみなども有効だ。


1

2

3

4

1自作の塗装台にセットした状態。取り外しが簡単で、一度固定したら安定しているのがポイント。2自作の塗装台はスポンジを凸型にカットしたもの。車体を差し込むところは塗料が回って車体を固着させないため、マスキングテープを貼っておく。3小さなパーツは割りばしや段ボール片などに両面テープで固定しておく。割りばしの場合、端に模型用クリップを噛ませておくと転がらずに安定する。4模型専用のクリップ(写真左)だけでなく、文房具用(写真右上)、洗濯ばさみなども使える。

④ 下塗り

真鍮の場合、塗料のくい付きを良くするため下塗り塗料(プライマー)を塗っておこう。その上にアクリル塗料を塗るとひび割れの原因となるのでこれにはラッカー塗料を使う。ラッカー塗料への上塗りならアクリル系を使用しても問題ない。

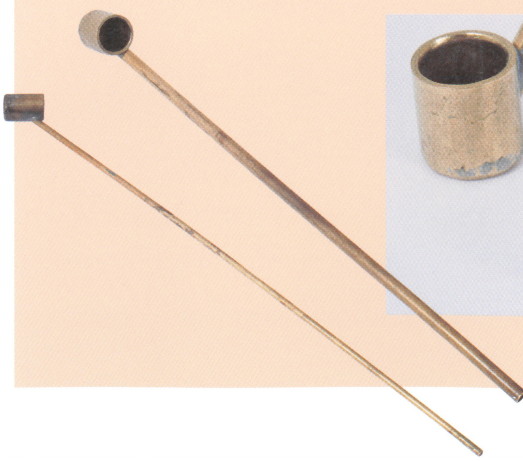


真鍮など金属素材の塗装に欠かせないプライマー。手軽に使える缶スプレーのほか、プライマー原液で販売しているものもある。原液のプライマーはラッカーシンナーで適度に希釈、吹き付ける。

達人タムラの技…③

塗料用小型ひしゃく

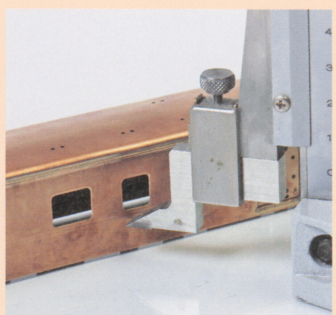
塗料を容器から取り出す際に自作の小型ひしゃくを使っている。これは手持ちの真鍮製パイプ、板、線をハンダ付けして組みあげたもの。柄の角度がポイントで、ビン・缶入り塗料を底まですくうことができる。市販の調色スティックよりも確実に使いやすい。茶道のひしゃくのような形で、和の心は模型製作にも通じている。




達人タムラの技…④

ラインのケガキを正確に

車体帯などのマスキングをする際、あらかじめ車体にケガキ線(材料の上に傷をつけて目印にする)を入れておくときっちりとしたラインを出せる。これは車体をガラス板か定板の上に置き、ハイトゲージでケガキ線を入れるのが簡単で、しかも正確な位置出しができる。車体帯のある固定編成を作るときなどラインが揃わないと見苦しいが、このハイトゲージ(ミツトヨ)があれば、そんな心配は無用。最低でも3万円以上するちょっと高価な工具となるが、利便性を考えたらぜひ準備しておきたくなる。




塗装にチャレンジ！

実践 1

缶スプレー



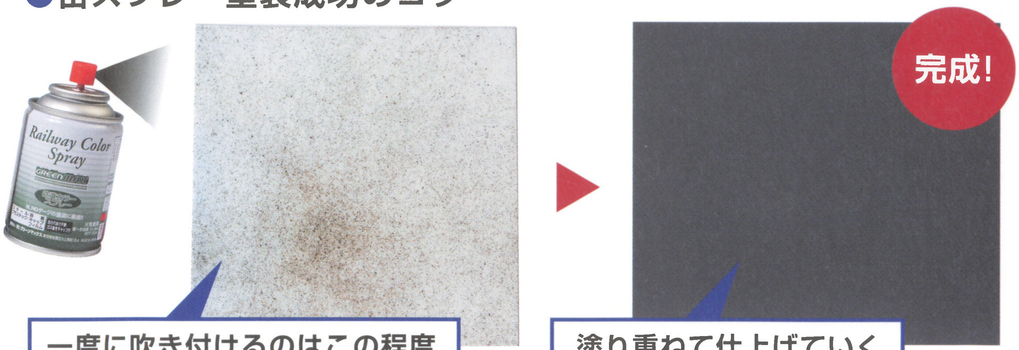
初めての塗装は缶スプレーからチャレンジしてみよう。用意する道具は少な目。しかし、慣れてくるとエアブラシに劣らない仕上りが期待できるのだ!!

毎回空吹き、距離に気を付け薄めに吹いて塗り重ねる

缶スプレーの魅力は、第一に初期投資をさほどかけずにできること。しかも道具の洗浄をしなくても済むなど、手軽に作業できる点もうれしい。また、吹き付け塗装なので、慣れてくればエアブラシに近い仕上がりも期待できる。筆塗りよりもずっとハードルが低いのだ。ただし、ランニングコストはやや高めとなる。

注意が必要なのは、塗り始めに残留塗料がダマになって噴き出ることもあるので、対象物を塗る前に毎回必ず空吹きすること。さらに対象物との距離や缶スプレーを動かす速度も重要だ。さっと薄く吹き付け、それを何度も繰り返すのが美しく仕上げるコツだ。距離が近いと塗料がボテッと付いてしまい、また離れすぎると塗装面がざらついてしまう。

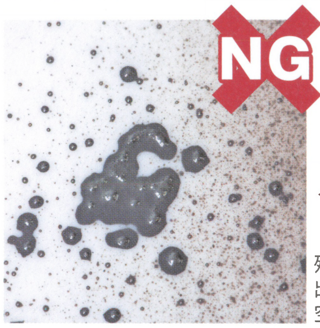
●缶スプレー塗装成功のコツ



一度に吹き付けるのはこの程度

塗り重ねて仕上げていく

失敗例



▶缶スプレーの近付け過ぎに要注意

対象物に缶スプレーを近付けすぎるとこうなる。必ず20cmほど離して吹き付けよう。

◀残留塗料の噴き出しに要注意

残留塗料がダマになって噴き出すことがあるので、毎回必ず空吹きしてリスクを回避する。



達人タムラの技…5

缶スプレーの扱い方

缶スプレーは道具の洗浄をしなくて済むので手軽だが、実はちょっとした心配りが必要だ。

●使用前

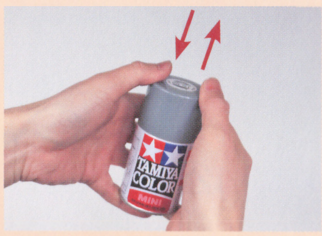
塗料が沈殿しているので、缶を良く振ること。容器内に撹拌玉が入っており、これがカラカラと回って塗料を撹拌してくれる。

●使用後

缶スプレーをさかさまにして空吹き、ノズル内の塗料を吹き飛ばしておく。ノズル周辺の塗料はぬぐう。

●廃棄時

缶スプレーはガスを完全に抜いた状態で廃棄する。グリーンマックスの缶スプレーは廃棄時のことも考えられている。右の写真のようにしてガスを完全に抜く。ただし、塗料が大量に残っているときは吹きこぼれてしまうので、要注意。



使用直前に良く振ること。使い始めは最低でも1分くらい振る。寒い時期は本体を人肌程度に暖める。



使用後は缶をさかさまにして吹く。塗料が出ない空吹き状態まで吹けば、ノズル内の塗料は吹き飛ぶ。



ノズルのまわりについている塗料はすぐ拭っておくこと。放っておくと固まって使用不能になる。



グリーンマックスの鉄道スプレーのキャップにはちょっとした工夫がある。中央部のへこみに注意。



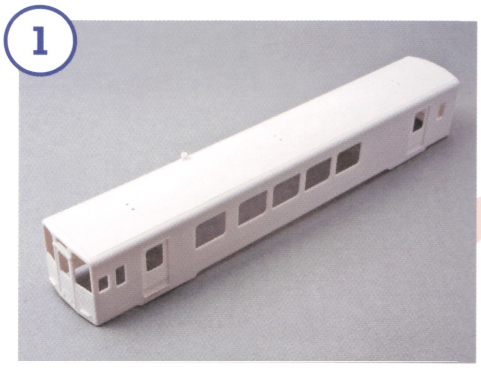
缶スプレーの塗料がなくなったら、キャップを外した状態で中央部の仕掛けを押し込む。



塗料がなくなった缶スプレーにはめ込み、中央部を押す。余剰のガスが抜け、廃棄できる状態になる。

●缶スプレーで塗ってみよう

1



作例は1/80サイズの気動車（MAXモデル プラ製NDCキット組立）。ほこり付着など再確認。缶スプレーは新聞紙などに吹き付け状態確認。

2



缶スプレーは20cmほど離して吹く。対象物の外で空吹き、そのまま対象物に移動して吹き付け。このサイズなら1回1秒以内の移動速度。

3



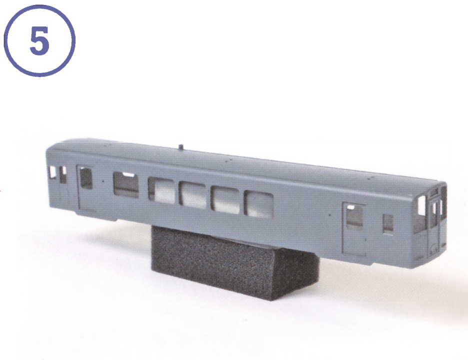
1回に吹くのはこの程度。車体側面の場合、裾方向から、車体中央、屋根方向からと毎回吹く方向を変えて吹き重ねていく。

4



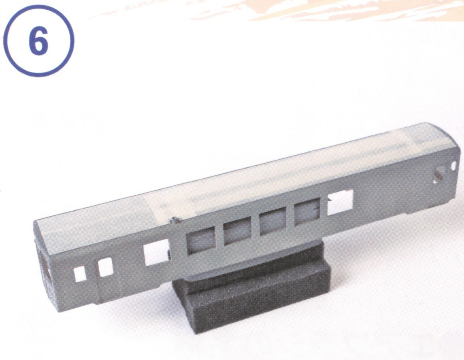
塗り残しやほこりがないかチェック。これは照明の下や太陽光など明るい場所でないと発見できない。ほこり除去の方法は工程⑩を参照。

5



１色目の塗装完了。車体にもグレーを吹き付けたのは次に塗る色の発色を良くするため。次のマスキング作業まで最低でも24時間あけたい。

6



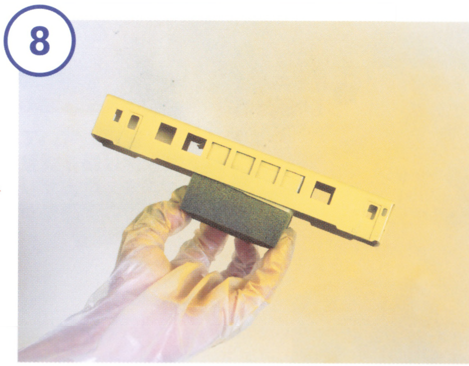
２色目に向けてマスキング。境界線のマスキングはテープをカッターで切った新しい切断面を使うとほこり付着がなく、美しく仕上がる。

7



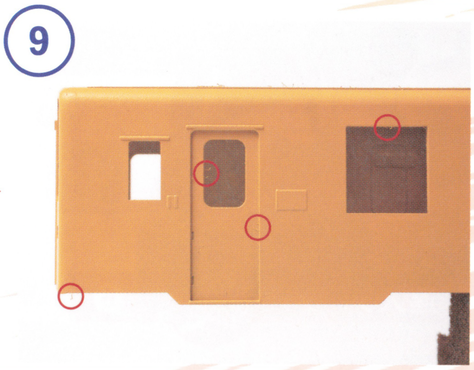
２色目を吹き付ける前に、にじみ止めとしてマスキングした境界線中心に１色目と同じ塗料（この場合はグレー）を吹き付ける。

8



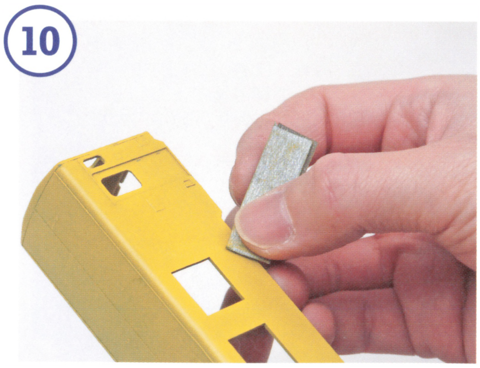
にじみ止め塗装の後、ちょっと時間を空けてから（24時間とはいわないが大目に）２色目を吹き付け。発色を確認しながら塗り重ねていく。

9



ゴミや汚れなどを要チェック。吹き付け中には実に多くのゴミが付着する。また乾燥前の状態で何かに触れ塗膜を侵してしまうこともある。

10



ゴミはピンセットで除去、2000番の紙ヤスリで研ぐ。場合によっては1500番や1000番も。修正部を中心に吹き付けを再開、仕上げる。

11



最終的な確認ができたら、塗装台に載せたまま、風通しの良いところで数時間自然乾燥。その後、マスキングテープを丁寧に剥がしていく。

12



パーツも同様に塗装して組み立てる。屋根上機器は屋根板と同色であっても塗り残しやムラになりやすいので、別に塗装するのがいい。

塗装にチャレンジ！

実践③ 筆塗り



筆塗りも重要なテクニックだ。特に細かい塗り分けなどマスキングの手間を考えると吹き付けより効率的だ。慣れてくると大面積の塗装も筆塗りできる。

ラッカー塗料には不向きだが汎用性の高い塗装テクニック

きれいに仕上げるにはスプレーによる吹き付けが基本だが、すべてそれだけで塗装ができる訳ではない。若干の修正や車体にモールド、接着した配管手すりなどの線材に色を入れるときなど筆塗りを必要とする場面もある。

なお、筆塗りでは塗料の選び方も重要だ。乾燥の早い塗料を筆塗りするのは難しいため、初心者の場合、ラッカー塗料は避けたい。おすすめはエナメル塗料、アクリル塗料、水性アクリル塗料など。塗料の特性を考えながら作業しよう。

達人タムラの技…⑦

缶スプレーの塗料も使える

缶スプレーの塗料も筆塗りに使うこともできる。方法は簡単。適当な塗料皿に至近距離でスプレーすれば、原液を取り出すことができる。ただし、周辺に飛び散ることも多いので、古新聞紙などの上で作業すること。

取り出した塗料はすぐ使えば筆塗りに適した濃度となっている。缶スプレーで塗装したモデルのタッチアップ（傷の補修など）に便利だ。もちろん、色調もぴったり揃う。ただし、塗料を大量に取り出して筆塗りするのはコストもかかる。応急処置のテクニックとして覚えておきたい。



缶スプレーを塗料皿に向けて至近距離でスプレー。周囲に飛ぶので要注意。

●塗料の濃さがポイント



筆塗りもエアブラシ同様、原液の状態で販売されている塗料を使う。原液のまま使うこともあるが、塗料のノビが悪いときは専用の溶剤で希釈、濃度を調整しながら使う。この濃度は吹き付け塗装ほど厳密ではない。要は塗りやすければいいのだ。なお、塗装後は筆などを良く洗うこと。左端の「薄すぎ」の写真は極端に薄い例。洗浄後の筆を白い紙に当て、これと同程度に色が付くようなら、まだまだ洗浄不足と覚えておこう。

●筆で塗ってみよう

1



塗料を専用皿に出す

塗料はビンから直接使わず、専用皿などに移して使うこと。このとき調色スティックが便利。

2



溶剤を加える

専用の溶剤を入れ、塗料の濃度を調整。溶剤を入れるときはスポイトを使うのが確実だ。

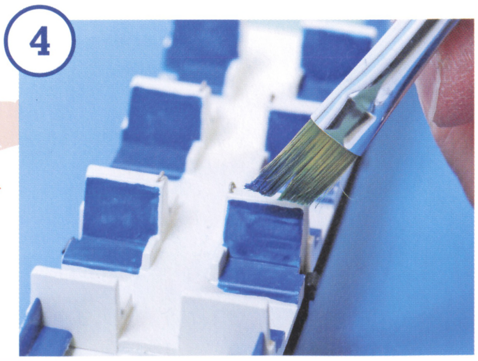
3



良く撹拌する

塗料は溶剤と良くかき混ぜてから使う。塗装作業中に濃くなったら、再び溶剤を入れて調整。

4

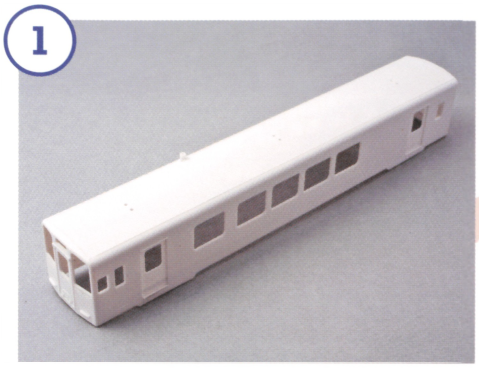


適量を筆に含ませて塗る

筆は毛の腰まで使わず、筆先で塗るようにするのがいい。慣れてくればマスキングは不要だ。

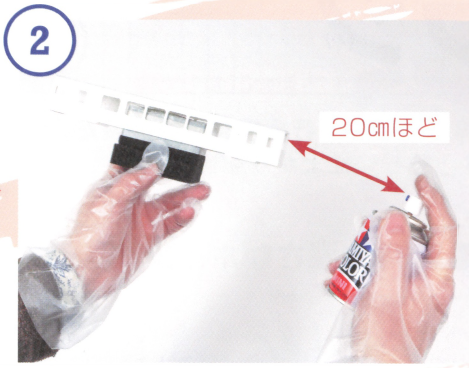
●缶スプレーで塗ってみよう

1



作例は1/80サイズの気動車（MAXモデル プラ製NDCキット組立）。ほこり付着など再確認。缶スプレーは新聞紙などに吹き付け状態確認。

2



缶スプレーは20cmほど離して吹く。対象物の外で空吹き、そのまま対象物に移動して吹き付け。このサイズなら1回1秒以内の移動速度。

3



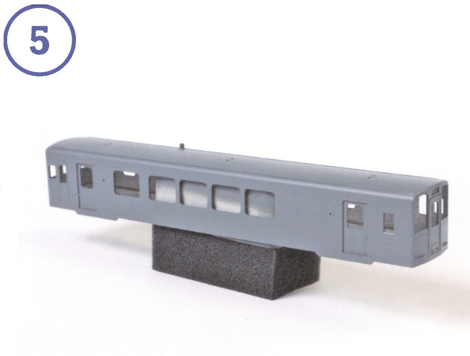
1回に吹くのはこの程度。車体側面の場合、裾方向から、車体中央、屋根方向からと毎回吹く方向を変えて吹き重ねていく。

4



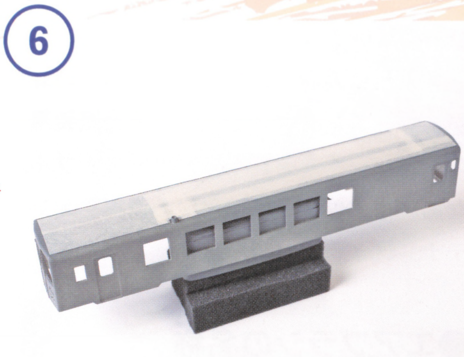
塗り残しやほこりがないかチェック。これは照明の下や太陽光など明るい場所でないと発見できない。ほこり除去の方法は工程⑩を参照。

5



１色目の塗装完了。車体にもグレーを吹き付けたのは次に塗る色の発色を良くするため。次のマスキング作業まで最低でも24時間あけたい。

6



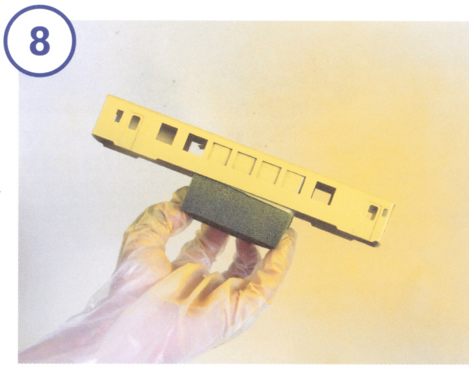
２色目に向けてマスキング。境界線のマスキングはテープをカッターで切った新しい切断面を使うとほこり付着がなく、美しく仕上がる。

7



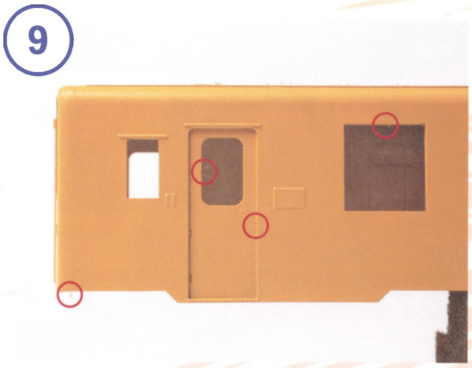
２色目を吹き付ける前に、にじみ止めとしてマスキングした境界線中心に１色目と同じ塗料（この場合はグレー）を吹き付ける。

8



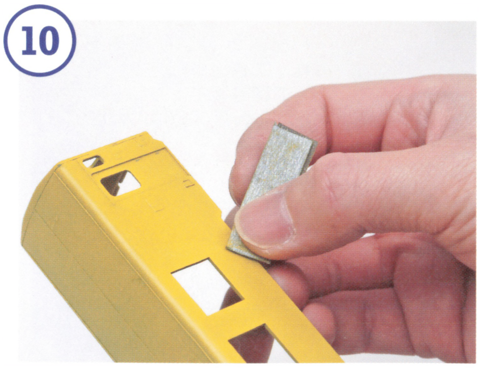
にじみ止め塗装の後、ちょっと時間を空けてから（24時間とはいわないが大目に）２色目を吹き付け。発色を確認しながら塗り重ねていく。

9



ゴミや汚れなどを要チェック。吹き付け中には実に多くのゴミが付着する。また乾燥前の状態で何かに触れ塗膜を侵してしまうこともある。

10



ゴミはピンセットで除去、2000番の紙ヤスリで研ぐ。場合によっては1500番や1000番も。修正部を中心に吹き付けを再開、仕上げる。

11



最終的な確認ができたら、塗装台に載せたまま、風通しの良いところで数時間自然乾燥。その後、マスキングテープを丁寧に剥がしていく。

12



パーツも同様に塗装して組み立てる。屋根上機器は屋根板と同色であっても塗り残しやムラになりやすいので、別に塗装するのがいい。

実践 3

塗装にチャレンジ!

筆塗り



筆塗りも重要なテクニックだ。特に細かい塗り分けなどマスキングの手間を考えると吹き付けより効率的だ。慣れてくると大面積の塗装も筆塗りできる。

ラッカー塗料には不向きだが汎用性の高い塗装テクニック

きれいに仕上げるにはスプレーによる吹き付けが基本だが、すべてそれだけで塗装ができる訳ではない。若干の修正や車体にモールド、接着した配管手すりなどの線材に色を入れるときなど筆塗りを必要とする場面もある。

なお、筆塗りでは塗料の選び方も重要だ。乾燥の早い塗料を筆塗りするのは難しいため、初心者の場合、ラッカー塗料は避けたい。おすすめはエナメル塗料、アクリル塗料、水性アクリル塗料など。塗料の特性を考えながら作業しよう。

達人タムラの技…7

缶スプレーの塗料も使える

缶スプレーの塗料も筆塗りに使うこともできる。方法は簡単。適当な塗料皿に至近距離でスプレーすれば、原液を取り出すことができる。ただし、周辺に飛び散ることも多いので、古新聞紙などの上で作業すること。

取り出した塗料はすぐ使えば筆塗りに適した濃度となっている。缶スプレーで塗装したモデルのタッチアップ(傷の補修など)に便利だ。もちろん、色調もぴったり揃う。ただし、塗料を大量に取り出して筆塗りするのはコストもかかる。応急処置のテクニックとして覚えておきたい。



缶スプレーを塗料皿に向けて至近距離でスプレー。周囲に飛ぶので要注意。

●塗料の濃さがポイント



筆塗りもエアブラシ同様、原液の状態で販売されている塗料を使う。原液のまま使うこともあるが、塗料のノビが悪いときは専用の溶剤で希釈、濃度を調整しながら使う。この濃度は吹き付け塗装ほど厳密ではない。要は塗りやすければいいのだ。なお、塗装後は筆などを良く洗うこと。左端の「薄すぎ」の写真は極端に薄い例。洗浄後の筆を白い紙に当て、これと同程度に色が付くようなら、まだまだ洗浄不足と覚えておこう。

●筆で塗ってみよう



塗料を専用皿に出す

塗料はビンから直接使わず、専用皿などに移して使うこと。このとき調色スティックが便利。



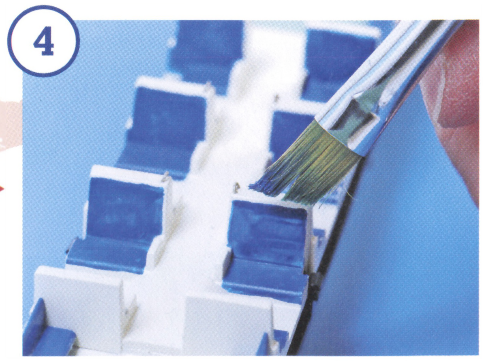
溶剤を加える

専用の溶剤を入れ、塗料の濃度を調整。溶剤を入れるときはスポイトを使うのが確実だ。



良く撹拌する

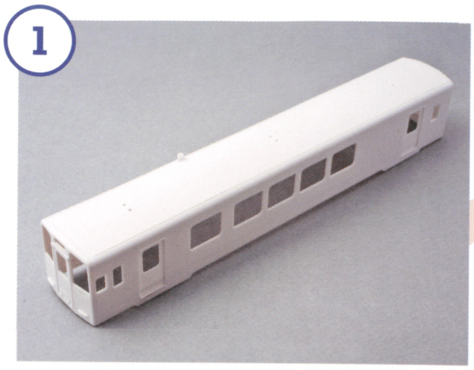
塗料は溶剤と良くかき混ぜてから使う。塗装作業中に濃くなったら、再び溶剤を入れて調整。



適量を筆に含ませて塗る

筆は毛の腰まで使わず、筆先で塗るようにするのがいい。慣れてくればマスキングは不要だ。

●缶スプレーで塗ってみよう



作例は1/80サイズの気動車（MAXモデル プラ製NDCキット組立）。ほこり付着など再確認。缶スプレーは新聞紙などに吹き付け状態確認。



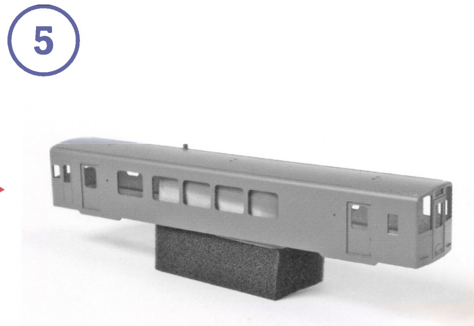
缶スプレーは20cmほど離して吹く。対象物の外で空吹き、そのまま対象物に移動して吹き付け。このサイズなら1回1秒以内の移動速度。



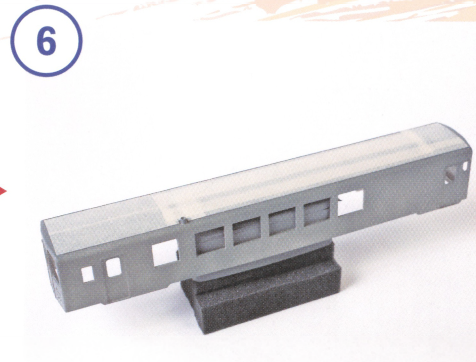
1回に吹くのはこの程度。車体側面の場合、裾方向から、車体中央、屋根方向からと毎回吹く方向を変えて吹き重ねていく。



塗り残しやほこりがないかチェック。これは照明の下や太陽光など明るい場所でないと発見できない。ほこり除去の方法は工程⑩を参照。



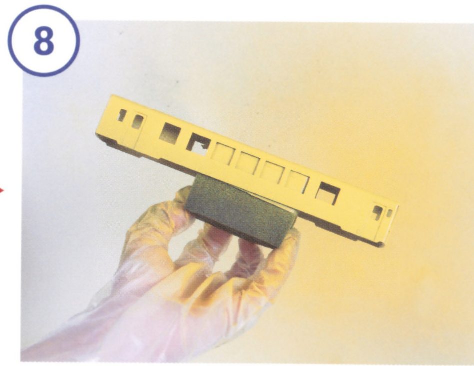
１色目の塗装完了。車体にもグレーを吹き付けたのは次に塗る色の発色を良くするため。次のマスキング作業まで最低でも24時間あけたい。



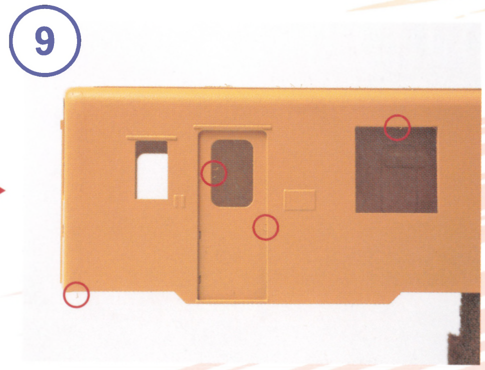
２色目に向けてマスキング。境界線のマスキングはテープをカッターで切った新しい切断面を使うとほこり付着がなく、美しく仕上がる。



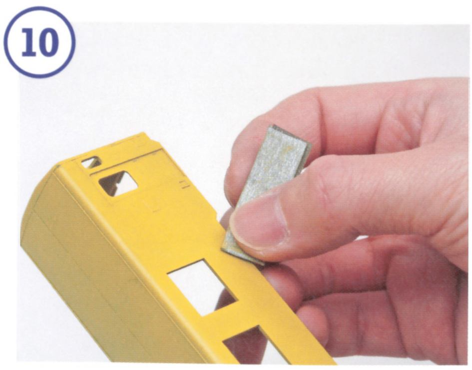
２色目を吹き付ける前に、にじみ止めとしてマスキングした境界線中心に１色目と同じ塗料（この場合はグレー）を吹き付ける。



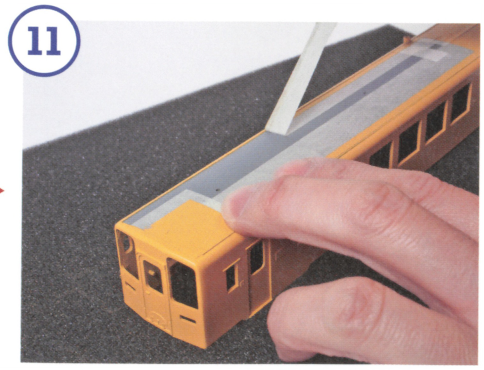
にじみ止め塗装の後、ちょっと時間を空けてから（24時間とはいわないが大目に）２色目を吹き付け。発色を確認しながら塗り重ねていく。



ゴミや汚れなどを要チェック。吹き付け中には実に多くのゴミが付着する。また乾燥前の状態で何かに触れ塗膜を侵してしまうこともある。



ゴミはピンセットで除去、2000番の紙ヤスリで研ぐ。場合によっては1500番や1000番も。修正部を中心に吹き付けを再開、仕上げる。



最終的な確認ができたら、塗装台に載せたまま、風通しの良いところで数時間自然乾燥。その後、マスキングテープを丁寧に剥がしていく。



パーツも同様に塗装して組み立てる。屋根上機器は屋根板と同色であっても塗り残しやムラになりやすいので、別に塗装するのがいい。

塗装にチャレンジ！

実践2 エアブラシ



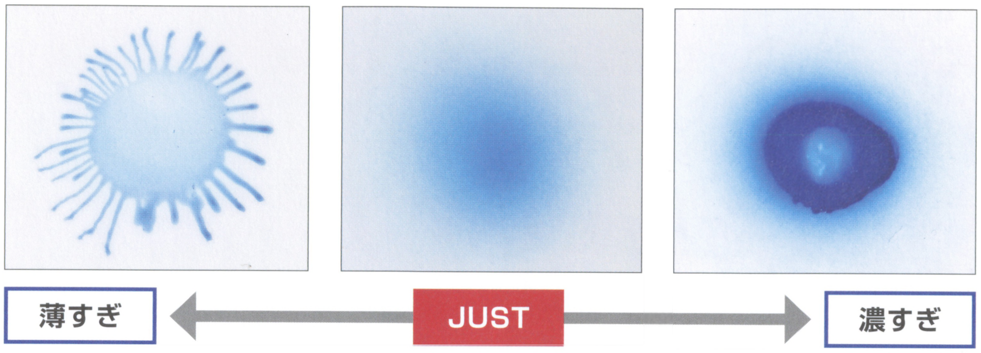
エアブラシまたはスプレーガンと呼ばれる専用の道具で行う吹き付け塗装だ。缶スプレーでは難しい微調整もたやすくでき、美しい仕上がりを得られる。

欲しい色を自由に調色 美しく吹き付け塗装できる

エアブラシ最大のメリットは、調色した好きな色を使い、吹き付け幅や吹き付けるタッチも調整でき、さまざまな塗装表現ができることだ。缶スプレーで制約された塗装も自由自在にできるのだ。

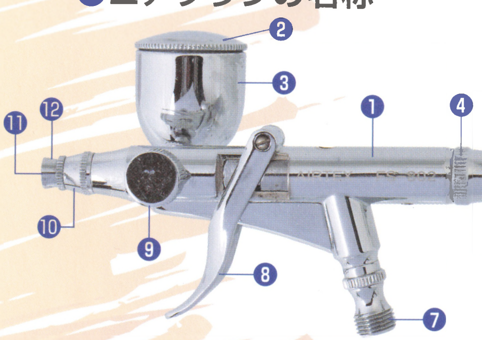
エアーはガスボンベも発売されているが、ランニングコストを考えると塗装用コンプレッサーを買う方がリーズナブル。なお、エアブラシは使用後の清掃やメンテナンスが重要。怠ると使えなくなる。

●塗料の濃さがポイント



エアブラシで使う塗料は原液の状態で販売されており、これを専用の溶剤で薄めて使う。メーカーによって吹き付け塗装用に調合されたものもあり、こちらがおすすめ。希釈する濃度は塗料の状態にもよるので経験を積みながら感覚をつかむしかない。目安としてはアクリル、水性アクリルは塗料1:溶剤0.5、ラッカーは塗料1：溶剤1〜2程度。どちらかといえば薄めに溶き塗り重ねるほうが失敗が少ない。

●エアブラシの名称

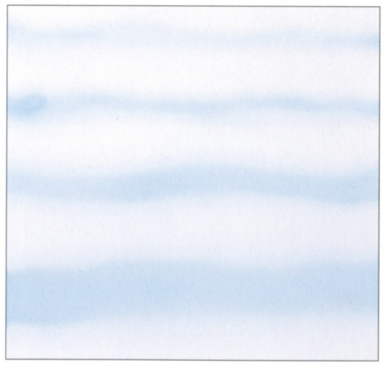


❶本体
❷塗料カップふた
❸塗料カップ
❹スプリングガイド
❺ダイヤル(塗料調整ネジ)
❻テールキャップ
❼エアバルブ
❽トリガー
❾ブランキングカバー
❿ノズルキャップ
⓫塗料ノズル
⓬ニードルキャップ

●吹き付け幅の調整も可能



エアブラシは後部に付いているノズル調整ネジで吹き付け幅を調整できる。単なる塗装ではなく、ウェザリングなどを表現するときにこの微調整が効いてくる。



達人タムラの技…6

エアブラシは使用後が要注意

残った塗料を容器(塗料は希釈済みなので、元の塗料ビンには入れず、保存するときは専用の容器を用意すること)などに戻し、本体内も吹ききっておく。

塗料カップに溶剤を入れ、先端の吹き出し口をティッシュで押さえる。トリガーを引くとカップ内に空気がブクブクと出てくる。しばらくしたらその溶剤ごと吹き出す。いわゆる"うがい"を3回ほど繰り返して終了。

良い仕事をしてくれるエアブラシに敬意を表し、たまには全部分解して内部清掃もすること。



←洗浄に使う溶剤は、塗料用溶剤を使ってもいいが、洗浄専用の溶剤もある。こちらのほうが洗浄力が強い。



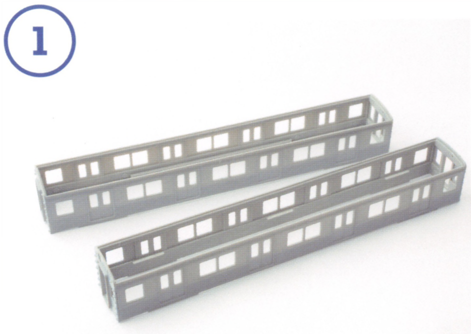
←塗料カップに溶剤を入れ、吹き出し口をティッシュで押さえてトリガーを引く。これが"うがい"状態だ。

→しばらく"うがい"をしたら新聞紙などに吹き付け。色がつかなくなったら洗浄は完了。溶剤をすべて吹き出す。



●エアブラシで塗ってみよう

1



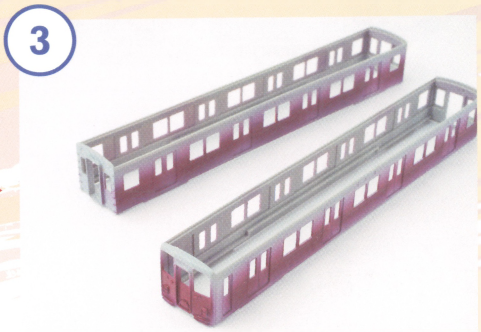
作例は1/150サイズの電車（GM製東武10000系キット）。塗る順序はグレー→えんじ→（帯マスキング後）えんじ→スーパーシルバーだ。

2



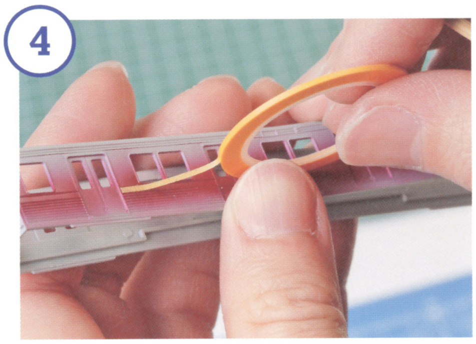
グレーはえんじの発色を良くするための下塗り。えんじは帯の表現。エアブラシの吹き付け幅を絞り、帯部分を中心に細吹きしていく。

3



帯部分を中心にえんじ塗装完了。厚塗りにもならず、部分塗装ができるのもエアブラシならではの技。この状態で24時間程度乾燥させる。

4



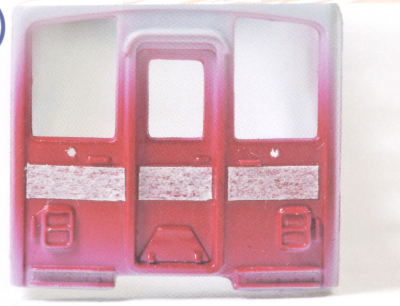
帯部分をマスキング。作例はAIZU製の1.0㎜幅マスキングテープを使用。テープ端面にほこりが付かぬよう密閉袋などで保管しておく。

5



マスキングテープは竹串などでこすってしっかり貼り付ける。車体との間に隙間があると塗料が入り込んでしまうのだ。特に隅は要注意。

6



正面は寸法通りに切り出したテープを貼る。このキットは塗り分け線がモールドされているが、ない場合は正確な位置合わせが要求される。

7



マスキングが終わったら、一度、同色を吹いてにじみ止めをする。この作業はテープ切り口から内部へ次色の浸出を食い止める効果がある。

8



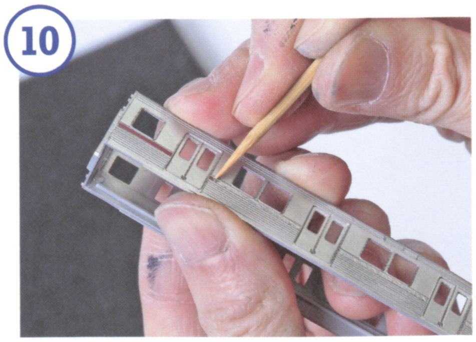
にじみ止めが乾燥したところで、銀色を吹き付ける。車体全体を塗るときは、各方角から一定の距離を保ち、同じ吹き付け量とするのが鉄則。

9



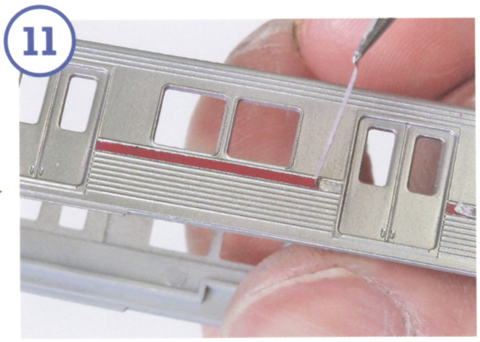
ステンレス車体のできあがり。塗り残し箇所は凹凸のあるところに起きやすい。明るい場所で角度を変えて慎重にチェックしよう。

10



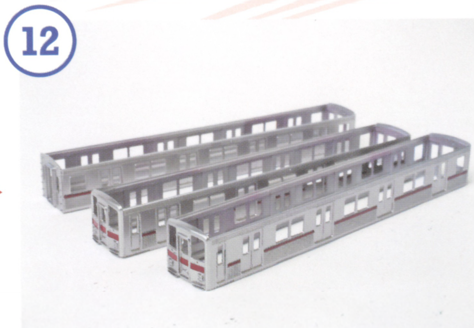
マスキングテープを剥がす。最初にテープを手繰り寄せるときは竹串を使う。これなら車体の塗装を傷つけない。それでも力を加減して慎重に。

11



後はピンセットなどで摘み取る。塗装前の洗浄、塗装後の乾燥が不十分だと塗膜までいっしょに剥がれ落ちる。乾燥は24時間ほどかけたい。

12



車体塗装のでき上がり。最初はあせらず、基本をしっかり身に付けるつもりで。経験を重ねていくうちにテクニックが向上するはずだ。

塗装にチャレンジ！

実践3 筆塗り



筆塗りも重要なテクニックだ。特に細かい塗り分けなどマスキングの手間を考えると吹き付けより効率的だ。慣れてくると大面積の塗装も筆塗りできる。

ラッカー塗料には不向きだが汎用性の高い塗装テクニック

きれいに仕上げるにはスプレーによる吹き付けが基本だが、すべてそれだけで塗装ができる訳ではない。若干の修正や車体にモールド、接着した配管手すりなどの線材に色を入れるときなど筆塗りを必要とする場面もある。

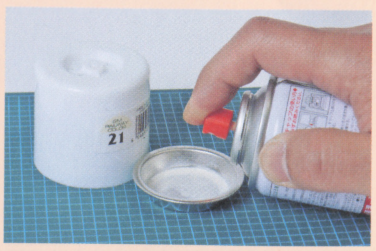
なお、筆塗りでは塗料の選び方も重要だ。乾燥の早い塗料を筆塗りするのは難しいため、初心者の場合、ラッカー塗料は避けたい。おすすめはエナメル塗料、アクリル塗料、水性アクリル塗料など。塗料の特性を考えながら作業しよう。

達人タムラの技…7

缶スプレーの塗料も使える

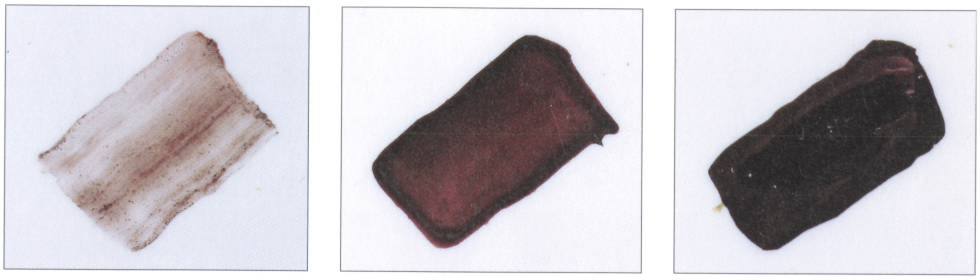
缶スプレーの塗料も筆塗りに使うこともできる。方法は簡単。適当な塗料皿に至近距離でスプレーすれば、原液を取り出すことができる。ただし、周辺に飛び散ることも多いので、古新聞紙などの上で作業すること。

取り出した塗料はすぐ使えば筆塗りに適した濃度となっている。缶スプレーで塗装したモデルのタッチアップ(傷の補修など)に便利だ。もちろん、色調もぴったり揃う。ただし、塗料を大量に取り出して筆塗りするのはコストもかかる。応急処置のテクニックとして覚えておきたい。



缶スプレーを塗料皿に向けて至近距離でスプレー。周囲に飛ぶので要注意。

●塗料の濃さがポイント



薄すぎ ← JUST → 濃すぎ

筆塗りもエアブラシ同様、原液の状態で販売されている塗料を使う。原液のまま使うこともあるが、塗料のノビが悪いときは専用の溶剤で希釈、濃度を調整しながら使う。この濃度は吹き付け塗装ほど厳密ではない。要は塗りやすければいいのだ。なお、塗装後は筆などを良く洗うこと。左端の「薄すぎ」の写真は極端に薄い例。洗浄後の筆を白い紙に当て、これと同程度に色が付くようなら、まだまだ洗浄不足と覚えておこう。

●筆で塗ってみよう

1



塗料を専用皿に出す

塗料はビンから直接使わず、専用皿などに移して使うこと。このとき調色スティックが便利。

2



溶剤を加える

専用の溶剤を入れ、塗料の濃度を調整。溶剤を入れるときはスポイトを使うのが確実だ。

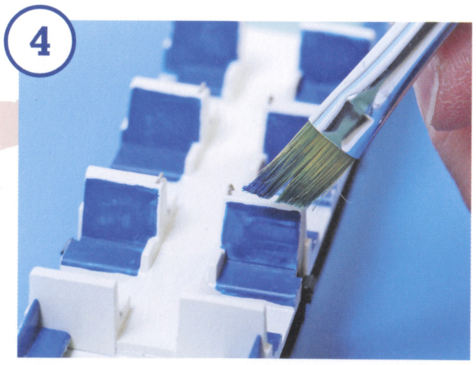
3



良く撹拌する

塗料は溶剤と良くかき混ぜてから使う。塗装作業中に濃くなったら、再び溶剤を入れて調整。

4



適量を筆に含ませて塗る

筆は毛の腰まで使わず、筆先で塗るようにするのがいい。慣れてくればマスキングは不要だ。

スミ入れで立体感を演出

PLUS ONE

　車両や建物に限らず、モデルでは立体感が乏しく感じることがある。実は影による実物とモデルの効果の違いが出てしまっているのだ。モデルは実物よりも小さく縮尺されて作られており、また室内で鑑賞することも多いため、どうしても影ができにくいのだ。これにより縮尺通りに作られていても、立体感が乏しく見えてしまうのである。

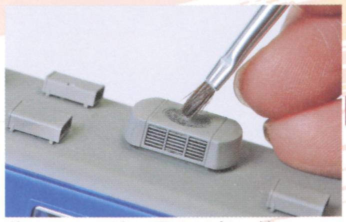
　それを補うテクニックが「スミ入れ」だ。モデルの凹部の色を濃く強調、影があるように見せてやる手法である。

　アクリル塗料やラッカー塗料で仕上げられたモデルの場合、エナメル塗料や専用に作られたマーカーなどで色入れ。はみ出た部分を溶剤を含ませた綿棒、あるいは消しゴムなどでこすり取って仕上げる。本体の塗装と同系の溶剤を使い、こすりすぎたりすると地の塗装も痛めてしまうので要注意。

　スミ入れする場所は屋上機器、ドアの隙間などが一般的だが、好みによって窓まわりなど全般的にやってもいい。



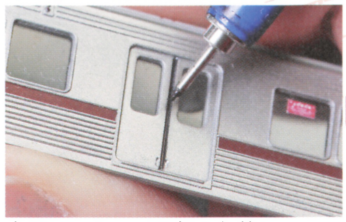
スミ入れに使える塗料も各種販売されている。



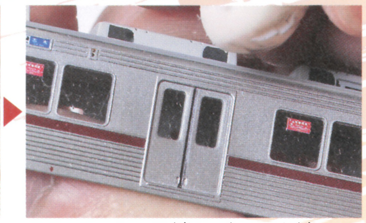
薄めたつや消し黒を凹部に塗る。



溶剤を含んだ綿棒で塗料をぬぐう。



専用マーカーで凹部に色差し。

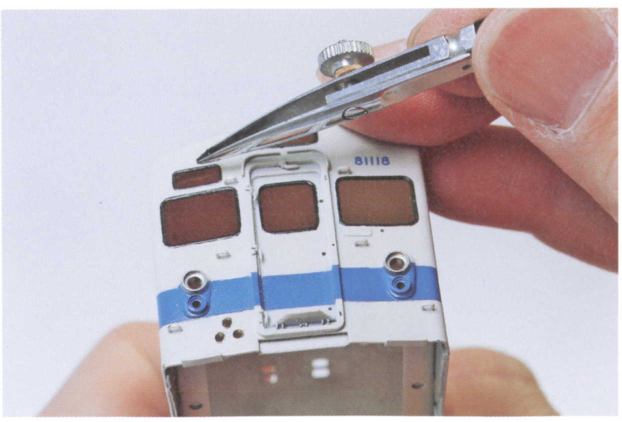


このマーカーは消しゴムでも消せる。

Hゴムなどの塗装はカラス口が便利

PLUS ONE

　窓ふちのHゴムなど出っ張り直線には本来、画材用品としての用途であるカラス口を使う方法もある。エナメル塗料を希釈し調色スティックで口に含ませる。端材でためし書きし、線の濃度や口幅、太さ、塗る角度方向など調整してから本体に本番色入れをする。面相筆を使った筆塗り色入れと違い、塗りムラもなく細い直線を均一に仕上げることができるのが特徴だ。使いこなすまではやはり、経験を積まなくてはならないが、慣れてくると作業効率も良くなるし、きれいにそろった直線は引き締まって見える。上級者は側面雨トイに長い直線を入れる場合もある。



1/80東武8000系前面Hゴム黒を色入れしている様子。一定の速さで線を引くことも重要。道具の価格も手ごろなので一度は試したい。

ツヤ消しに仕上げるテクニック

PLUS ONE

　塗装面の仕上がりは、ツヤあり(光沢)、ツヤ消し、さらには微妙なツヤの状態にした半ツヤ(半光沢)がある。基本はツヤありだが、缶スプレーや原液で販売されている塗料のなかでもツヤの状態を調整した製品もある。これは「ツヤ消し」あるいは「マット」などと表示されている。

　缶スプレーは調整できないが、原液塗料の場合、専用のツヤ消し剤を混ぜることでツヤの状態を調整できる。

　また、缶スプレーでもツヤの状態を調整したクリア塗料がある。これを最後の仕上げとして吹き付ければ、色調は変わらずツヤの調子を好みのものに仕上げられる。

ツヤ消しとしたクリア塗料の缶スプレーも各社から発売されている。これを仕上げに吹き付ければ、ツヤ消し状態になる。デカールなどの剥がれ防止にも役立つ。





原液の塗料に混ぜて使うツヤ消し剤(フラットベースとも呼ぶ)。写真は水性アクリル塗料のタミヤカラー用。

塗装がもっと楽しくなる上級テクニック

建築物に郷愁を加える 至高のウェザリング術

達人 **諸星昭弘**［もろほし・あきひろ］

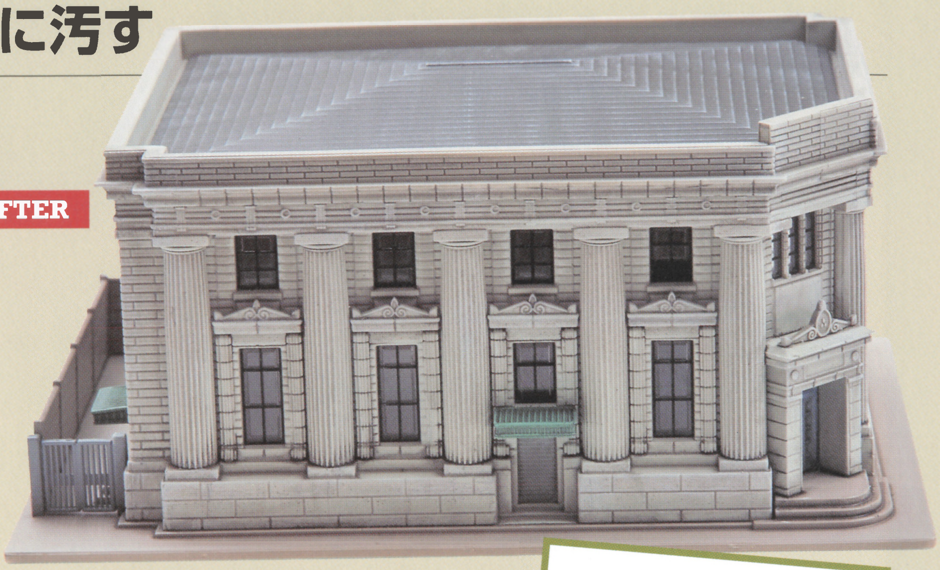
オモロデザイン代表、イラストレーター、模型作家。小学5年生の時に蒸気機関車に興味を持ち、やがて鉄道模型へ傾倒。「鉄道模型趣味」レイアウトコンペ特別賞受賞（1997年）ほか受賞歴多数。2007年～2008年NHK教育「趣味悠々」に鉄道模型講師として出演。

模型を実感的に見せるために欠かせないのがウェザリングである。ウェザリングよって重厚感や存在感が増し、情景としての説得力も増す。

❶ コンクリートを実感的に汚す

重厚感のあるデコレーションが美しい地方銀行のストラクチャーをウェザリングで仕上げてみよう。石積みの目地や柱など細かいディテールが多い建物なので、スミ入れやドライブラシという技法の効果を実感するのに最適なストラクチャーである。作業はシンプル、ウェザリングに最初にチャレンジするのにおすすめだ。今回はプラスチックの成型色のまま手を加えずに仕上げげたが、スミ入れとドライブラシだけでも印象が変わるのがわかるだろう。多くの完成品にも流用が出来る技法なので一度試してほしい。

AFTER



BEFORE



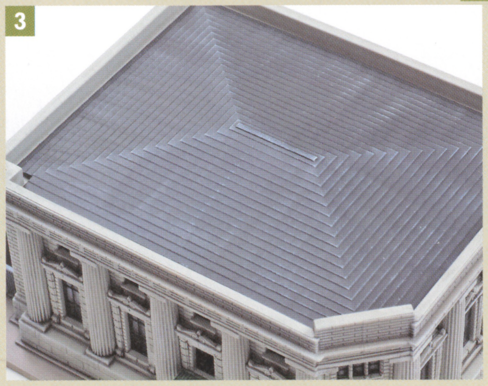
1



2



3

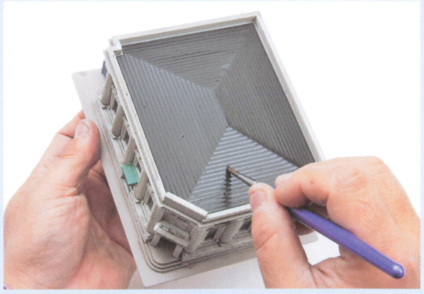


石積みの目地にキレイにスミ（陰）が入るととてもキレイだ。ディテールのしっかりした模型にこのスミ入れを行うとその形をより認識できるようになる。まるでお化粧のようなものだ。ひと手間加えることで製品の良さを最大限アピールするのがウェザリングである。

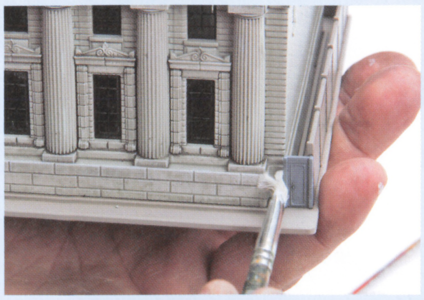
達人諸星の技…❶

ウェザリングのポイントになるスミ入れとドライブラシ

スミ入れは「陰」、ドライブラシは「光」を表現する技法である。模型には細かい凹凸（ディテール）が沢山ある。凹凸があればそこに光が当る。光が当たればエッジにはハイライトが入り、奥まったところには陰が出来る。例えば絵画ではこれらの濃淡を色分けしていくことで平面の紙にも立体感が生まれるのだ。立体である模型にも陰とハイライトを表現することで模型の形がよりハッキリし、存在感が増すというわけだ。



薄く希釈した塗料が凹みに流し込まれると模型の彫りがより深くハッキリ見えてくる。



エッジに明るい色が入っていくと光が当たったように見え立体感が強調される。

STEP 1 スミ入れ

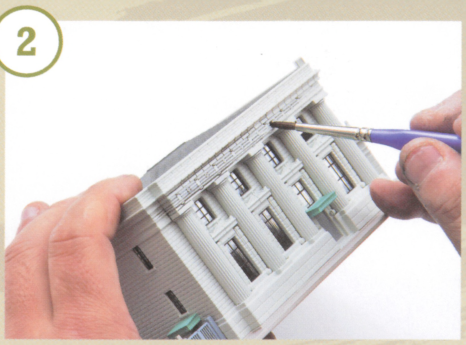
1



ツヤ消しスプレーで定着性を上げる

ウェザリングは繊細な塗装が多くなるので、塗料の定着性をあげるためにツヤ消しスプレーを軽く散布。

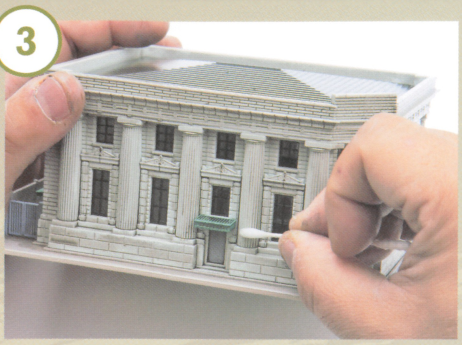
2



スミ入れ専用塗料を塗る

専用溶剤を少し加えて濃度調整をしたスミ入れ塗料のブラックを筆で全体に塗る。

3

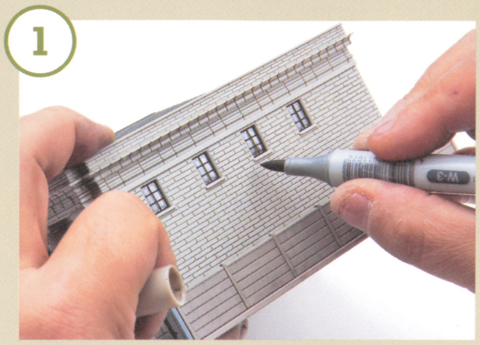


余分な塗料を綿棒で拭き取る

エナメル溶剤を付けた綿棒で余分な塗料を拭く。綿棒を縦に動かせば同時に水アカ表現も可能。

STEP 2 ペインティング

1



部分的に雨だれの表現を追加する

アルコールマーカーの筆ペン（チャオ）のウォームグレイを使用。伸びが良く塗りやすい。

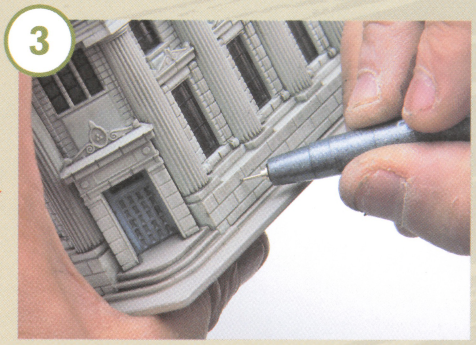
2



透明ペン(カラーレス)でタッチを調整

カラーレスのペンを使うと余分な部分をぼかすことができる。

3



グレーの極細ペンで石の雰囲気を表現

0.03㎜のマルチライナーのグレーや黒を使って小さな点を描き、石の雰囲気を出す。

STEP 3 ドライブラシ

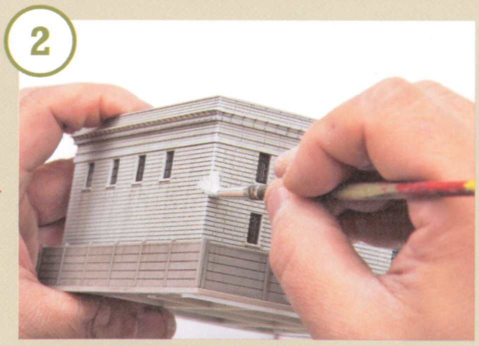
1



アクリルガッシュでドライブラシ

アクリルガッシュのホワイトとニュートラルグレーなどを混ぜて下地より一段明るい色を調色。

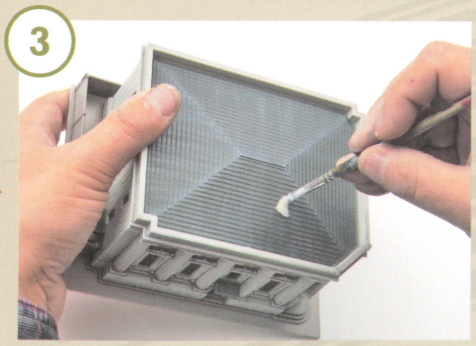
2



エッジの部分をハイライトで強調

平筆に含ませた塗料をティッシュなどでよく拭き取ってからエッジ部分に筆を擦り付ける。

3



ディテールに対して直角が基本

凹凸に対して直角方向に筆を動かす。エッジ部分にだけ塗料が付いていく感覚を覚えること。

使用アイテム一覧

- スミ入れ塗料（ブラック）……タミヤ
- エナメル溶剤（X-20）……タミヤ
- スーパークリヤー（ツヤ消し）……GSIクレオス
- アクリルガッシュ　ホワイト……ターナー
- アクリルガッシュ　グレイッシュブラウン……ターナー
- アクリルガッシュ　ニュートラルグレー……ターナー
- チャオ　ウォームグレイ（W-3）……コピック
- チャオ　カラーレス（0）……コピック
- マルチライナー0.05（グレー）……コピック

❷ 木造の建築物をリアルに再塗装

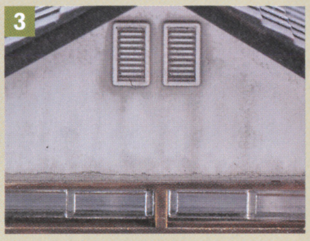




レイアウト製作において絶対に欠かせないストラクチャーが駅舎である。中でもローカル線によく似合う木造駅舎は出番も多いことだろう。トミックスの定番製品でもあるこの駅舎は大きさもデザインも実に好ましいスタイルで評判も高い。今回はこの駅舎をよりリアルに仕上げていこうと思う。パーツなどの追加やディテールアップは基本的に行わずに塗装とウェザリングの作業だけでどこまで表現できるかにチャレンジしたい。







見慣れた定番製品も雰囲気がずいぶんと変わった。メイン色の変更は全体のイメージを一新し、ウェザリングは色の濃淡を細かく加えることでディテールそれぞれが主張してくる。瓦や下見板は一枚一枚微妙に色が変化していて存在感が増したのがわかる。漆喰の壁の面は、前ページで紹介した地方銀行同様、アルコールマーカーの筆ペン（チャオ）などで雨だれが入ることで引き締まる。

STEP 1 塗装



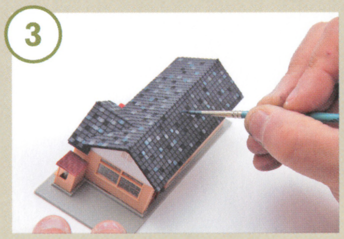
ツヤ消しスプレーで定着性を上げる

今回も最初にツヤ消しスプレーを吹き付けてその後の塗料の食い付きを良くする。



アクリルガッシュで再塗装

屋根は濃いグレーをチョイスした。小さな平筆で塗っていく。ムラは特に気にしない。



色使いで瓦の表情を出す

全面が塗れたら、一段明るめと暗めの２色を調色してランダムに塗っていくと瓦に臨場感が出てくる。



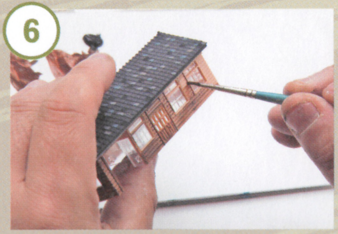
木目を表現する下準備

カッターナイフを下見板に沿って横に動かして細かいスジ目を付ける。これが塗装で木目となる。



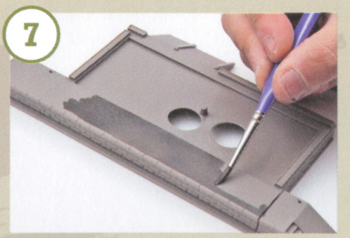
木材の色の調色

黒、こげ茶、セピアなどの色を好みで調色する。色の変化が出るようにこまめに調色する。



下見板（木材部分）の塗装

はじかない程度に薄めた塗料を細筆で少しずつ塗っていく。ここでは少しムラが出るくらいにする。



ホームの着色

ダークグレーを塗る。薄めた塗料を使うと梨地加工がされたホームの表面が浮き立つ。



石積みの表現

屋根と同様に石積みの部分も近似色を塗って変化をつける。色の差が大きいと不自然になるので注意。

達人諸星の技…❷

仕上げ後の色彩をイメージした塗装のコツ

スミ入れは暗い色を流し込むため元々の色より全体の色が沈む傾向がある。またドライブラシはエッジに明るい色が入ることで彩度が落ちたような印象になることも多い。それらを押さえるためにはベースの色が一段暗くなることをイメージして少し明るめ(鮮やか)に塗るとよい。またドライブラシはライトグレーだけでなくベースの色に合わせて同系色を使うと彩度が落ちないので試してほしい。色のチョイスには慣れが必要だ。

スミ入れ前



立体感が出てくるが全体に色が沈んだイメージになりやすい。

スミ入れ後



色味（彩度）が損なわれること無くエッジが明るくなっているのがわかる。

STEP 2 スミ入れ

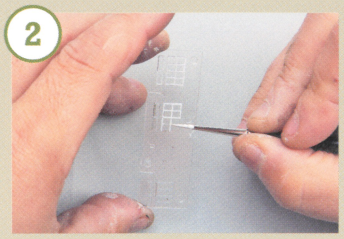
1



窓枠に色差しをする

窓枠は透明パーツ一体式なので窓枠部分に色を塗るために部品を取り外して作業する。

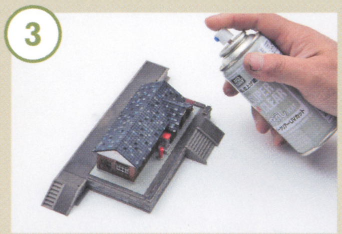
2



面相筆でシャープに仕上げる

枠の部分は一段出ているので、面相筆の腹を使って塗るようにするとはみ出しにくい。

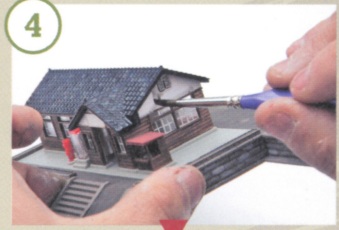
3



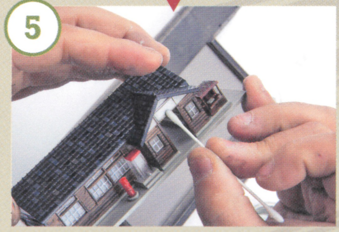
スミ入れをして仕上げる

塗装完成後に、艶消しスプレーを軽く吹き付けて塗料を定着。地方銀行と同様にスミ入れの作業を行う。木目もキレイに仕上がる。

4



5



STEP 3 ドライブラシと仕上げ

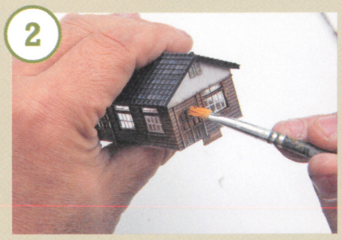
1



屋根はライトグレーでドライブラシ

仕上げはドライブラシだ。今回は下地の色に合わせて色をチョイス。黒の屋根にはライトグレーを使用。

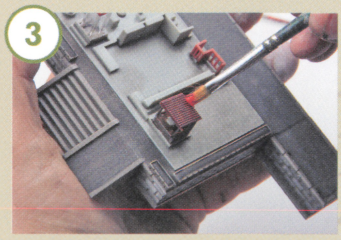
2



木目はオレンジイエロー

木目の部分はオレンジとイエローを調色する。下地の色の一段明るくまた鮮やかな色を使う。

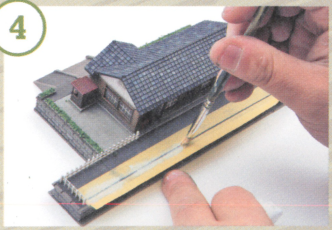
3



細部もこまめに仕上げる

小豆色の屋根には濃いめのピンクをドライブラシ。部分的に色を変えれば色味を落とさずに仕上がる。

4



ホームの白線の表現

応用編として1㎜程度にマスキングした所に強めにドライブラシすればかすれた白線も再現できる。

使用アイテム一覧

- スミ入れ塗料(ブラック)……タミヤ
- エナメル溶剤(X−20)……タミヤ
- スーパークリヤー(ツヤ消し)……GSIクレオス
- アクリルガッシュ　ホワイト……ターナー
- アクリルガッシュ　ランプブラック……ターナー
- アクリルガッシュ　バーントアンバー……ターナー
- アクリルガッシュ　グレイッュベージュ……ターナー
- アクリルガッシュ　グレイッシュブラウン……ターナー
- アクリルガッシュ　ニュートラルグレー……ターナー
- アクリルガッシュ　パーマネントレッド……ターナー
- アクリルガッシュ　パーマネントイエロー……ターナー
- アクリルガッシュ　パーマネントオレンジ……ターナー
- チャオ　ウォームグレイ(W-3)……コピック
- チャオ　カラーレス(0)……コピック
- マルチライナー0.05　(グレー)……コピック

完成品加工に絶対役立つ 部分塗装による仕上げテクニック

車体帯のラインを崩さず塗り分けるのはベテランでも至難の業。完成品加工の場合、その美しさを保ったまま補修箇所を塗り上げてしまうテクニックがある。

達人 会津和樹［あいづ・かずき］

1986年生まれ。幼少期より鉄道模型に触れ、実物にも興味が広がる。特に国鉄型電機を追い求めるうちにモデルも特定番号機で製作するようになった。これは完成状態の製品加工が中心。このとき、製品の美しい塗装を極力残して仕上げる手法にたどり着き、リアルな作品を数多く作り上げている。

部分塗装で仕上げたNゲージのEF65P形



TOMIX製EF65P形を加工して仕上げた会津さんの作品。モールド表現の手すりを線材に変えるなど多岐にわたってディテールアップ、部分塗装で仕上げている。

製品の塗装を残しながら加工

完成品として製品化されているNゲージの電気機関車を素材として実車に即したディテールアップ加工を得意とする会津さん。加工しない部分では極力製品の塗装も活かし、ラインの揃った美しい作品に仕上げている。そのとき、大活躍するのが部分塗装のテクニック。これは塗装の手順を考え、さらにマスキングと調色をうまくこなすのがポイントだ。



↑今回の作例としたTOMIX製のEF65PF形（オリジナルのクリーム色を落とした状態）。ブロック式となったナンバープレートの穴を埋め、すっきりとした仕上げをめざす。



屋根上では吊り金具、信号煙管、ホイッスル、高圧母線などを追加、パンタ細部も塗り分け。



車体側面では台車に取り付けられた速度検出記録装置が効果的。これは極細の真鍮線を使用。



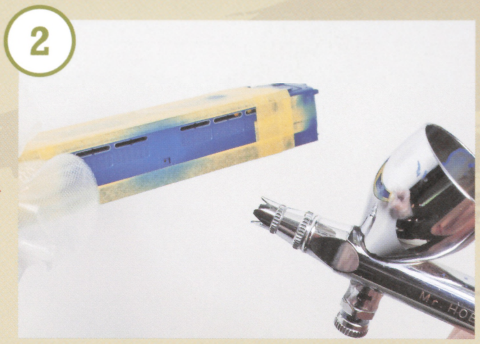
● 部分塗りは調色とマスキングが肝心

STEP 1 青色(青15号)の部分塗り

① 

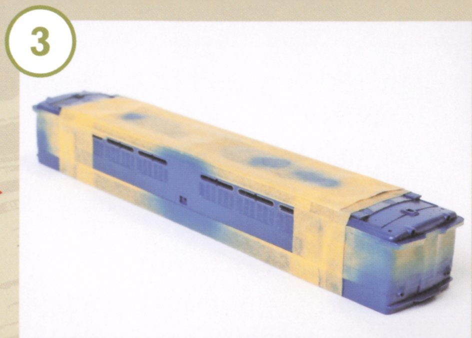
最初にクリーム部をマスキング

EF65は青とクリームの２色。最初に青を塗るため、マスキングテープでクリーム部を覆っていく。

② 

製品に合わせて調色した青を吹く

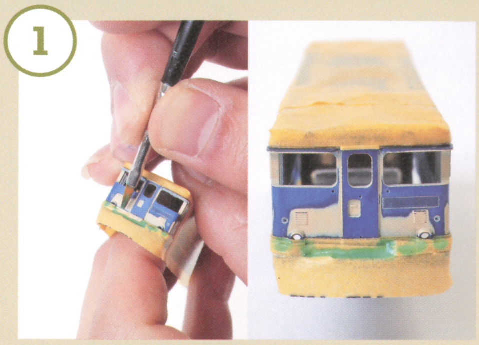
製品に合わせて調色した塗料をエアブラシで吹き付ける。側面はナンバー中心の吹き付けとなる。

③ 

塗り終わったら最低24時間乾燥

塗料が完全に乾かぬうちにマスキングテープをはがすと事故の元。最低でも次は翌日の作業とする。

STEP 2 クリーム色(クリーム1号)の部分塗り

① 

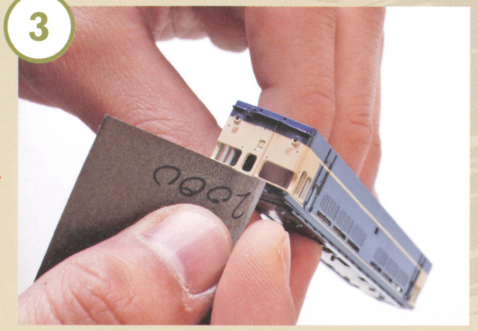
細かいマスキングはゾルも併用

今度は青に塗る部分をマスキング。正面はステップ、標識灯など細かい作業となる。何種もの細いテープを使い、丁寧に貼っていく。最後はその隙間を埋める形でマスキングゾルも使用。

② 

青部をマスキングしてクリームを吹く

最初ににじみ止め(47ページ参照)で青を吹き、乾燥させてからクリームを薄く何度も吹き重ねる。

③ 

さらに24時間後、細部を修正

完全に乾燥させてからマスキングテープを剥がす。塗り分けラインのにじみやほこり付着などがあれば2000番の紙ヤスリで修正。必要があれば再度、同じ手法で塗り直しておく。

達人会津の技

部分塗りはマスキングで仕上りの8割が決まる!!

会津さんのマスキングはさまざまな幅の細いマスキングテープを用意して使い分けている。根気のいる作業で、実際の加工や塗装そのものよりも数倍時間がかかる。テープは住友スリーエムの製品がまっすぐ貼れ、しかも糊移りせずおすすめという。細いテープはAIZU製品を愛用。

塗料は同じ青15号でも製品によって微妙に色調やツヤが異なる。青20号や青22号などを混ぜながら調色。最後はプラシートにテスト塗装。乾いたところで製品の車体に合わせ、色調やツヤをチェック。これもトライ＆エラーで時間のかかる作業だ。

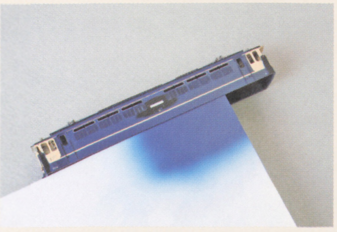




↑ AIZU製などの幅の細いマスキングテープを使い分けると作業効率が上がる。テープは密閉式のビニール袋に保存。テープの幅が一目でわかり、テープの端にほこりが付くことも防げる。←マスキングゾルも使う。ただし、マスキングゾルだけでマスキングを仕上げることはせず、マスキングテープの隙間を確実に埋めるといった使い方だ。



塗料はグリーンマックスやモリタの製品をメインに使って微妙に調色。調色できた塗料は別のビンに保存しておく。



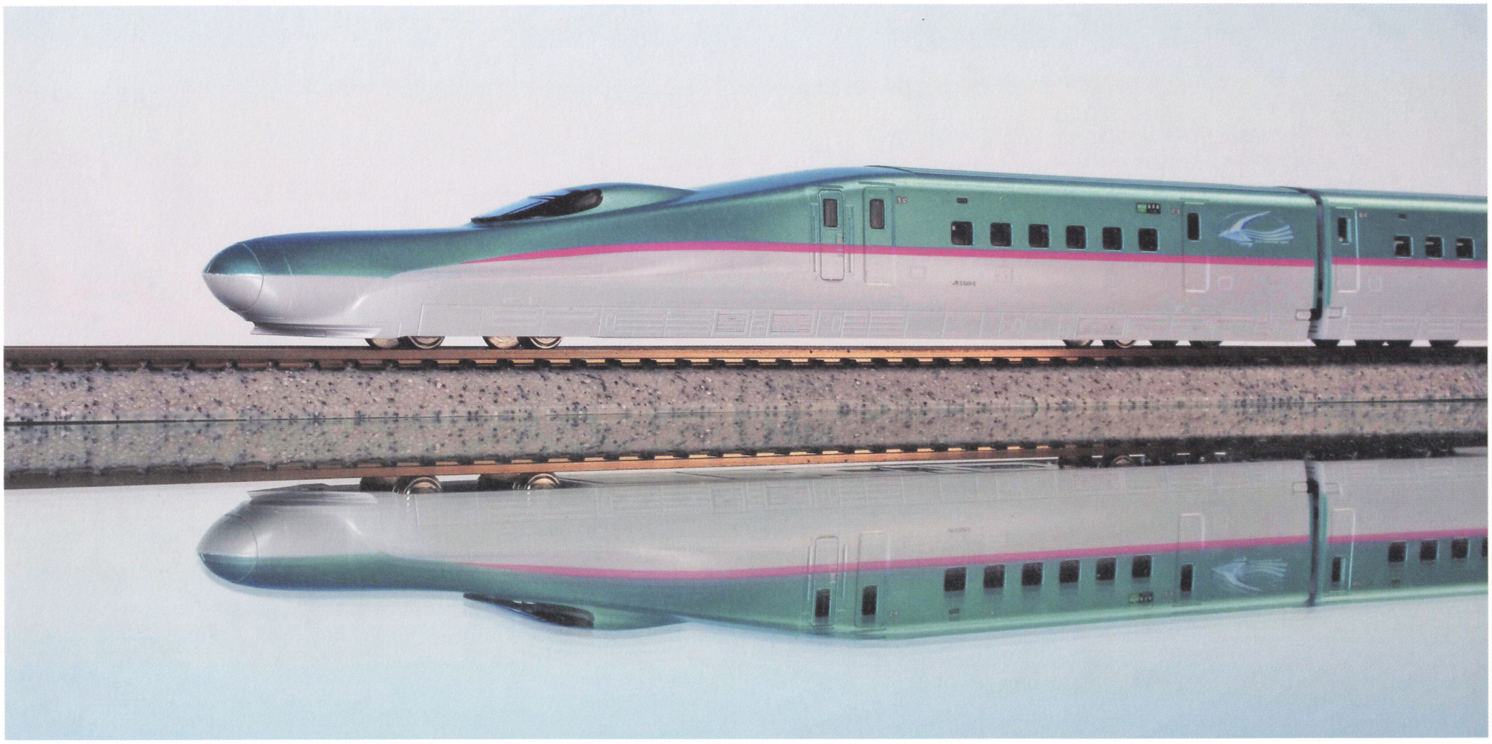
塗料を調色するときは何度も試し吹きして、色調やツヤを揃えていく。

鉄道模型レイアウトファン Pick up Model!

東北新幹線E5系徹底解析

最高時速320キロ。2013年春から日本最速、世界でもトップレベルのスピードで走行するようになった東北新幹線E5系がKATOからNゲージで発売されている。

文：松本典久／写真：編集部



今までの新幹線車両にはなかった常磐グリーン＋飛雲ホワイトという独特の塗色によるメタリックな雰囲気をリアルに再現している。

洗練されたフォルムに超高速への夢が広がる

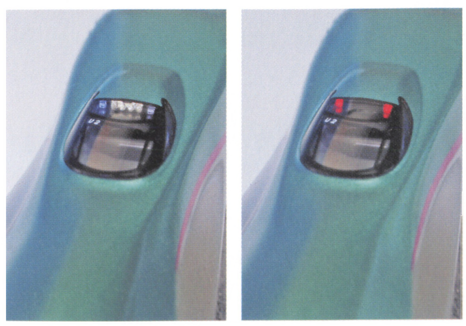
2013年３月16日、JRグループのダイヤ改正が行われる。これを機に東北新幹線では最高時速320キロという、日本の営業列車では今までにない超高速運転が始まる。その立役者となるのが、E5系新幹線電車だ。

E5系はJR東日本の「新幹線高速化推進プロジェクト」の一環として開発された。2011年春に量産第一陣が出揃い、東北新幹線東京～新青森間の「はやぶさ」としてデビュー。まずは肩慣らしという形で最高時速300キロでの運転を開始した。運転開始早々、東日本大震災も起こったが、同年秋には完全復旧、徐々に車両も増備され、現在では「はやて」「なすの」などにも起用されるようになっている。時速320キロ運転に関しては当初から2013年春と予告されており、肩慣らしも順調に推移したというところだろう。

ちなみに今回のダイヤ改正で時速320キロ運転するのは、E5系単独で運転される「はやぶさ１・5・9・4・18号」だけ。今春、E5系と併結運転する秋田新幹線用E6系もデビューしたが、E5系＋E6系併結列車は最高時速300キロ運転。こちらは2013年度末から時速320キロ運転予定。

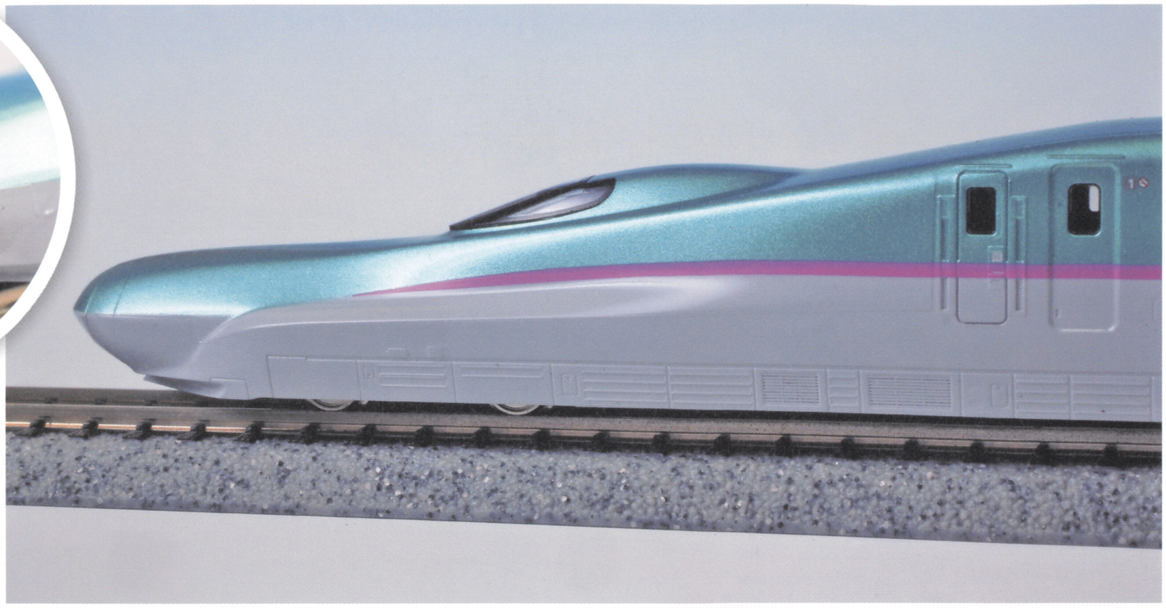
なお、世界的に見ても時速300キロを超える列車は今のところフランス国鉄のTGVやドイツ鉄道のICEの一部列車に限られ、E5系「はやぶさ」は世界でもトップクラスの超高速列車といえるだろう。

さて、KATOから発売されたE5系は、量産編成をプロトタイプとしたもので、実物同様の10両編成を組める構成となっている。ただし、製品は10両まとめた形



ヘッドライトおよびテールライトは実物同様に点灯。右上で紹介する併結運転時は消灯できるようにON/OFFスイッチも付いている。





新青森側の先頭車となるE514-2（10号車）ではE6系などと併結できるよう連結器が付いている。車体裏のつまみを押すと先頭部のカバーが外れ、連結器が姿を見せる。なお、併結できるのはKATO製のE6系またはE3系。他社製品との併結運転はできない。





E5系最大の特徴ともいえる先頭部の形状は的確に再現されている。真上から見ると先頭台車部のふくらみがはっきり見え、ユーモラスなフォルムですらある。動力車となるE525-102（7号車）およびモーターなしの中間車E525-2（3号車）にはパンタグラフが付く。



E514-2（10号車）などにはE5系を象徴するロゴマークが掲げられている。これはNゲージの模型でもリアルに再現され、車両鑑賞時のいいアクセントなっている。

商品データ



基本セット　10-857　11,025円
（E523-2、E525-102(M)、E514-2）
増結セットA　10-858　6,615円
（E525-2、E526-302、E515-2）
増結セットB　10-859　7,665円
（E526-102、E526-202、E525-402、E526-402）
発売元：KATO

ではなく、先頭車２両と動力付き中間車の基本３両セット、中間車を３両まとめた増結セットA、同じく４両をまとめた増結セットBの３分割で販売されている。

10両編成で動力車１両というのは現在のNゲージでは標準的な構成。モーターにはフライホイールも取り付けられ、E5系らしいスムーズかつパワフルな走行を見せてくれる。最小通過半径はR315を指定。模型でも車体傾斜機能を搭載、カーブ通過時はリアルに車体を傾けてくれる。なお、台車を完全に覆った車体裾のスカートも完全に再現されているため、線路にはいささか載せにくい。そのため、基本セットには小型のリレーラーも付属している。

東北新幹線を最高時速320キロで走行するE5系「はやぶさ」。先頭部は超高速運転に備えて独特なフォルムを描き、E5系の魅力となっている。（写真：藤田雄二）

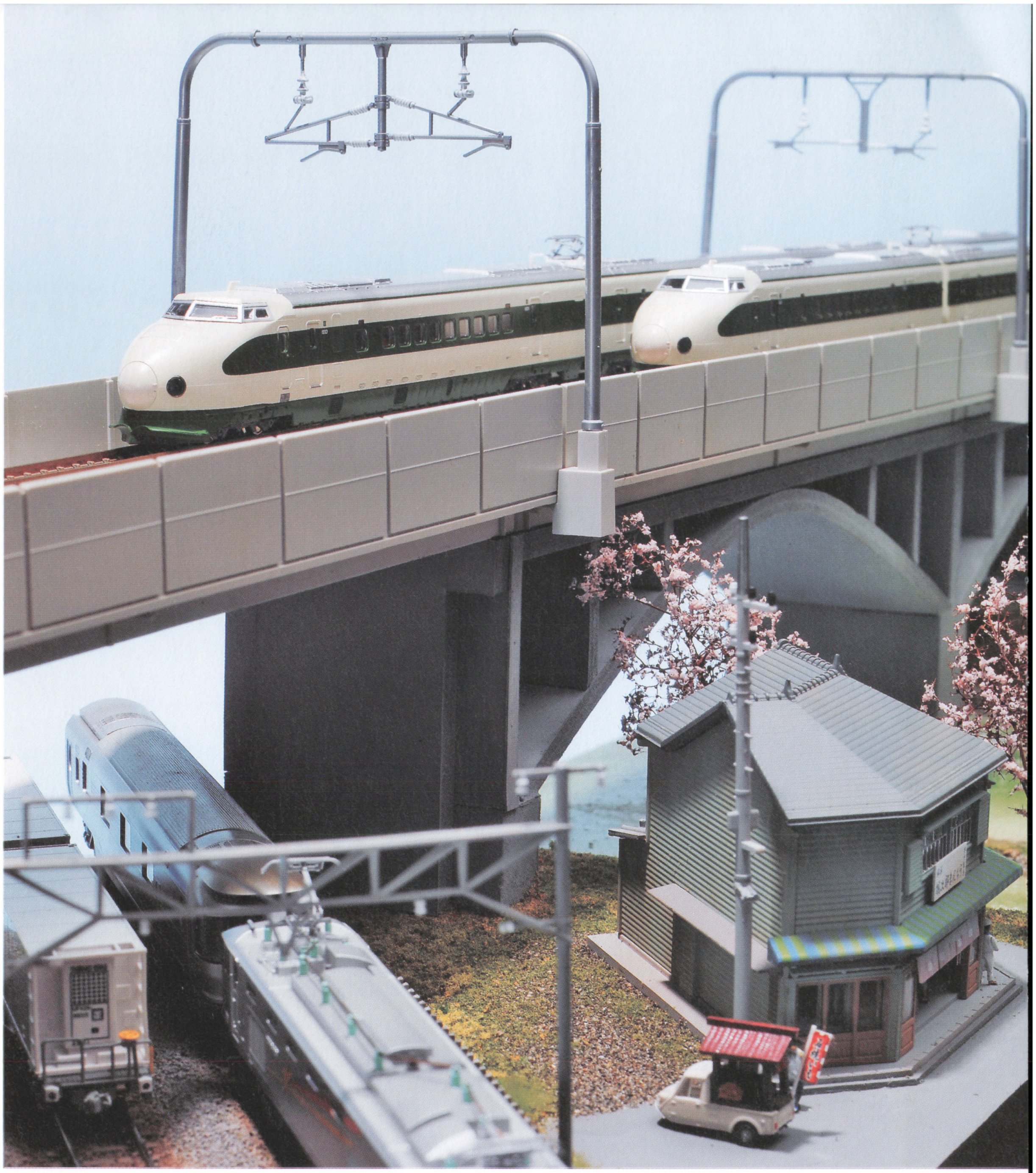


宮澤雅文が作る
昼夜のジオラマ

春の情景 200系が走る

1982年の東北新幹線開業以来、鉄道ファンはもとより多くの利用客に愛されてきた200系新幹線がこの3月に惜しまれつつも運転を終了する。鉄道模型作家の宮澤雅文さんが、東北の春景色のジオラマを作成。間もなく姿を消してしまう200系に、桜満開の東北の風景という晴れの舞台を用意した。

本文：近藤文雄／写真：スタジオ玄



春の日差しがまばゆい







1満開の桜が春の訪れを演出。土手の草花の様子も非常にリアルに表現されている。2川の上に架かる高架橋を走行する200系。橋を支えるアーチ状の支えは、プロトタイプの橋を参考にしたこだわりの形。3在来線に隣接する商店。店先の人から桜の開花を喜ぶ声が聞こえてくるようだ。

東北の春を走る200系

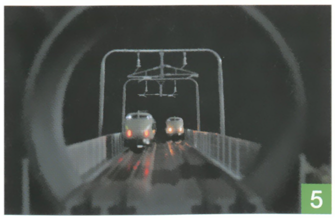
春の日差しを感じさせるジオラマは、高架橋をメインにしたシンプルな構成ながら味わいがある。川が流れ、満開の桜の前で話し込む人や春のドライブを楽しむ車など、200系が走る東北の風景をうまく表現している。

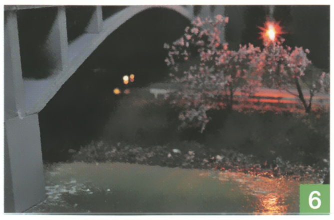
車両や電柱などにLEDを組み込んでいるので、日が沈んでも幻想的な夜景を楽しむことができるのも魅力だ。



夜桜が幻想的に光る







4外灯の明かりに照らされた夜桜と通過する200系。道路を走る車のヘッドライトが効果的だ。5トンネルを通して見たすれ違う200系。実際に見ることは難しい場所から見られるのもジオラマならでは。6水面に輝く電柱の明かり。さざ波が非常にリアルに表現されている。



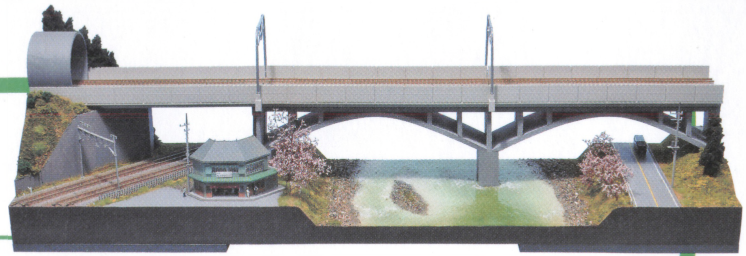
200系新幹線は、1982年の東北・上越新幹線開業用に開発された。過酷な冬の環境を走行するため、耐寒耐雪機能を採用。リニューアル等を経て30年走ってきたが、今春引退。(写真：藤田雄二)

製作者 宮澤雅文



建築模型や秋葉原のショップでのジオラマ講師などを経て2011年春、ジオラマギャラリー「アトリエminamo」を町田市にオープン。TV番組や広告撮影用の鉄道風景ジオラマ製作、ジオラマ製作教室を行う。

製作の前に流れをチェック!!



1 仮組み → 2 地形の土台を作る → 3 フィーダーの取り付けと線路の設置 → 4 自然を表現する

5 建造物の製作 → 6 LED の取り付け → 7 ディテールにこだわる → 完成



宮澤流製作術 1

仮組み

ジオラマの基盤となるベースボード（スタイロフォーム）を用意したら製作スタート。用意した写真や資料を基に、プランに沿って高架や線路の位置を決めていく。

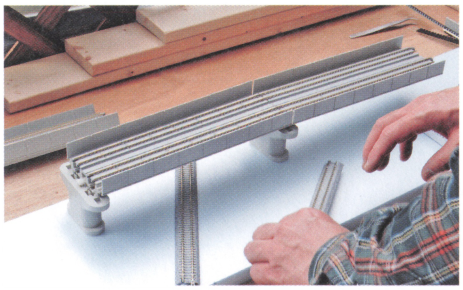
全体像をイメージしながら組む

今回のジオラマは新幹線高架をメインとして、車両をディスプレイするスペースを十分にとり、飾りやすい大きさにまとめてみた。高架と川、在来線が交差している場所をモチーフにイメージを膨らませた。実物を正確に再現するのではなく、“絵になる構図”を意識して配置を決める。作者の感性に頼る部分であり、仕上りにも響くため、おろそかにできない作業だ。

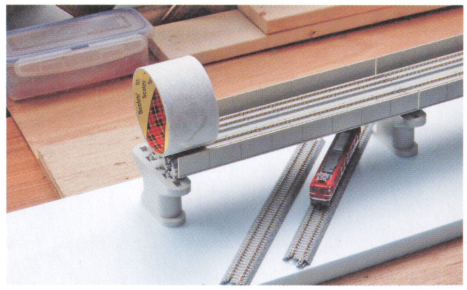
製作前に情報を集める



製作前には実際にモデルとする土地を取材するのがベスト。それが無理ならば、写真集、地図、インターネットを有効活用しよう。イメージを膨らませるためには、資料に目を通して多くの情報を得ることが不可欠。



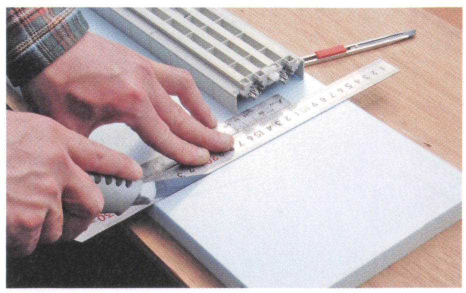
1 新幹線高架と在来線が立体交差するように配置場所を決める。



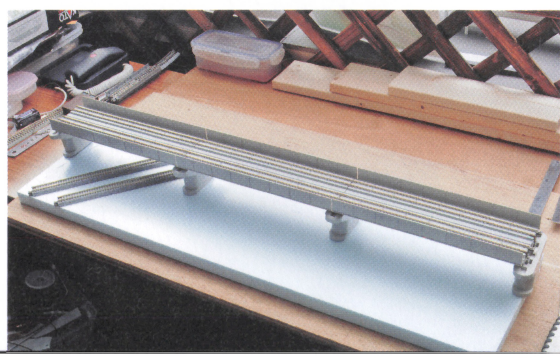
2 トンネル出口の緩衝工に使うクラフトテープの芯や車両を置いて、完成像をイメージする。



3 上からだけでなく、低めの目線など様々な角度からの構図も確認してみる。



4 配置場所を決めて、高架の長さを確認したらスタイロフォームをカットする。



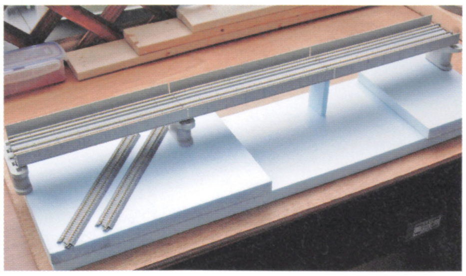
5 基盤のサイズが決まり、全体の具体的なイメージが固まってきた。



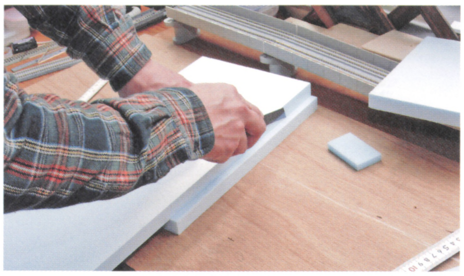
宮澤流製作術 2

地形の土台を作る

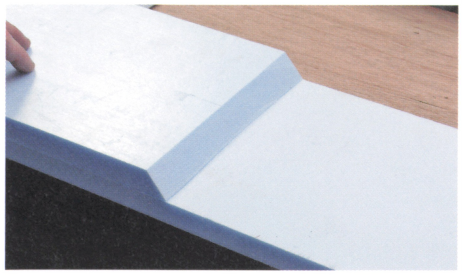
川を両側から挟み込む土手は地形を作る上で、川と並んで重要なポイントとなってくる。全体のバランスに注意して、上手にカッターを使い形を整えていこう。



1 基盤上の両側に川との段差を付ける新たなスタイロフォームを置き、川の幅を決める。



2 奥行きを基盤の長さに合わせて、余分な部分をカットする。



3 スタイロフォームの端は、土手の形になるように斜めにカット。

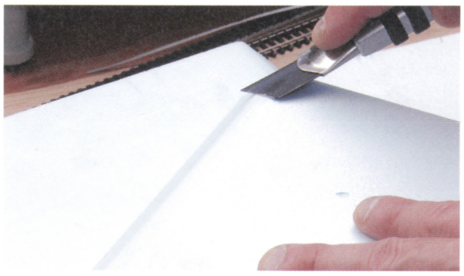
カッターで形を整えていく

スタイロフォームを乗せ、全体のバランスを見ながら川幅を調整する。川幅が決まったら、カッターでスタイロフォームの端を斜めに切り、土手の斜面の形に微調整しよう。このときカッターの刃が欠けていたりして切れ味が悪いと、スタイロフォームがボロボロになってしまうので、作業前に新しい刃に付け替えることをオススメする。

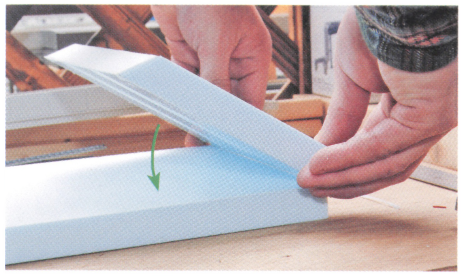
POINT 断面はヤスリがけを



ヤスリがけをして整えると、1枚板のような仕上がりに。



4 斜めの部分は土手のなだらかな傾斜を表現するため、カッターで滑らかに削り落とす。



5 形が整ったら裏に両面テープを貼り、2枚を貼り合わせる。基盤の角と縁を合わせて倒していくとズレがない。



6 端を合わせたら軽く両手で押さえる。万が一端がズレていたら、カッターで整形。



7 表面をカラージェッソで地面の色に色を塗っていく。



宮澤流製作術 3

フィーダー（電源コード）の取り付けとレールの設置

地形が仕上がってきたら、いよいよレールを設置する。今回のジオラマでは夜景用として車両に電気を通すので、レールに電源用のリード線を取り付ける。

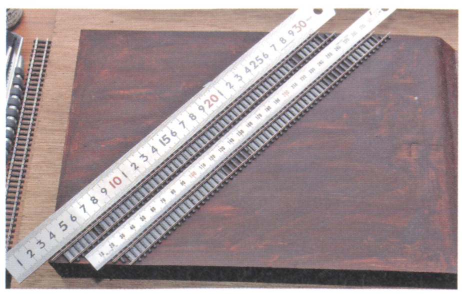
1 レールにフィーダーを取り付ける

中に隠して表に出さない

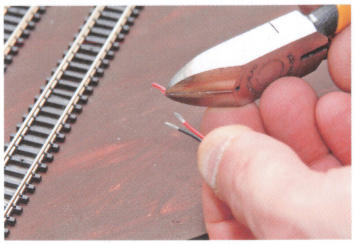
夜間の照明用電源のため、レールにフィーダーを接続する。目立たないように、ジオラマ奥側にはんだ付けで接続する。フィーダーはベースに穴を空け下側に落とし込む。作業後には通電チェックを忘れないようにしよう。



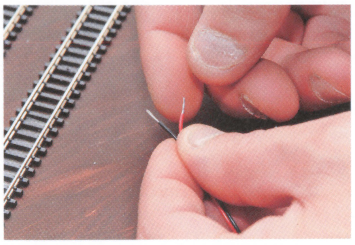
1 レールの裏側に仮留め用の両面テープを貼る。実際の接着は砂利撒き時のボンドで固定する。



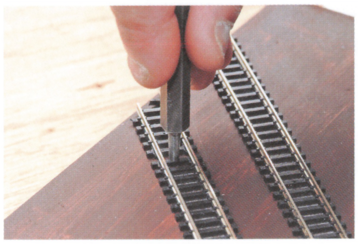
2 定規を両側にあてると、平行に貼ることができる。貼り付け前に車両を走らせて行き違いができるか確認しよう。



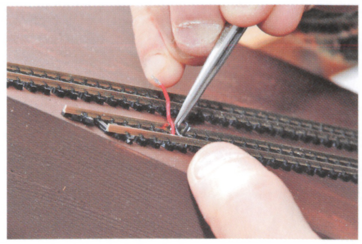
3 レールに取り付けるフィーダー先のカバーをニッパーで切り、導線を出す。



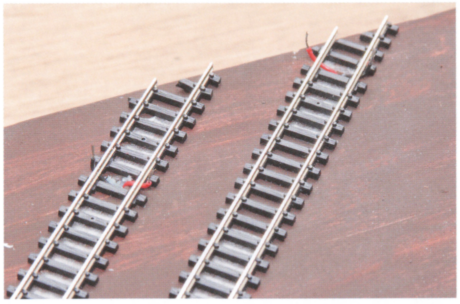
4 フィーダーから出てきた導線の先端部分を、指でねじりまとめる。



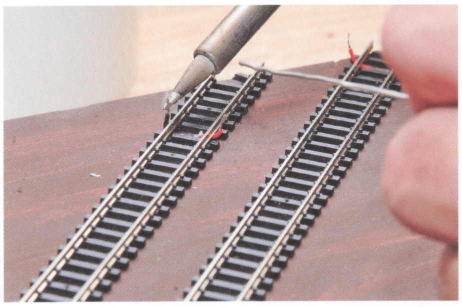
5 スタイロフォームに錐などで穴を空けてフィーダーを通す。



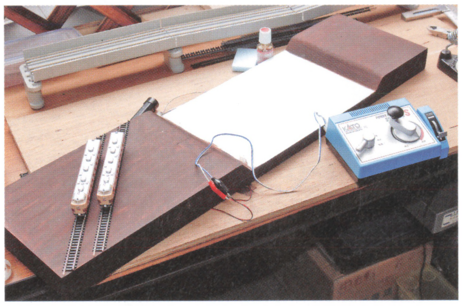
6 フィーダーを通したらピンセットを使って先端をねじり、線路に接続する。



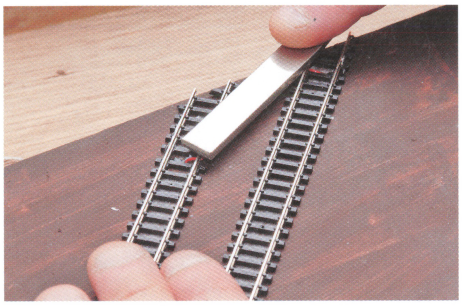
7 赤と黒のフィーダーはレール毎に反対側に取り付けておく。電気の通る向きは赤と黒でグループ分けする。



8 レールにはんだ付け。市販のフラックスを使うとはんだが付けやすくなる。

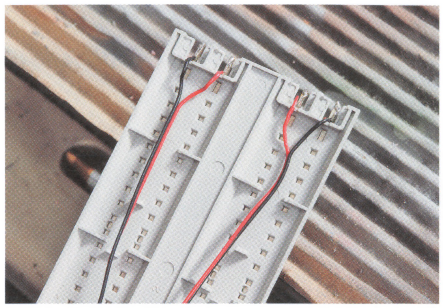


9 はんだ付け作業が終わったら、電気が通っているか必ず確認する。

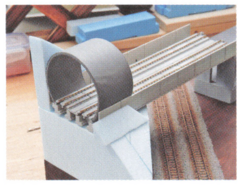


10 フィーダーの見えている部分は、ヤスリをかけて平にならす。

POINT 橋の上のレールも裏側に







新幹線高架にも走行用ではなく、ライトアップ用にフィーダーを通す。こちらのフィーダーも、地上のレールへの取り付け作業同様に裏側に付ける。電気の通る向きを決めたら、はんだ付けする。地面のに接する部分に錐で穴をあけて、フィーダーを裏に通せば表から見えることなく完成。

2 リアルな線路を作成

バラストは丁寧に整える

バラストの表現には丁寧な作業が必要となってくる。少量を親指と人差し指でつまんで、塩をふるように少しずつ撒いていくのがポイント。あせらず慎重に行うようにしよう。特に枕木を埋めてしまうと、リアルさが半減してしまうので要注意だ。

東北本線は、特急や貨物列車が行き交う幹線なので、レール脇のバラストの多さで幹線らしさを表現した。予備知識をフル活用してディテールにこだわることによって、リアルな線路を生み出すことができる。



1 枕木を埋めない程度にバラストを撒いていく。レール脇のバラストは盛り上げてリアルな幹線を表現。



2 ボンド水（木工用接着剤と水を約1:3で混ぜたもの）を静かに浸み込ませる。



3 車輪にバラストが干渉しないようにへらなどで整える。



4 全体の形を修正して乾燥させる。



宮澤流製作術 4

自然を表現する

のどかな東北の春を表現した自然風景は、ジオラマ全体の出来を左右するといっても過言ではない。細部に至るまで気を抜くことなく仕上げたい。



1 川岸と中州をエアブラシで着色。塗り具合に差をつけるとリアルに。



2 エアブラシの吹き付けに強弱をつけて、川の色の濃さに差をつける。



3 こぼれないよう淵にマスキングテープを貼って川岸と中州に砂を撒く。



4 撒いた砂の上にボンド水を少なめに落としていく。その後に細かい砂を足す。

POINT 本物の川原の砂を使う



今回は本物の砂を使いリアルな雰囲気が出せたが、色や大きさなどが合わなければ臨機応変に対応しよう。



5 川面にグロスポリマーメディウム（ツヤ出しニス）を、気泡を残さないよう叩くように塗っていく。



6 ブレンデッドファイバーで川の流れの強弱を表現すると、実際の流れのように。

1 川を作成する

重ね塗りで自然な流れに

今回作成した川は、ジオラマのコンセプトに近い形状のもの。エアブラシによる色の塗り具合と、ブレンデッドファイバーで作ったさざなみで流れの穏やかさを表現。グロスポリマーメディウムを仕上げに使うことによって、水面のてかりがリアルに再現されている。川に敷いた砂利は洗って天日干しした自然の物を使った。川の色は天候によって大きく変わってくるので、自分のイメージに合った水の色を写真などで確認しよう。色の濃さに差を出しながら塗っていくと、よりリアルな表現になる。

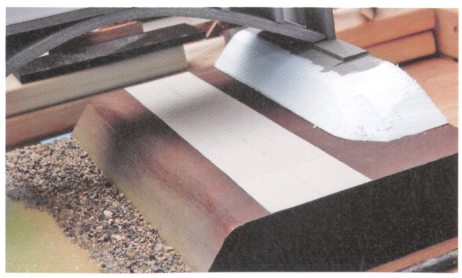
2 リアルな土手を作る

質感を丁寧に表す

土手に生える草は、ジオラマの季節感を感じさせる重要なファクター。２種類の緑色のターフを使って冬の草と春の草が混在する季節の変わり目を表現。春先の草の青さが、冬のくすんだ草の色によってより映える。明るい色のターフを使うと春先の野花も表現できて、春らしさがアップする。また、橋の下の日が当たらない場所には草はあまり撒かないなど、ディテールにも注意しよう。



1 橋の基礎が乗る地面をスタイロフォームを削って作成し、両面テープで接着。



2 厚紙を使って道路を作る。塗装はグレーのジェッソ。奥の道幅を若干細くして遠近感を出している。



3 土手から川岸の境界までボンド水を塗っていく。道路と地面の境界には角材を使用。



4 あらかじめボンド水を塗り、その上にターフを撒いていく。



5 撒いたターフの上に、スポイトで再びボンド水をたらす。

POINT 山側は針葉樹林に



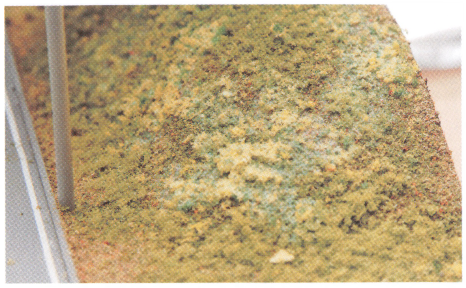
トンネルの出口の緩衝工がある山の傾斜は針葉樹林をイメージ。フォーリッジクラスター（造形用スポンジ）を適度な大きさにちぎり、クリアボンドをたらした斜面に貼り付けて完成。



6 その上に先ほど撒いたターフの色より明るい緑色のターフを撒く。



7 乾いたら、ニュアンスを出すためにフォーリッジ（スポンジ）を置き、ボンド水で固める。



8 同様に明るい色のターフを固めて置くと、花も表現することができる。

3 桜の木を作る

季節感を出すキーアイテム

桜は最も季節を感じさせるアイテムだ。接着剤を吹きかけて崩れにくくしたオランダフラワー（模型用ドライフラワー）を使って形を作り、ピンク色のカラーサンドで満開の桜を表現した。



1 オランダフラワーを寄せ集めて接着し、桜の木を形作る。



2 エアブラシで木に着色して乾燥後、ボンド水を木の先端にたらす。



3 ピンク色のカラーサンドを、枝を隠さない程度に何度もまぶす。



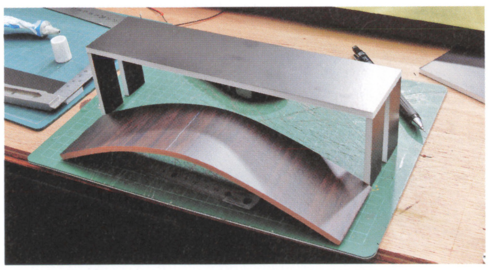
宮澤流製作術 5

建造物の製作

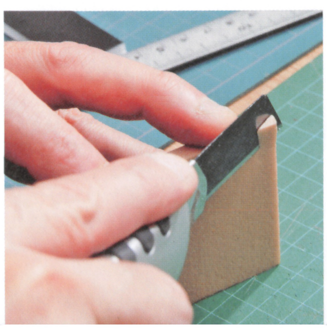
新幹線200系が走る線路を乗せる高架橋は、ジオラマの中でも新幹線に次いで目を惹く建造物だ。実物を完璧に再現するのではなくデフォルメされているのはジオラマならでは。

カッターで形を整えていく

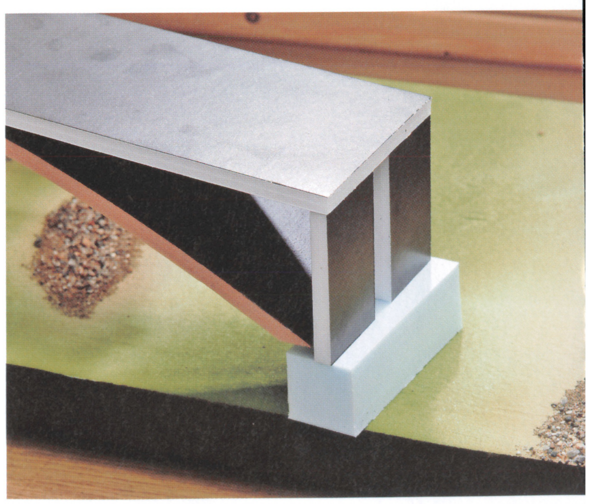
様々な要素が入っているこのジオラマの中でも、大きなポイントとなるのがこの高架橋だ。簡略化できる部分は省略して、橋桁を支えるアーチ状の支えなど実物の特徴の押さえどころはジオラマに落とし込んだ。スチレンペーパーで全体の形を構成。クラフトテープの芯をトンネル出口の緩衝工に利用するなど、市販品に頼らず身近にある素材を上手く利用するのが宮澤流。自分の身の回りにあるものを活用するのも、ジオラマ製作の楽しみのひとつだろう。



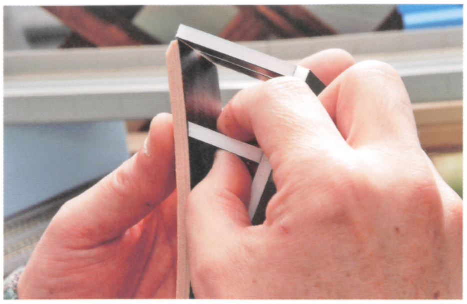
1 線路の長さに合わせ、スチレンペーパーで橋を作成。アーチ状の支えは徐々に曲げて癖をつけた。



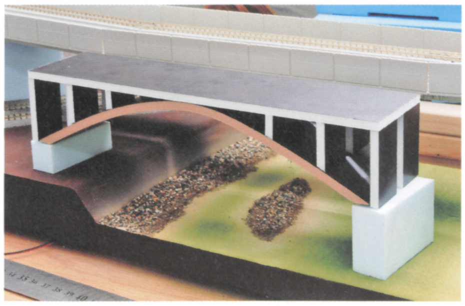
2 アーチ状のスチレンペーパーの橋の基礎に設置する面をカッターで削る。



3 ボンドで接着する前にしっかりと橋の基礎にハマるか仮置きしてみる。



4 橋を支える支柱は、スチレンペーパーを８枚追加カットして等間隔で並べる。



5 橋の組み立てはクリアボンドや両面テープで行う。

POINT 身近なものを利用



トンネル出口の緩衝工は、クラフトテープの芯を現物合わせでカットして使用。ケント紙を貼り付けて色を塗れば完成。



宮澤流製作術 6

LED の取り付け

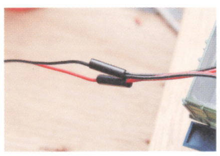
電球に比べて余分な熱を消費せず寿命も長いLEDは、ジオラマに使うには最適。電柱や建物への取り付けは細かい作業なので集中して行いたい。

1 電柱に LED を付ける

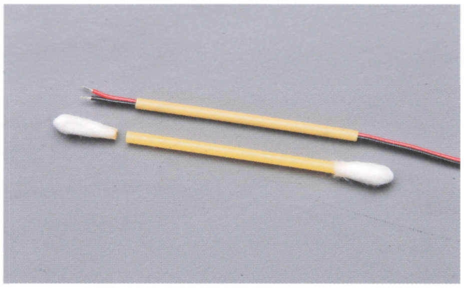
市販品と手製のものを組み合わせる

今回不要な部分をカットした市販の電柱と、LEDを付けたフィーダーを通した2㎜径のパイプ状の綿棒を合体させてLED付きの電柱を製作した。色を塗れば、違う素材のものを組み合わせた電柱には見えない。サイズが合えば、綿棒以外のものを使っても問題ない。

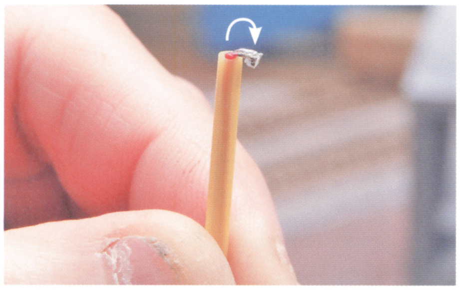
POINT 接合部分はチューブで留める



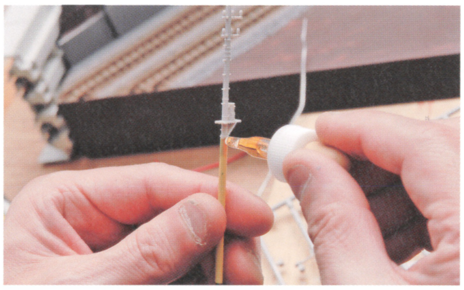
LEDへの過電圧を防ぐためフィーダーに抵抗を接続（詳細68ページ）。このように導線をつないだ箇所は熱収縮チューブで保護しよう。



1 100円ショップなどで売っている、中が空洞になっている綿棒をカットしてフィーダーを通す。



2 はんだでLEDとフィーダーを接着する。LEDは接着後に光を発する方向に折る。



3 瞬間接着剤で、下部分をカットした市販の電柱とLED付きの綿棒を接着する。

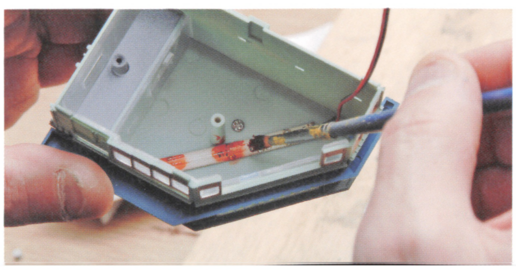


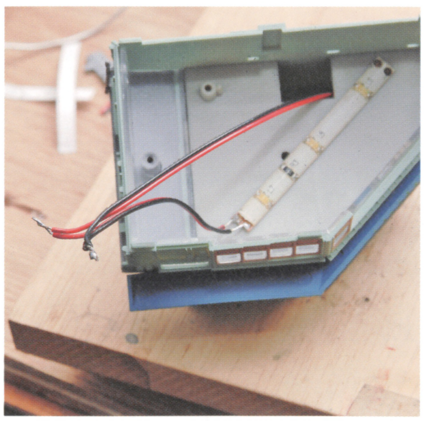
4 乾燥後、色を塗ると市販品のようなLED装着電柱が完成。



1 建物内に取り付ける3連LEDに、はんだでフィーダーを接着する。接着後は電気の接続を確認してみる。

2 ２階部分に接着剤で取り付けたLEDに、水性アクリルカラーを塗って、照明の色を電球色に変更する。





3 1階のLEDは無着色。内壁をカットして、2階のLEDのフィーダーの通り道を確保。

2 建物に LED を取り付ける

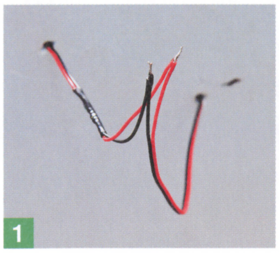
色を使い分けて実物感を出す

同じ建物内であっても部屋によって、照明の種類は異なるもの。今回のジオラマに登場するまんじゅう屋はリアリティを出すために１階と２階で照明の色を変えた。2階の照明の色はLEDの種類を変えるのではなく、LEDに直接色を塗って豆電球を意識した色に。自分の望む色より、若干濃いめに塗るのがポイントだ。

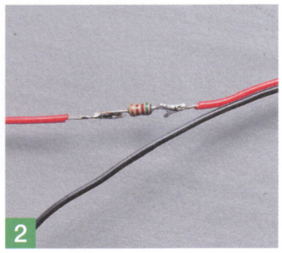


4 電気を通すと１階が白色蛍光灯の色、２階は電球の落ち着いた雰囲気に。

POINT 配線処理の際の注意点



1



2

1 裏でまとめる際にフィーダーの色毎にまとめてはんだ付けすると、スイッチ１つですべての箇所に通電するので便利だ。2 LEDは過電圧により切れてしまうので抵抗が必要。LEDに使う抵抗ははんだでフィーダーに接続する。電源電圧、LEDに流す電圧・電流によって抵抗値は変わるのでLED接続には要注意だ。抵抗値の出し方はインターネットで検索可能。



宮澤流製作術 7

ディテールにこだわる

細部にこだわったジオラマは見る度に新たな発見があり、その世界に引き込む力を持っている。些細に思える部分へのこだわりの集積が全体の印象を大きく左右するのだ。

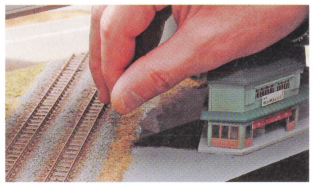
細部へのこだわりが違いを生む

道路の車の走行跡、柵やガードレールの汚れなどは、ぱっと見ただけでは気づきにくい部分だ。しかしこの汚れがあることによって、ジオラマの表現に深みを感じることができる。細かく地味な作業だが手を抜かず楽しんで行おう。

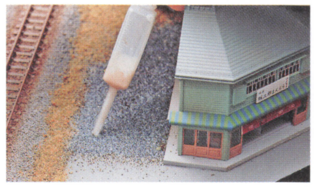
建物の裏



1 建物を設置したら、裏庭および線路沿いにボンド水を撒く。

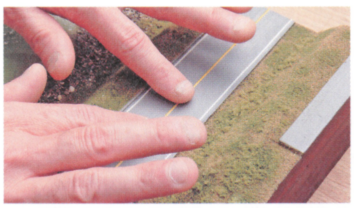


2 線路沿い部分にターフを撒いて、その上にまたボンド水をかける。



3 建物裏には砂利を撒き、上からボンド水。違う色のターフを撒くとリアルに。

道路



4 道路の白線は白のラインテープを使用。センターの黄色い線は同商品を着色したもの。



5 道路全体にツヤ消しニスを塗る。車の走る方向に筆を走らせ、リアルな道路の使用感を出す。

線路



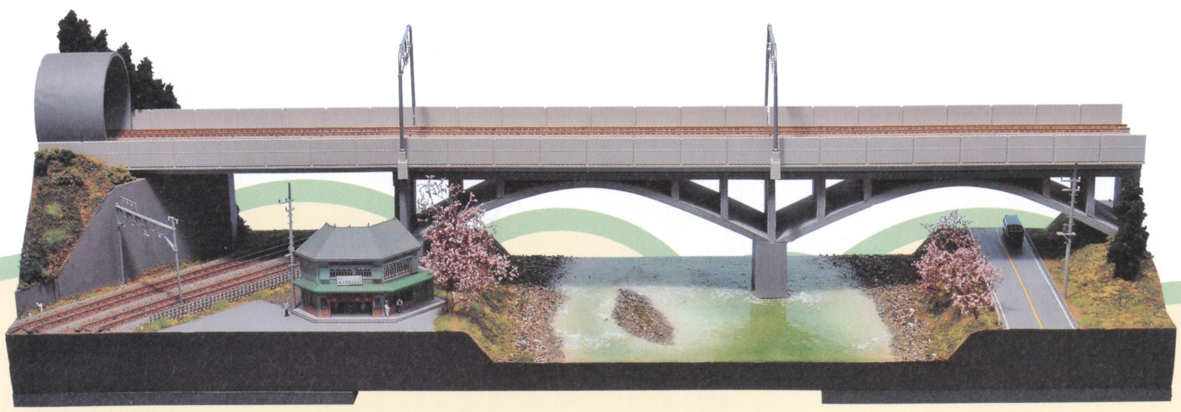
6 車輪との接触部分はスポンジヤスリなどで磨いて、常に車両が通過している雰囲気にする。

柵、ガードレール



7 茶系の色で柵とガードレールを汚す。新品をそのまま使うより、いい味が出た。

完成



200系の走る高架橋に川と在来線が交差し、土手に桜が咲くゆったりとした東北の風景は、バランスのとれた非常に完成度の高いジオラマだ。製作者のこだわりがディテールにも反映された、隅々まで堪能できるコンパクトだが飽きの来ない作品となっている。明るい春の訪れを感じさせる昼間の表情もすばらしいが、昼間とはまったく違う夜に見せる景色にも特筆すべきものがある。夜桜と水面を照らす電柱の明かり、夜道を一台走る自動車。そんな地方都市を駆け抜ける200系は、見る者の郷愁をかき立ててくれる。

東北新幹線ジオラマの主な材料・使用工具一覧

	メーカー	品名	数量	メーカー価格	備考	購入できる主な店舗		
						模型店	ホームセンター	画材・手芸店
線路	KATO	20 - 401 複線高架直線線路　248mm	3 個	1,365 円	2 個組で販売	○		
	KATO	21 - 000 フレキシブル線路	1 個	315 円	在来線の線路	○		
駅舎・建物材料	KATO	23 - 476 木造建築の角店 1	1 個	2,415 円	塗装済み完成品	○		
	KATO	23 - 057 複線アーチ架線柱（10 本入）	2 個	683 円	新幹線用	○		
	KATO	23 - 060 複線架線柱（8 本入 ）	1 個	473 円	在来線用	○		
	KATO	23 - 213 ガードレール	1 個	1,050 円		○		
	KATO	23 - 215 電柱・街路灯	1 個	1,155 円		○		
	KATO	23 - 223 コンクリート防護柵	1 個	525 円		○		
		ラインテープ　1mm幅　白	1 個	315 円	道路白線	○		○
	タミヤ	プラバン、プラ材各種	適量	378 円〜	橋の補強部分、各種標識など	○		
		スチレンペーパー　10mm厚	適量	500 円程度〜	PC アーチ橋のアーチ部分		○	○
		スチレンボード 10mm厚	適量	500 円程度〜	PC アーチ橋の脚部分		○	○
		クラフトテープの芯（50mm幅）	1 個	ー	トンネル（落雪覆い）の材料			
		ヒノキ　1mm角棒	各数本	30 円程度	道路の縁石		○	○
		LED、抵抗、コード各種	適量	100 円程度〜	各種照明用　電子パーツ取扱店で	△	△	
		2mm中空パイプ（電柱に使用）	数本	ー	作例では綿棒の軸を使用			
情景材料	KATO	ウッドランド クランプフォーリッジ　コニファーグリーンなど	1 個	2,100 円	立木、山（針葉樹用）	○		
	KATO	24 - 314 ターフ緑色ブレンド	1 個	1,050 円	雑草用細粒スポンジ	○		
	KATO	24 - 315 ターフ土色ブレンド	1 個	1,050 円	下草用細粒スポンジ	○		
	KATO	24 - 318 フォーリッジ　暗緑色	1 個	630 円	藤棚	○		
	KATO	24 - 319 フォーリッジクラスター　明緑色	1 個	1,260 円	茂み、樹木用スポンジ塊	○		
	KATO	24 - 321 フォーリッジクラスター　暗緑色	1 個	1,260 円	茂み、樹木用スポンジ塊	○		
	KATO	24 - 324 コースターフ　明緑色	1 個	630 円	雑草用粗粒スポンジ	○		
	BUSCH他	フラワースポンジパウダー黄	数色	500 円程度	花用カラースポンジ	○		
	NOCH	23100 Nature Trees	適量	1,890 円	ドライフラワー　桜の木	○		
		カラーサンド　ピンク	適量	300 円程度	情景用色砂　桜の花	○		○
		砂材（川砂など）		100 円〜	細かく清潔なもの	○	○	○
	KATO	24 - 331 バラスト 灰色（細目）	1 個	630 円	在来線の砂利	○		
塗料	タミヤ他	模型用塗料各種	各色	各 157 円	建物、線路などの塗装	○		
	タミヤ	ウェザリングマスターAセット	1 個	630 円	汚しの表現用	○		
	リキテックス	ブレンデッドファイバー　50ml	1 個	420 円	波の仕上げ用ジェル			○
	リキテックス	グロスポリマーメディウム　50ml	1 個	399 円	水面仕上げ			○
	リキテックス他	カラージェッソ・濃茶・グレー　50ml	各 1 個	各 420 円	ベース、道路、草地の下塗り用			○

※カラージェッソはメーカー、色調が豊富にあるので、好みのものを使用してください。

	メーカー	品名	数量	メーカー価格	備考	模型店	ホームセンター	画材・手芸店
ベース材料	ダウ化工	スタイロフォーム　20mm厚	適量	1,200 円〜	発泡フォーム ベース、地形製作	△	○	△
	GSI クレオス	Mrクレイ・軽量石粉粘土他	1 個	472 円	地形の修正	○		○
接着剤等	タミヤ他	マスキングテープ各種	数種	100 円程度	仮止め、塗り分けに	○	○	○
	ニチバン他	強力両面テープ　20mm幅等	1 個	300 円程度	強力タイプ・一般タイプ等		○	○
	コニシ他	瞬間接着剤ホビー用	1 個	300 円程度	建物の組立用	○	○	○
	コニシ他	スチロール用接着剤	1 個	200 円程度	発泡フォームの接着用		○	
	コニシ他	ゴム系接着剤	1 個	200 円程度	万能タイプの接着用	○	○	○
	コニシ他	木工用接着剤	1 個	200 円程度	薄めて使用	○	○	○
	タミヤ他	プラモデル用接着剤	1 個	200 円程度	プラバン、プラ棒等	○		○

※価格は 2013 年 3 月現在のものです。

昭和ノスタルジー探訪

ウェザリングの達人 諸星昭弘の

本文：編集部／写真：奥村暢欣（スタジオダンク）



時計台、デパート、屋上遊園地や路面電車に古き良き昭和が表現された作品。高度成長期にあたる時代の明るさは、土台とカバーに施された豆電球のデザインからもうかがうことができる。

DATA
作品名　「マメ電気」
縮　尺　ノンスケール
軌　間　9mm



ジオラマ「マメ電気」の試作版。同じデザインの土台の上にある、ひと際目立つ手書きの看板が目を引く。隣接するお店は本屋「四省堂」。



サボテンをイメージして作られた作品。思わず入りたくなるようなツリーハウスがかわいい。小さいが照明も点灯できる。



シックな色合いの建物と、電球の付いた派手な看板との対比がおもしろい。看板は当時と同じ手書きにすることで、ノスタルジックな雰囲気が演出されている。





1 昭和の商店街に見られたシンプルなつくりの三河屋。何を扱うお店かは作品が完成に向かう過程で設定されることが多い。2 メインの建物はデパート「小丸」。入口横の電話ボックスが時代を連想させる。3 時代の流れを象徴する時計台には、本物の時計を埋め込んだ。

Information



諸星昭弘氏の作品が見られる
「情景作家―昭和のミニチュアー」展が開催

2013年4月2日（火）より、ジオラマ、ドールハウスなどの情景模型の世界を見て楽しめる展覧会が開催される。「昭和の懐かしい時代」をテーマに3名の情景模型作家を中心に構成されるほか、昭和の当時に制作された伝説のジオラマなどの特別展示も観覧できる。

会　期	2013年4月2日（火）～7月21日（日）
会　場	旧新橋停車場 鉄道歴史展示室（東京都港区東新橋1－5－3）
入場料	無料
開館時間	10時～17時（入場は16時45分まで）
主　催	公益財団法人東日本鉄道文化財団
後　援	東日本旅客鉄道株式会社

LED LIGHT

照明で夜を
ドラマティックに演出する

夜景は昼間の情景とは異なる、まったく別の世界を見せてくれる。特に光による演出が絶大な効果を発揮してくれるのだ。直接光源を見せる強い照明も魅力的だが、照明によって浮き上がる建物や人形、車両たち、さらには照明を受けて輝きを増す水辺のような世界もある。情景模型を作るとき、こうした夜景の仕掛けも織り込んでおくと楽しみの幅がぐっと広がってくる——。

本文・写真（特記以外）：松本典久



大都会の夜景を演出

川村浩之さんと浜津功一さんの共作によるNゲージの浜川鉄道。4,200×900㎜という恵まれたスペースに展開するレイアウトの大半は都市の情景だ。建物や道路上の車両に仕込まれた照明が大都会の雰囲気を演出してくれる。



夜のザクセン保存鉄道

本誌22～27ページで紹介した畑川政勝さんのザクセン保存鉄道。外灯や路面電車の室内灯に浮かび上がる石畳が何とも美しい。また旧宮廷教会には照明灯があてられ、深い陰影を見せながら浮かび上るのだ。（撮影：作者）



夕暮れのボートハウス

本誌28～30ページに紹介した石川博康さんのボートハウスを中心としたNゲージサイズのジオラマ。メディウムで表現した水面に反射する光が見事。



夜の駐泊所

これも石川博康さんの作品。Nゲージレイアウトの中の駐泊所風景。照明に浮かぶSLの姿が美しい。

夜景の演出に役立つアイテム

かつて情景模型の中に照明を組み込むためには、自分で豆電球やスイッチなどの部品を集めるところからスタートすることもあり、一部のベテランモデラーなど限られた楽しみとなっていた。しかし、今では簡単に組み込める照明装置が数多く製品化されている。また、世の中のエコ傾向を反映して、情景模型の照明もLEDが主流になってきた。チップLEDを用いることで、これまでは光を灯すことなど考えられなかった小さなものにも、簡単に照明を組み込むことができるようになった。

こうした製品群を見逃す手はない。もはや照明は誰もが気楽に楽しめるアイテムとなってきたのだ。まずは簡単に組み込むことができる照明製品を試用して、そのおもしろさを味わってみよう。夜景演出の大きな楽しみの虜になるはずだ。

手軽に照明がつくれる ジオコレ 電飾キット各種

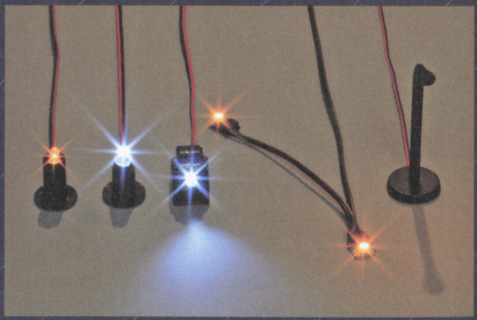
トミーテックから発売されている電飾セットを紹介。ジオコレシリーズに使えるように開発されたLEDを使った電飾セットだが、単三電池2本（電池は別売だが、スイッチ付きの電源ユニットは製品に含まれている）で点灯する構造になっており、ジオコレに限らず幅広く利用できる。現在のところLEDの色や形状でA～Fの6種あり、さらに延長コードやLED単体でも販売されている。基本製品はハンダ付けが不要で、電気知識は乾電池のプラスマイナスを判別できる程度で扱えるので、照明の入門用としてもおすすめしたい製品だ。


電飾キットを使った屋台の作例（製作：石川博康）



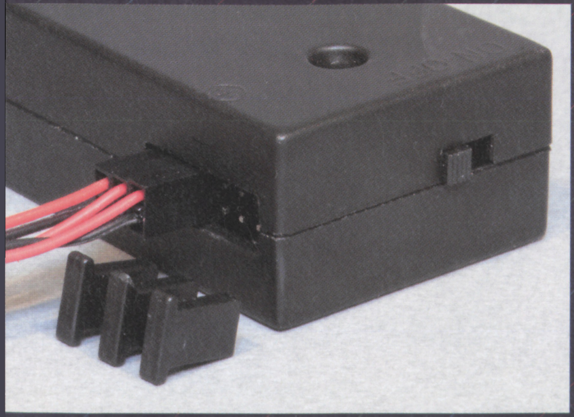
用途別に用意されたLEDキット

ジオコレの電飾キット各種。電飾キットA（電球色LED×6個／1,050円）、同B（白色LED×6個　1,260円）、同C（屋外ライトアップ用白色LED×6個　1,365円）、同D（電球色チップLED×2個×3本　1,260円）、同E（白色チップLED×2個×3本／1,260円）、同F（黄橙色LED組み込み外灯×3本　1,680円）。製品内容は約50～70㎝（シリーズによって異なる）のケーブル付きLED、ON/OFFスイッチ付き電池ボックス（単電池は別売）を基本として、屋内用は建物の内部に貼る遮光フィルムもセット。写真は電飾キットA。



点灯時の色もさまざま

ジオコレの電飾キットの点灯状態。左から電飾キットA、同B、同C、同D、同F。LEDは電球色（A、D）と白色（B、C）、黄橙色（F。側面から見た点灯状態は右ページ㈪を参照）の色の違いがある。いずれも単三電池2本で点灯した状態。

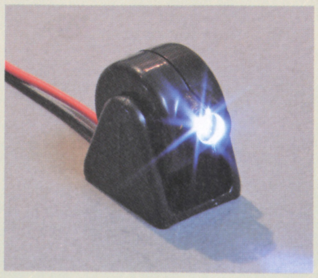


接続方向に注意しよう

ジオコレ電飾キットを使うときに注意したいのがケーブルの接続方向。電池ボックスの右端にあるスイッチを基準に、赤いコードが上になるよう接続。LEDは電球と違い、接続する向きが決まっている。

建物のライトアップにも挑戦してみよう

建物を外部からライトアップするのも楽しい。作例は畑川政勝さんのザクセン保存鉄道。これは高照度LEDを使った自作の照明システムだが、ジオコレ電飾キットCで作れる。



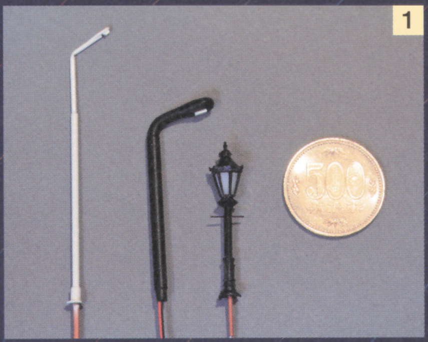


街路灯に仕上げた製品もある
外灯各種

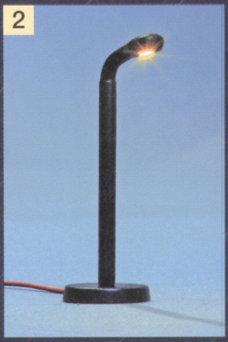
ジオコレの電飾キットFは街路灯の形状に組み上げた製品だが、このほかにも同様の形態に仕上げられた製品がある。模型店で入手しやすいのはNゲージ向けとして販売されている海進貿易の製品（下の写真1では左右両端の外灯。中央はジオコレの電飾キットF）だ。クラシカルなものから近代的なデザインのものまでいろいろある。いずれも光源はLED。使う際はリード線のプラスマイナスに注意して結線する。このほか、外国製の街路灯も欧米のメーカーから各種発売されている。これはHOゲージやOゲージで使うサイズのものが多い。



外灯の使用例（製作：畑川政勝）



1



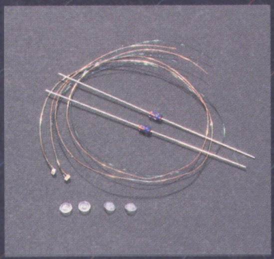
2

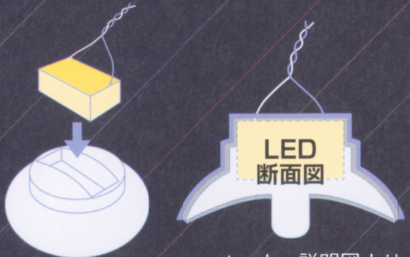
①左から海進貿易の外灯（5本945円）、ジオコレの電飾キットF、海進貿易の洋風外灯（3本1,260円）。価格は小売参考価格。②電飾キットFの点灯状態。付属パーツを使い、高さを5～10㎝に調整可能。



外灯の使用例
（製作：石川博康）

HOなら電灯笠の表現も可能
さかつう 電灯笠ほか

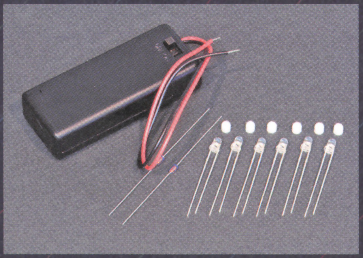


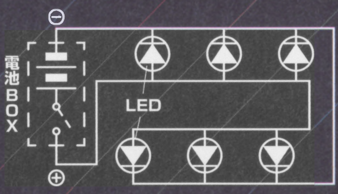


メーカー説明図より

HOゲージで使えるリアルな外観の電灯。笠の直径はわずか3㎜だが、リアルな形状だ。電灯笠（4個入り1,575円）、チップLED電球色（2個入り1,260円）、定電流ダイオード（3個入り420円）。

配線を自由につくれるのが魅力
エコーモデル 標準型木造駅舎LEDセット

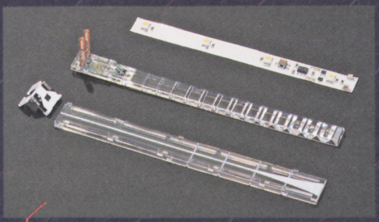




メーカー説明図より

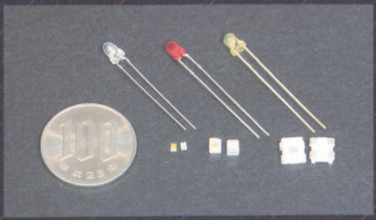
建物の中に使うLED照明キット（1,890円）。電球色LED×6個、定電流ダイオード×2のほか、電池ボックス（単四電池×2本は別売）、LEDの光拡散キャップ付き。配線にははんだ付けが必要だ。

車両の室内灯も建物の照明に使える
KATO、TOMIXなど室内灯セット



Nゲージや HOゲージの車両用室内灯も各メーカーから発売されている。これをビルなどの屋内照明に転用することも可能だ。いずれも車両に合わせて長い構造なので、1本で広範囲を照明できる。

電気知識も必要だが応用は万能
LED各種



LEDは情景模型用にセットされた製品だけでなく、単体でも入手可能。その活用には電気知識やはんだ付けの技術も必要になるが、照明の可能性が広がる。チップLEDは極めて小さく、応用がきく。

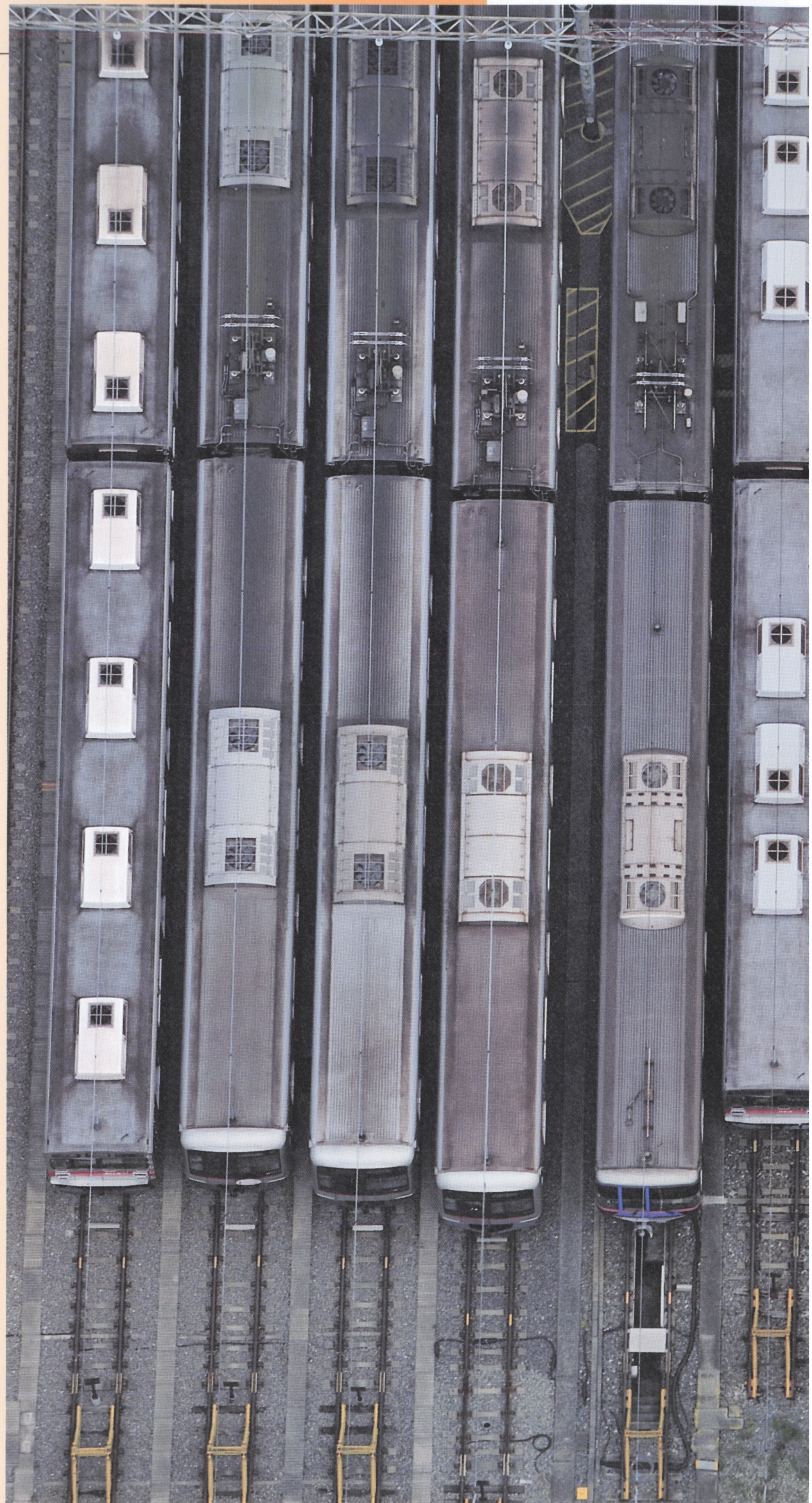
●紹介商品のお問い合わせは、さかつうギャラリー（Tel 03-3949-2892）、エコーモデル（Tel 03-3969-6073）などへ。

東急電鉄 元住吉検車区

上空から見た鉄道のある風景

吉永陽一の『空鉄』案内

Railway photograph



鉄道車両の空撮は、真上から見るのが醍醐味だ。クーラーの形状や車体長、屋根の素材など、同じ系列でも番台によって細部が異なる。それに屋根上の「汚れ」。それらがリアルに観察でき、モデラーにとっても模型心をくすぐられる。

写真は東急電鉄東横線元住吉検車区のワンシーン。一見整然と並んでいる相互乗入れ車両だが、それぞれの違いが表現されていて面白い。屋根形状と車体の長さの違いから、どの鉄道会社の車両か分かるだろう。

セスナ機の機体を傾けてもらい、写真の中心線となるべき場所をパイロットに伝え、あとは息を合わせてイメージする。空撮ではよく、風などの気象条件によってタイミングがずれてしまうが、このときは一発で決まった。渾身の一枚だ。

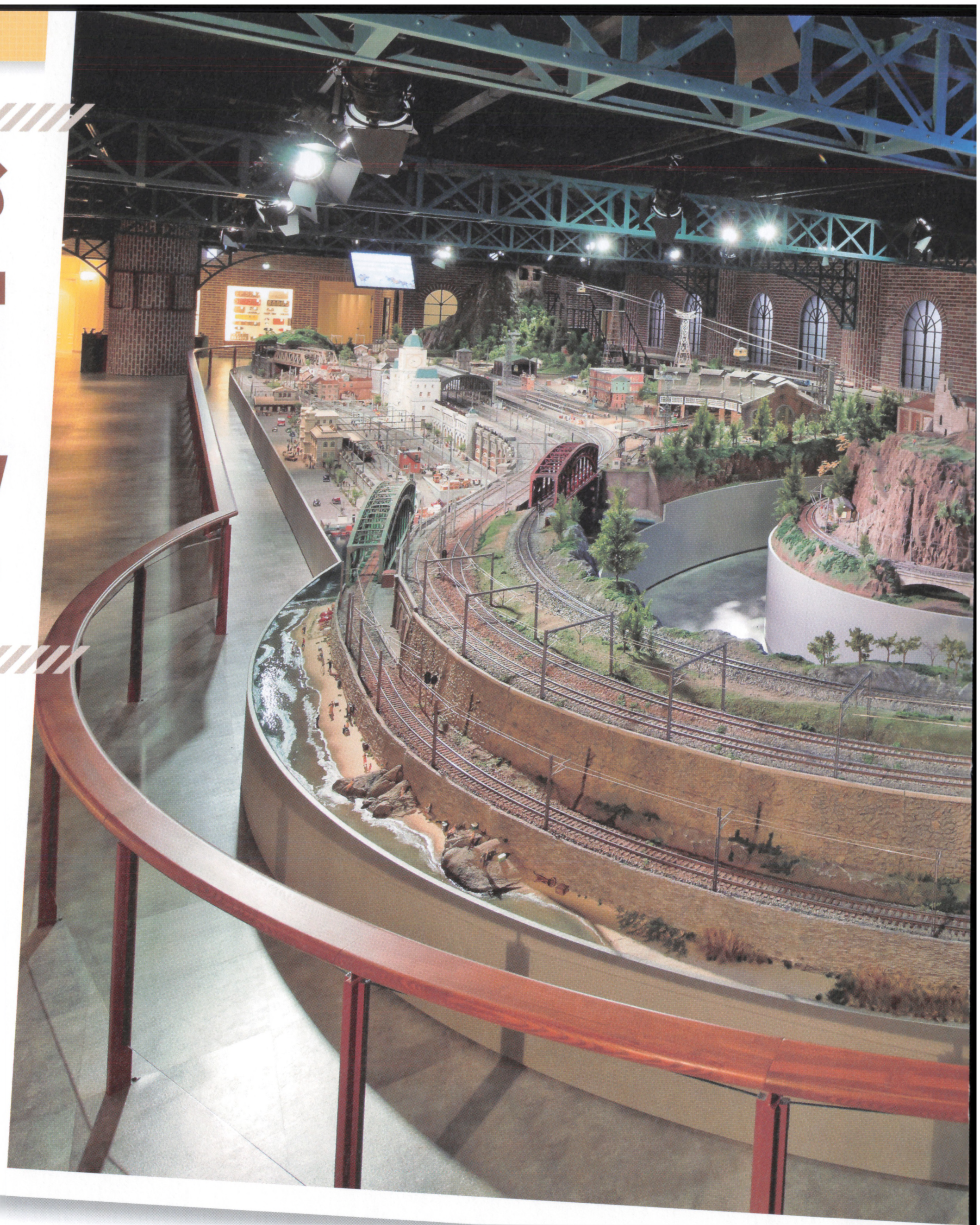
３月16日のダイヤ改正により東横線を走る車両も一部が引退し、この検車区の車両の顔ぶれも変化していく。



吉永陽一 | Youichi Yoshinaga

1977年東京都生まれ。 建造物、遺跡調査などの航空写真の撮影を中心に活躍。趣味が高じて、鉄道を主体とした空撮をはじめ、2012年には自身初となる写真集『空鉄　鉄道鳥瞰物語』（講談社）を上梓。

家族で楽しむ 鉄道ギャラリー



1番ゲージの鉄道模型が走行する屋内の一般公開施設としては、世界最大級のジオラマだ。

大人から子どもまで誰もが夢中になれる鉄道ギャラリー。ここでは特に、広大なレイアウトが楽しい博物館をピックアップ。春の行楽シーズン、家族と一緒に出かけてみよう！

文・川上博司

原鉄道模型博物館

住所　神奈川県横浜市西区高島 1-1-2 横浜三井ビルディング２階
アクセス　JR「横浜駅」徒歩５分、横浜高速鉄道みなとみらい線「新高島駅」徒歩２分
営業時間　11:00 ～ 18:00（最終入館 17:30）火曜日定休（祝日の場合は翌営業日に振替）
TEL　045-640-6699
HP　http://www.hara-mrm.com/

そこはまさしく鉄道模型ファンの聖地

原鉄道模型博物館は、原信太郎氏が所蔵してきた膨大な数の鉄道模型と鉄道関係コレクションを一般に公開している博物館。館内の目玉は1番ゲージ（1/30～1/32，45㎜）の鉄道模型が走る巨大なレイアウト。さらに原模型の技術をわかりやすく解説するコーナーや、時代ごとに配置された貴重なコレクションが展示されている。

原氏は、幼少の頃から鉄道とその技術をこよなく愛し、鉄道の技術革新を確かめるべく世界のどこへでも出向き、実際に鉄道に乗車しカメラに収めてきた。そのようにして収集してきた膨大な鉄道技術資料や旅行の資料の数々が集約した、まさに鉄道・鉄道模型ファンの聖地とも呼べる場所なのだ。

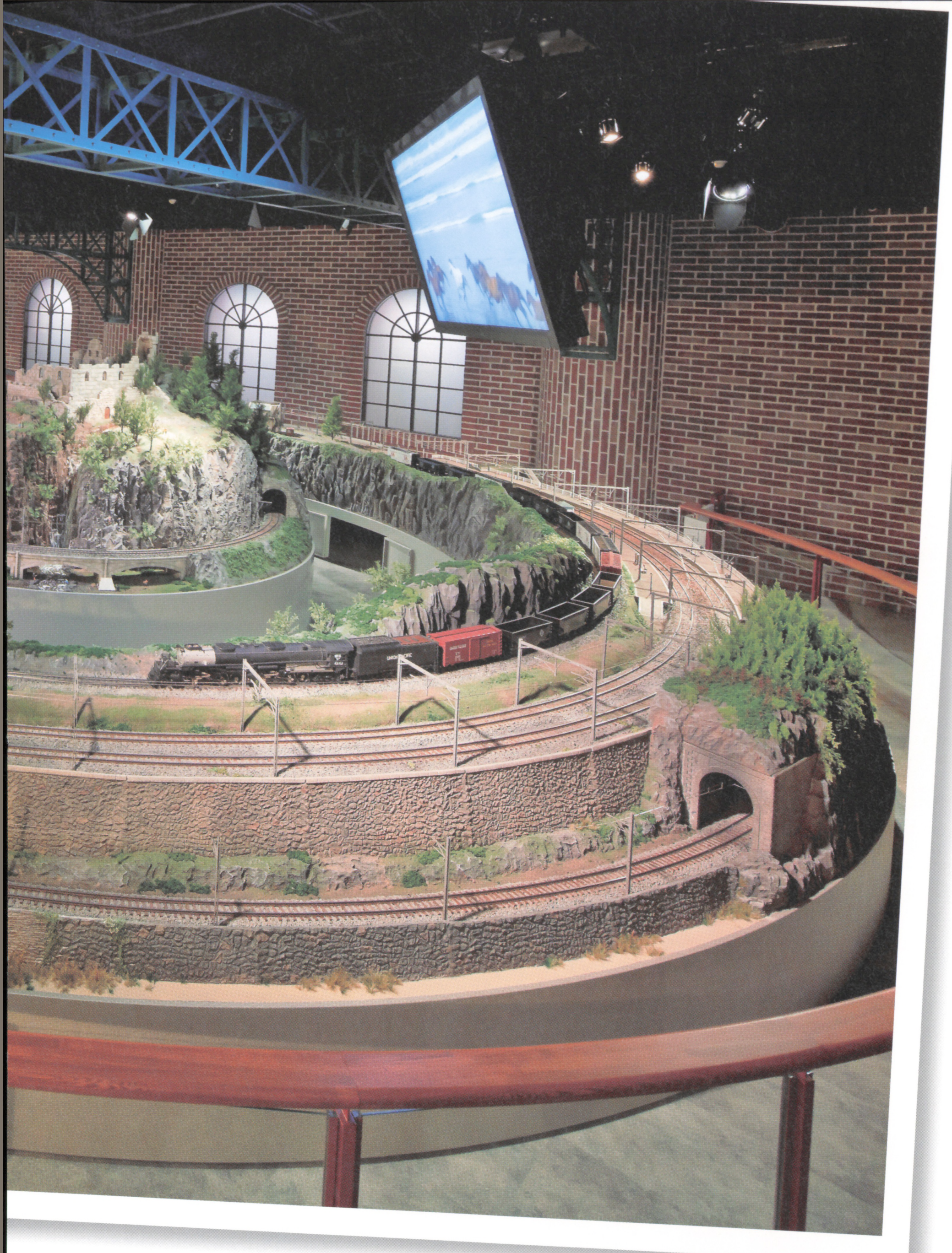
そんな同館の最大の見どころであるレイアウトで、世界のあらゆる時代の鉄道が同じレールの上を走行する姿は感動的だ。その技術もすばらしく、実車同様に架線から電気を取り、鉄のレールを鉄の車輪で走行する。中でも注目すべきは、その車両たちの走行音。なんと、レールのつなぎ目を通過する音が、本物同様にゴトンゴトンと響く。それは鉄道模型が、ギア、板バネ、ベアリング、揺れ枕、ブレーキなど、外からは見えない部分まで、本物の鉄道で使われている技術を忠実に模しているからだ。

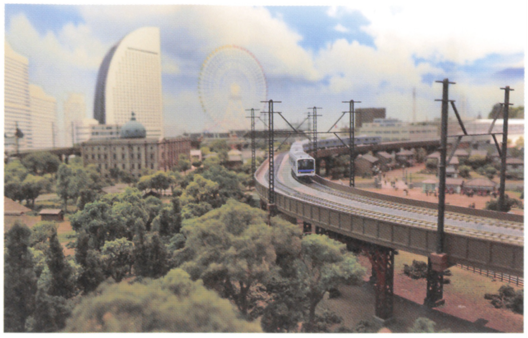
鉄道史のみならず現代産業史にとっても貴重な模型や資料の数々は、私たちに夢と憧れを与えてくれる。

原信太郎ってどんな人？

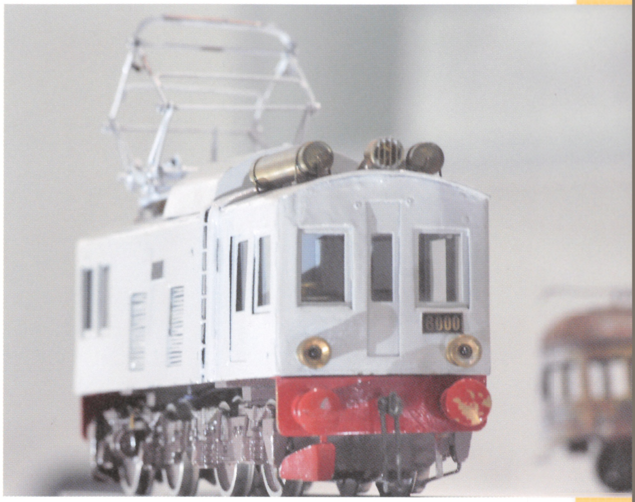
1919年4月4日、東京生まれ。幼少期からの鉄道好きで、カメラを持って旅を続ける。小学6年生のときに最初の鉄道模型を製作。その後も鉄道・鉄道模型の世界に魅了され、世界中を旅しながら鉄道模型製作とコレクション収集を続ける。実際の鉄道の技術を取り入れた「原模型」の技術は、高く評価されている。作品とコレクションが並ぶ「シャングリ・ラ（理想郷）博物館」と呼ばれる原氏の自宅は、同博物館でも再現されている。







この博物館のある横浜の地を再現したレイアウトも展示。これはHOゲージだ。



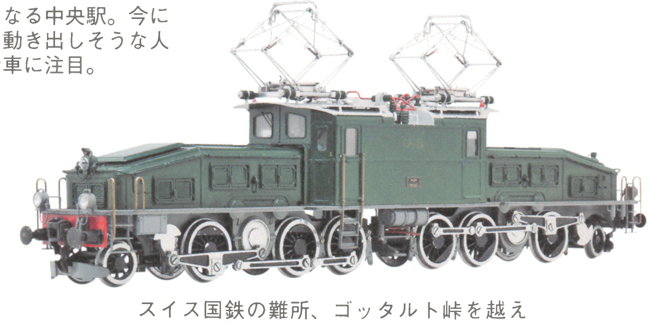
原氏が小学生の時に作った一号機関車。この博物館の原点ともなっている作品のひとつ。



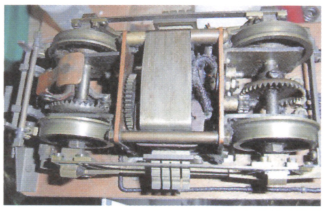
北朝鮮の金剛山を走っていた電車を再現した電気鉄道。車番から22号と呼ばれている。

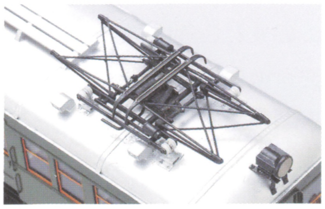


レイアウトのメインとなる中央駅。今にも動き出しそうな人や車に注目。



スイス国鉄の難所、ゴッタルト峠を越えるために開発された「クロコダイル」。





台車には、揺れ枕など本物同様の技術を取り入れている（写真左）。パンタグラフで集電する仕組みも本物同様（写真右）。



200㎡の面積に広がる迫力のレイアウトは、いつまで見ていても飽きない。

鉄道博物館

住所	埼玉県さいたま市大宮区大成町3-47
アクセス	JR「大宮駅」よりニューシャトル「鉄道博物館（大成）駅」下車、徒歩1分
営業時間	10:00～18:00（最終入館17:30） 火曜日および年末年始定休
TEL	048-651-0088
HP	http://www.railway-museum.jp/

何度も足を運びたくなる 鉄道ファンのための博物館

「鉄道・歴史・教育」の3つのコンセプトからなる博物館。ここに来れば、明治時代から日本人の生活に寄り添い、文化を向上させてきた鉄道の歴史や技術がよくわかる。鉄道模型ファンの見どころは、緻密に建物や風景が表現された、軌道総延長約1,400m、横幅25m、奥行き8m、面積200㎡の鉄道をテーマとしたHOゲージとしては国内最大級の模型鉄道ジオラマ。保有車両数も、約1,200両と充実。多彩な車両を一望でき、一日中楽しめる。







1 時間帯ごとに照明が変わる「鉄道の24時間」の解説付きプログラムは、車両の種類によってストーリーが変化する。2 ヒストリーゾーン中央の転車台には、C57がスタンバイ。1日2回回転実演を行う。3 敷地内を走るミニ運転列車も、ファミリーに大人気。

リニア・鉄道館

住所 愛知県名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2
アクセス JR あおなみ線「金城ふ頭駅」徒歩約２分
営業時間 10:00 ～ 17:30（最終入館 17:00）
火曜日（祝日の場合は翌日）12 月 28 日～１月１日 定休（※春休み、ゴールデンウィーク、夏休み期間は火曜日も開館）
TEL 050-3772-3910（JR 東海）
HP http://museum.jr-central.co.jp

最新の N700A も走行する日本最大級を誇るジオラマ

JR東海が運営するリニア・鉄道館は、東海道新幹線を中心に、在来線から超電導リニアまでの展示を通じて、高速鉄道技術の進歩が学べるミュージアム。この鉄道ジオラマは地元名古屋の街並を中心に東京から大阪まで東海道新幹線沿線などの代表的な建物や情景を再現しており、その中を超電導リニア、700系・N700系の新幹線、JR東海の代表的な在来線車両の鉄道模型が走行する。日本最大級の規模を誇るHOゲージのジオラマは必見！







1 見て触れて乗ることができる歴代の新幹線や在来線などの実物車両を展示。（乗車できるのは一部の車両）
2 高速鉄道をイメージしたシャープな外観。
3 人々の日常や夜間作業までも精緻に再現した「鉄道の24時間」を20分間のストーリーにした情景演出が見もの。先日デビューしたN700Aも走行している。

壬生町おもちゃ博物館

住所 栃木県下都賀郡壬生町国谷 2300
アクセス 東武鉄道宇都宮線「おもちゃのまち駅」下車 タクシーで約５分
営業時間 9:30～16:30（最終入館16:00）
月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日）年末年始（12月28日～1月2日）定休
TEL 0282-86-7111
HP http://www.mibutoymuseum.com/

持ち込み車両も運転できる！夢が広がる鉄道模型の部屋

愛好家から寄贈されたものを地域のボランティアが組み立てた、25㎡もの広さを持つNゲージのレイアウトが楽しい。男体山や中禅寺湖を背景に、日光東照宮、法隆寺、ノートルダム大聖堂など、多種多用でおもしろい建築物を詰め込んだ夢のようなレイアウトだ。6つの路線には車両が集結する中央ステーションや、川を跨ぐ高架橋なども設置し、物語を感じさせる世界が展開する。新幹線のほか、宇都宮線や東北本線など、地元栃木の鉄道が走る。







1 サウンド付きコントローラーも用意され、ライトアップで夜間運転体験も可能。2 Nゲージのほか、HOゲージ、Bトレインと、様々なサイズが揃う。N・HOゲージは、持ち込み車両の運転も可能。3 "中世のお城" をイメージさせる外観。

九州鉄道記念館

住所　福岡県北九州市門司区清滝 2-3-29
アクセス　鹿児島本線「門司港駅」徒歩３分
営業時間　9:00 ～ 17:00（最終入館 16:30）
第２水曜日（但し、８月は除く）７月は第２水・木曜日定休（第２水曜日が祝日の場合は翌日）
TEL　093-322-1006
HP　http://www.k-rhm.jp

ミニ鉄道で運転体験もできる九州の鉄道史を学べる記念館

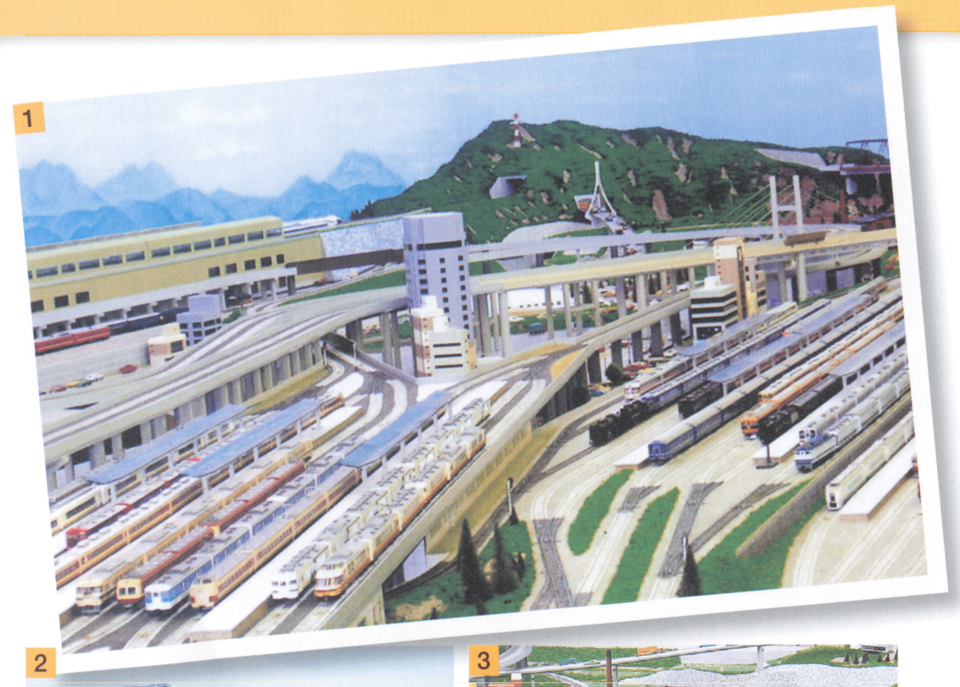
明治時代に九州で最初に設立された鉄道会社「九州鉄道」の本社建物を本館に使用。九州の鉄道の歴史と、昔懐かしい客車展示や鉄道模型展示が楽しめる記念館。「見て、体験して楽しめる」展示が充実している。博多City、鹿児島中央駅など、九州ならではの場所を再現したジオラマコーナーでは観光列車「あそぼーい！」や「いさぶろう・しんぺい」、「新800系新幹線」なども走る。マスコンで操作できる鉄道模型が特に人気。







1子どもでも運転できる人気のミニ鉄道。「ゆふいんの森」、「885系かもめ」などがあり、全長130mの区間を走行する。2昔懐かしい「481系にちりん」の特急形電車を展示。実際に乗車もできる。3メインゲートでは「59634号機」車両が迎えてくれる。







1長野の観光名所を再現したレイアウトに、50列車500両が走る。2かつて「赤ガエル」の愛称で親しまれた長野電鉄2500系の実物車両も展示。3機関区エリアには転車台が回転、C55、C59、C62やD51などの蒸気機関車が汽笛を鳴らし出発する。

トレインギャラリー NAGANO

住所　長野県須坂市福島 481
アクセス　長野電鉄長野線「村山駅」タクシー５分
営業時間　10:00 ～ 15:30
年末年始定休（12 月 30 日、31 日、1 月 1 日）
TEL　026-248-4188
HP　http://w1.avis.ne.jp/~fukachan/

アットホームな雰囲気が人気のミニチュア鉄道博物館

オーナーの深澤慶一氏が、少年の頃から集めているコレクションをはじめ、明治時代の機関車から新幹線、長野の私鉄など約4,000両が展示されている。地元の信州を舞台にしたレイアウトには、旧長野駅舎や、長野の観光名所である善光寺を再現。103系電車のマスコンを導入して、リアルな運転操作が楽しめる。走行模型車両は、「のぞみ」「あさま」「0系ひかり」などの新幹線や、373系「伊那路」、181系「とき」など、信州エリアに関連の深い列車も走る。

ニュルンベルク トイフェア2013 最新レポート

世界最大級の玩具見本市





ドイツのニュルンベルクで毎年開催される「ニュルンベルク・トイフェア」。これはドイツをはじめ世界各国のメーカーが出展する国際玩具見本市だ。もちろん鉄道模型もその一角に専用のフロアを設けて大きく紹介されている。2013年2月1～6日に行われた最新の情報を報告しよう。

写真・文／坂本直樹（Naoki Sakamoto　さかつうギャラリー）

出展者2700社、来場者7万6000人、製品100万点 プロが集まる見本市に潜入

ドイツのフランケン地方で経済と文化の中心を担う歴史ある都市「ニュルンベルク」。ここで毎年開催される世界的に有名な玩具見本市「ニュルンベルク・トイフェア」に行ってきました。

この見本市は模型問屋や小売店、メディアといった業者向けの展示会なのですが、桁違いに大規模！幼児向けのオモチャから、プラモデル、ラジコン、人形、カードゲームなどなど、ありとあらゆる面白い商品が集まります。もちろん鉄道模型も世界各国からメーカーがブースを展開していますので、今回はその様子をレポートさせていただきます。



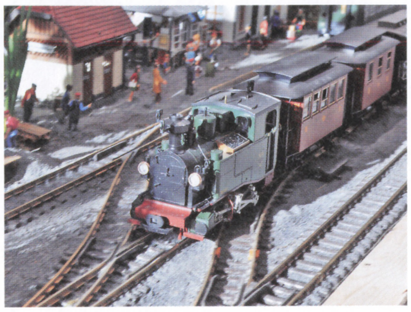
ニュルンベルク中央駅。日本と比べて低いホームがヨーロッパでは一般的。駅を一歩出れば石積の城壁や見張り塔、石畳の残るニュルンベルクの城下町だ。

中央駅からUバーン（地下鉄）で10分足らず。トイフェアの白い旗がひらめく巨大展示会場に到着する。この時期にしては珍しく晴れた。

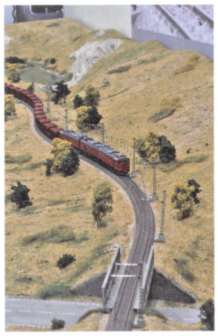


Mërklin
［メルクリン］
19世紀に創業 世界屈指の鉄道模型メーカー

鉄道模型黎明期に創業した業界最古クラスのメーカー。数ある鉄道模型の規格の多くはこのメルクリンの提唱によるものだ。耐久性や走行性能の良さは定評があり、世代を超えて受け継がれている車両も多い。近年はデジタル制御システムも開発。


メルクリン傘下のLGBブランドは大型模型のGゲージ（1/22.5）で庭園模型を展示。

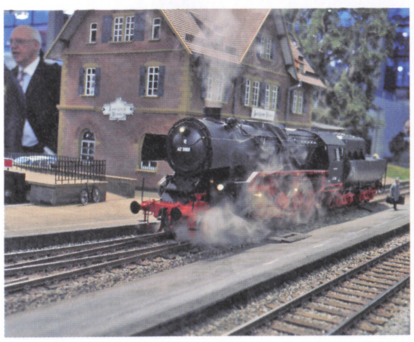

ヨーロッパ各地の車両が走るレイアウト。駅前には人々が集い、街灯にあかりが灯る。


超巨大電気機関車Dm3がHO新商品で登場。スウェーデンの情景の中をゆっくり進む。

KM1 ［カーエムアインス］
ビッグスケールとリアルギミックが魅力

１番ゲージをメインに展開するビッグスケールの鉄道模型を得意とするメーカー。迫力ある大きさとそこに施された繊細なディテールに加えて、実際の車両さながらに蒸気や音が出る蒸気機関車など、リアルなギミックの世界も魅力的だ。


駅で出発を待つBR18.3。奥には転車台と扇形機関庫が見える。単なる展示とは言わせない作り。


煙突から勢いよく煙を吐き出し、ゆっくり、力強く動き出す！　その迫力に大興奮する瞬間だ。


線路際の画家。こうしたストーリーやユーモアが鉄道模型を文化たらしめているのでは？　描いているのはVT11.5のようだ。

鉄道模型は走ってなんぼ！ 動く模型はやっぱり楽しい

ドイツの鉄道模型メーカーと言えばメルクリン。会場でも入口付近に大きなブースを展開して、一際目立つ存在です。

人垣から覗き込むと５メートル四方はあろうかという巨大なレイアウトが広がり、新商品のHOゲージ車両が走り回っています。レイアウトは大きく２つのブロックで構成されていて、１つは扇形機関庫とターンテーブル、ホッパーからなる蒸気機関車が行きかうブロック。もう１つは、それを取り囲むように長い直線と６線ホームの駅でできた現代ヨーロッパのブロック。

2013年、メルクリンではグループ全体で300アイテムという数の新商品を用意していて、そのごく一部がこのレイアウトを走っています。デジタル制御された車両が自動的に発車、停車、往復運転などを行っているので、いつまでも眺めてしまいます。

KM1のブースでは１番ゲージ（1/32）のセクションを展示。新製品のBR18.3が全長72cm、重さ6.5kgという巨体で力強い音とともに煙をはいて進む姿が来場者の注目を集めていました。

このセクション、蒸気機関車がすごいだけじゃない！　周囲の人形やクルマ、機関庫にターンテーブルなどのストラクチャーも作り込んであり、情景をじっくりと見て楽しむことができるのです。これらの情景アイテムもKM1の新商品や開発中の商品で、告知の意味合いが強いのですが、たとえば人形たちは無造作に置かれたわけではなく、それぞれストーリーを演じる役者として配置されており、そのストーリーを想像するのも楽しいというわけです。

Faller［ファーラー］

ギミックの楽しさを追求 老舗ストラクチャーメーカー

ドイツのストラクチャーメーカー。可動式観覧車やメリーゴーランドなど遊園地のアイテムあたりからギミックの楽しさを提案。新たなギミックを次々開発。近年は道路上をリアルに走行するHOのカーシステムを発表、世界的な大ヒット。

人気のカーシステムと、それを見つめる来場者。手のひらサイズのクルマが自動で走る姿は何とも不思議で見つめてしまう。周囲のジオラマも作りこまれているのでまるで小人の国の住人がいるような錯覚さえ感じる。





ボタンで動く仕掛けは人気で、商品もさることながら見せ方が上手い！こちらは新製品の貨車用転車台を使ったもの。



ファーラーは遊園地にあるような動く遊具の模型も得意。新商品のメリーゴーランドはNゲージ用で光って回る。



動くのは鉄道車両だけではありません。日本ではトミーテックが販売しているNゲージのバス走行システムが有名ですが、同じ概念でHO自動車模型が自走するシステムを一早く開発してカーシステムとして売り出したのが、ストラクチャーの雄、ファーラーなのです。

何もガイドのない（見えないだけで、実際には地面に鉄線が埋められ、それをクルマ側の磁石でトレース）ところを小さなクルマが自動的に道なりに走っていく姿を見ると、線路を走る鉄道模型以上に不思議さを感じさせ、ドイツでも大人気の商品です。

ファーラーはカーシステム以外にも動きのある情景アイテムを多数発表しており、ギミックものに力を入れていることが感じられました。展示方法もなかなかお上手で、模型のそばにボタンスイッチを用意して、来場者がボタンを押すと模型のギミックが作動する仕掛け。単純なことですが、ずっと動きっぱなしの状態を眺めるより、押して動く、操作感が会場でも受けているようでした。

ブッシュはOゲージ（1/45）のセクションをブース入口の特等席に設置。2010年ごろからOゲージの建物、クルマ、樹木などの情景アイテムを投入してきたブッシュが今年も新商品を追加リリース、注目を集めていました。日本でもOゲージナローで情景に力を入れたレイアウトを楽しもうという向きもあるので気になるところです。

ロコのブースで見つけたのは2012年夏に発売されたDCCコントロールシステムのZ21。手持ちのスマートフォンやタブレット端末が、操作簡単なDCCコントローラーになってしまうというシステムです。走行だけでなく、サウンドなどのファンクション操作も自由自在。恐ろしいほどの技術の進歩ですが、鉄道模型の楽しみ方の幅が広がるのはありがたいもの。

BUSCH［ブッシュ］

植物系素材が充実 ミニカーなどにも進出中

樹木から各種草の材料など植物系の情景素材で有名なメーカー。花屋や八百屋、畑や菜園などテーマでもラインナップしている。近年は炭鉱などで活躍するトロッコ鉄道をHOスケールでシステム展開、さらに自動車などのシリーズもある。



人形の大きさが約4㎝になるOゲージの世界。プラや繊維系の素材で作り分けられた植物がリアルだ。

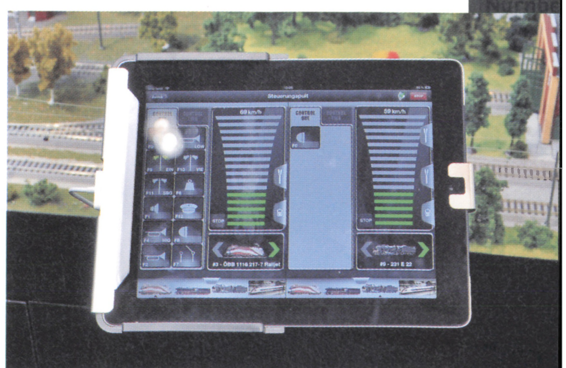
新商品のネタが楽しい。エコな時代を模型にも反映させたソーラーパネルと充電スタンド、電気自動車。



Roco［ロコ］

DCCにも意欲を見せる 欧州車両メーカー

ドイツやスイス、オーストリアの車両を中心にラインナップ。旧型の蒸気機関車や電気機関車、戦車や軍用車を積載した車両など他社にはない珍しいモデルも多い。昨年発売のDCCシステムZ21は世界的な注目アイテムだ。



iPadにZ21アプリをインストールしたデモ機。操作性にすぐれたDCCコントローラーだ。

レイアウトの「名わき役」を生み出す新技術、新素材

鉄道模型の人形メーカーと言えばプライザー。今年は56アイテムの新商品が発表されました。得意分野のHO人形では家の中の日常生活をテーマに、家具と人形がセットになった7アイテムが目を引きます。

2011年に発表されてから未だにリリースが遅れている「石積みの壁」キットシリーズは、今回アーチ形状が追加発表されていました。実はこの石積みキットや未塗装人形のキットがここ2年ほど生産されない理由は、パッケージの変更にあったそうで、今までの紙箱から中身が見える透明パックに換えて、今年の夏ごろから順次リリースされるようです。

トリックスからはレーザーカットのキットで大型のストラクチャーが7種リリースされました。それらを配したレイアウトが展示されていたのですが、目立ったのはダムトール駅。Nゲージで全長729㎜という巨大な駅は圧倒的な存在感がありつつ、よく見るとレンガ積みの壁、飾り窓などレーザーカットならではの細かなディテールが施されており、写真に撮ると縮尺が分からないほど。

ここ数年、レーザーカットの建物は各社新商品をリリースして本当に数が増えました。中にはキットと完成品を販売するスタンゲルのようなメーカーも登場しました。

Preiser［プライザー］

人形の種類では世界一 情景小物も展開中

鉄道関係者はもちろん、街を行き交う人々や、レジャーに興じる人々など、さまざまなシーンで暮らす人々が、美しい塗装と精巧なポーズといきいきとした表情で表現されている。スケールも大小豊富に展開。動物シリーズや情景小物もある。



様々なポーズの人形があるからこそ可能なツールドフランス風ジオラマ作例。

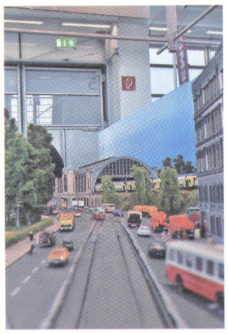


リリースが楽しみな石積みの壁キット。手前は今年発表のアーチで一番奥は新パッケージ。

TRIX［トリックス］

19世紀に創業 老舗メーカーのひとつ

さまざまな紆余曲折を経て、現在はメルクリン傘下のブランドとなっている。HOゲージとNゲージを中心に展開している。ラインナップは、ドイツの車両が中心。複雑な運行管理ができるトリックスシステムというコントローラーがある。



大きなダムトール駅はレーザーカットで再現された繊細さも併せ持つ。

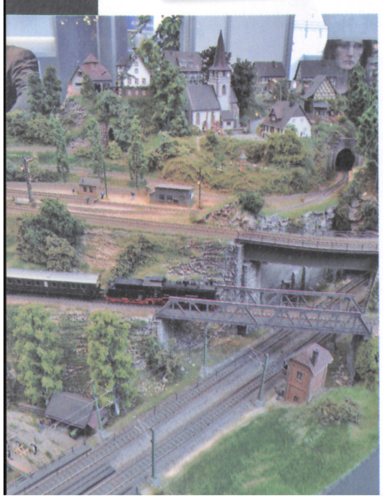


みんな撮影に夢中だ。マナーが良いからか、レイアウトに囲いやケースはない。

LILIPUT［リリプット］

軍用車両も展開する鉄道模型メーカー

一般の欧州型人気車両はもちろんのこと、迷彩塗装の装甲列車やUボートを積んだ軍用貨車、対空砲火のついた客車など、他メーカーにはない独自のラインナップも展開。社名は小説『ガリバー旅行記』の小人国にちなむそうだ。



高低差のある立体的なレイアウト。手前と奥の草木の色の差や、建物の配置も見事で、テレビの取材も受けていた。

HORNBY［ホーンビー］

イギリスの老舗 鉄道模型メーカー

OOゲージを中心に展開している英国のメーカー。車両だけでなく、英国の風景を表現するのに最適な建築や植栽などのストラクチャー用品も豊富にラインナップ。ホーンビィZero1というコントロールシステムも展開中。



車両中心のメーカーであっても、たいていはこうしたレイアウトが1つは置かれている。

stangel［スタンゲル］

日本では馴染みの薄いポーランドのメーカー

博物館模型からスタートしたポーランドのストラクチャーメーカー。地の利を活かし東欧の持つ独特の雰囲気の街並を表現した建造物を豊富にラインナップ。縮尺はHO、O、1番がメインで、O、1番では家具などの内装品も発売。



所せましと並べられた完成品。ウェザリングもしっかりほどこされており重厚感がある。

kibri［キブリ］

欧州の町並みを再現するストラクチャーメーカー

大聖堂や大きな教会、尖塔など、ヨーロッパの田舎町の風景を再現するのに最適な建物をラインナップするストラクチャーメーカー。大型の建築物から小さな住宅、跨線橋や機関庫、信号所など、さまざまなバリエーションの建築物が揃う。



火事場は、情景模型の人気ネタだ。LEDによる照明演出はもはや標準といった感も出てきた。



保線車両の09-3Xは側面のプレッシャーを上下させながらゆっくりと進む。

NOCH［ノッホ］

グラスマスターが大ヒット 情景用素材を各種展開

草や木などの自然の緑地を表現する素材や道路など、町づくりに欠かせないアイテムをはじめ、さまざまな遊びや生活を送る人々を表現した人形、農家で飼われている家畜や小動物など、情景模型に命を吹き込む素材を各種発売中。



手早く広い面積に、自然な風合いの草表現ができるグラスマスター。

Heki［ヘキ］

季節を演出する樹木や草花の素材

山や野原といった自然をテーマとした情景に欠かせない、樹木や草花の素材メーカー。さまざまな種類の広葉樹や針葉樹、下草や花を表現する豊富な色あいのポケットフロールも充実。新緑から紅葉まで季節のバリエーションも豊富。



新商品の秋色素材で作られたジオラマ。ヨーロッパの風景に違いないが、なぜか懐かしい。



フランスはロワール渓谷。川の上に建つ美しいシュノンソー城のジオラマ。水の表現が素晴らしい。

Vollmer［フォルマー］

田舎から都会まで欧州建築が揃う

ヨーロッパの駅や周辺にあるカフェ、田舎の街並を表現する小さな駅や商店、大きな教会など、精巧なつくりの駅や建物をラインナップ。さらには、火事にあった建物などの珍しいアイテムまで揃える、ドイツのストラクチャーメーカー。



新商品のストラクチャーで作られた街のジオラマ。中央の建物は、窓枠の工場。

一方、素材で目覚ましい進歩を遂げているのは、植物表現用の製品です。従来から使われているスポンジ、ライケンと言った素材に加えて、こちらもここ数年で急激に素材の種類が増え、細密なものや、植物の特徴をとらえたものが出ています。

ノッホが販売しているグラスマスターはその筆頭とも言える存在。繊維状の素材を静電気の力で、ツンツンと髪の毛が立ったような状態で撒くことが出来るので、芝生や草原の表現に便利。2013年４月に発売を予定しているグラスマスター2.0は電圧が上がり、さらに強力に繊維を立たせて、６～12㎜といった長い繊維も使用しやすくなるそうです。

日本ではまだまだ知名度の低いヘキですが、実はドイツの鉄道模型店に行くと置いていない店は無い程メジャーな植物系素材メーカー。今年の新商品は紅葉した樹木の葉を表現した素材で、色もナチュラルなら素材もスポンジとは一味違う風合いで、より葉っぱらしい印象に仕上がっていました。

以上、駆け足でしたが会場の雰囲気はお伝えできたでしょうか？ 「鉄道模型は走らせたら楽しい。だから走らせた時に、より楽しめる情景も作ってみませんか？」そんな誘い文句が聞こえてくるような展示が多く見られた見本市でした。

読者の投稿コーナー

皆さんのご自慢の作品が勢ぞろい！

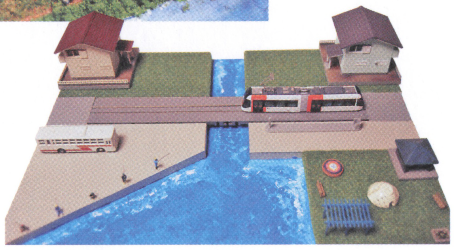
P.N フューラーさん

（千葉県）



ハガキサイズのジオラマ入門キットで製作したジオラマです。苦境に立つ銚子電気鉄道を応援するつもりで、デハ1002を鎮座させました。規模が小さすぎて、作業がかえって難しかったかもしれないです。頑張ろう、銚子電気鉄道！

これは、6歳の息子がわがままできる様に頑丈さを考え、こしらえたジオラマです。富山ライトレールが釣り人の横を走り抜ける危ういシチュエーションもご愛嬌。実は海のできが、一番気に入ってます（笑）。



白梅学園清修鉄道模型部

（東京都）



第4回 全国高等学校鉄道模型コンテスト2012で、初出場なのに、なんと4位に入賞しました！　女子高なので、「女の子らしさ」をアピールし、女子力満開の世界観を作品に活かしました。初めてのモジュール作りでセオリーもわからず、不安もありましたが、脱線することもなく楽しく作ることができてよかったです♪

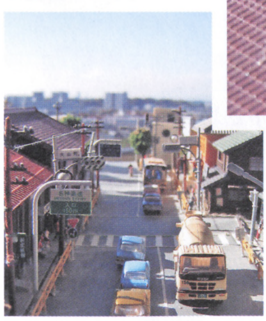


花田 欣也さん

（東京都 51歳 会社員）

ジオラマ上に、昭和の「駅前通り」を再現。ジオラマの情景は「琉球目蒲電鉄」のHPからご覧戴けます。





ハマっているのは、屋外でのデジカメ撮影。「デジタルマクロ」モードでジオラマを接写しています。特に、秋・冬の晴れた日の午前中は、陰翳がはっきりしてきれいです。また、地元の町のレトロな看板類を撮影。PCでプリントしたその写真を、銀色に塗ったプラ板に貼り、ストラクチャーのアクセントとしています。

坂本 良助さん

（神奈川県）





鉄道模型メーカーの広告撮影用に製作されたサイズ900㎜×300㎜のレイアウトを譲り受け、細部をディティールアップ。各部にウェザリングを施し、既製品特有の「プラ」の質感を消すことに留意しました。

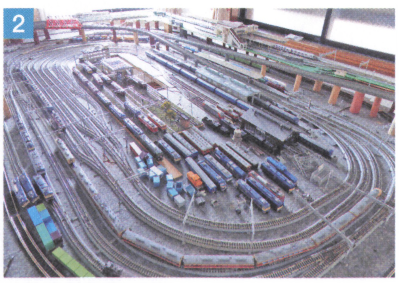
東北線さん

（宮城県 33歳 会社員）

1



2



まだ鉄道模型を初心者なので、作品といえるものではありませんが投稿してみました。私は本物共々模型もFE81が大好きで、中でもカシカマ（カシオペア専用機関車）が好きです。今回はカシカマの鉄橋を渡るシーンを作ってみました。これからもう少し情景を加えたいと思います。

堀内 透さん

感想をいただきました！

（埼玉県）

学研の『鉄道模型レイアウト超テクニック』を購入。誌面、DVDとも一気に拝見しました。宮澤さんの小湊鉄道は、実物取材映像とともに、実際の地形を模型に移し変えてしまう「ワザ」を堪能しました。そして三矢さんのアメリカ型レイアウトは、写真、映像ともに広大なスペースならではの圧倒的な迫力を満喫。車両中心で、運転は小判型エンドレスで十分…という「安楽マニア」道を突き進んできた我が身にとって、この本は、「レイアウトを作ってみなくては…と、重い腰を上げさせてくれました。

あなたの作品大募集！

『鉄道模型レイアウトファン』では、あなたの作品をお待ちしています。応募条件は、楽しく作ったこと。すこし失敗したけど自慢したい！ 作成途中だけど、皆に見てほしい等、なんでも結構です。気軽にドシドシお送りください！

作品名 / 作品の説明 / 思い入れや苦労話などをご記入の紙と、作品の写真を同封の上、お送りください。投稿写真を送るには、巻末の組み立て式の封筒をご利用ください。皆さまの作品、お待ちしております。



鉄道模型を撮ろう

最新の人気コンデジ3機種を使って、臨場感あふれる鉄道模型写真を撮るテクニックを紹介。新機種に搭載されている高性能な機能や、すぐに使える撮影テクニックを覚えて、個性的で楽しい鉄道模型の写真を撮ってみよう！

写真＆講師 藤田雄二／本文 三橋利江／イラスト 中根ゆたか

撮影した最新機種



コンパクトで低価格！ Canon Power Shot SX260HS

有効画素1,210万画素、高画質と高速処理の要である映像エンジンDIGIC5を搭載。画像処理技術の進化した39Xプログレッシブファインズームによって、高繊細な撮影が可能。



小型・薄型なのに 高性能で使いやすい！ Panasonic LUMIX TZ40

小型・薄型のボディには広角24mmと光学20倍ズームを搭載。1,810万画素高感度MOSセンサーにより、低ノイズでの撮影を可能にした。鉄道模型撮影の心強い見方。



明るいf/1.8レンズ搭載！ 楽しいモードで遊び心も Nikon COOLPIX P310

有効画素1,605万画素、明るいNIKKORレンズ（開放F値1.8）で室内や夜景、暗い場所でも写真が美しく描写。約92万ドットの超高繊細モニターで写真を鮮明に確認できる。

コンデジによる鉄道模型撮影の魅力とは？

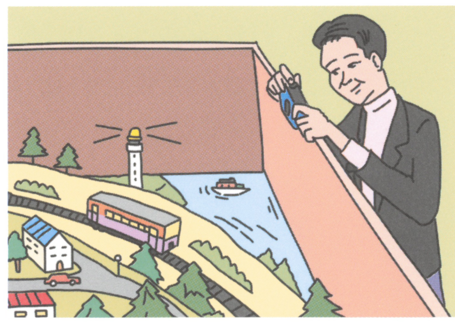
鉄道模型の写真は一眼レフでとこだわる人も多いが、コンデジのエフェクトフィルターの機能が充実することによって、より気軽にさまざまな雰囲気の撮影が可能となった。特にノスタルジーを感じさせるモノクロモードや、ジオラマモードはおすすめ。エフェクトも日々進化しており、Panasonicのクロススクリーンモード機能などおもしろい仕上がりが楽しめる。また、もともと小さくて軽く持ち運びに便利というコンデジの特徴が、斬新なアングルに対応し、少しの工夫で今までになかった一枚を残すことができる。

Goodテクニック！



カメラは低く構えて臨場感を演出する

広角レンズ（ワイド側）で線路レベル位から先頭車両を少し見上げるように撮影すると本物そっくりに。走行中はブレに注意。



カメラを固定してブレを防止する

最近はブレ補正機能が標準装備のカメラが主流だが、なるべく枠などに固定して撮影しよう。暗い場所でもブレ防止になるので安心。



コンデジなら手を伸ばしての撮影もOK

コンパクトカメラは、小さく軽いのが強み。いろいろな場所からおもしろいアングルで撮影を試そう。

キヤノン株式会社(コンパクトカメラ　カスタマーセンター) Tel 050-555-90001／ニコンカスタマーサポートセンター Tel 0570-02-8000／パナソニック お客様ご相談センター フリーダイヤル0120-878-638

実例レクチャー

鉄道模型の撮影テク

最近のコンデジは各社いろいろな撮影モードがあり、今までにない楽しみ方ができる。ここでは各モードを使ったワザを紹介しよう。



逆にリアルに近づく ジオラマモードで撮影

ジオラマをジオラマモード（Nikonはミニチュアモード）で撮影するとピントを合わせた部分以外がぼやけて、不思議な雰囲気を作り出せる。

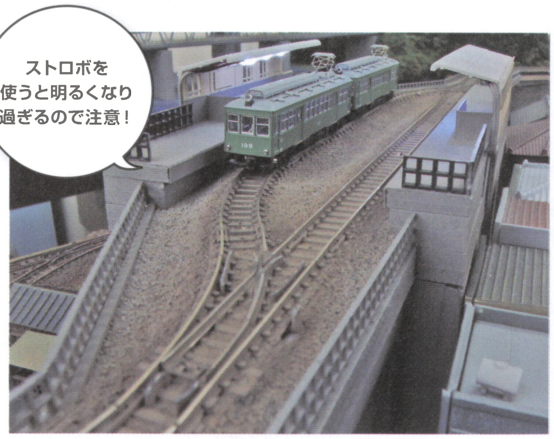
撮影機種＆モード：Canon Power Shot SX260HS／ジオラマ風モード



スローシャッターで スピード感を出す

シャッタースピードの設定を変えることで臨場感のある写真ができ上がる。作例は1／125秒以下のスローシャッターに設定し、模型のスピードとカメラを合わて振りながら撮影。

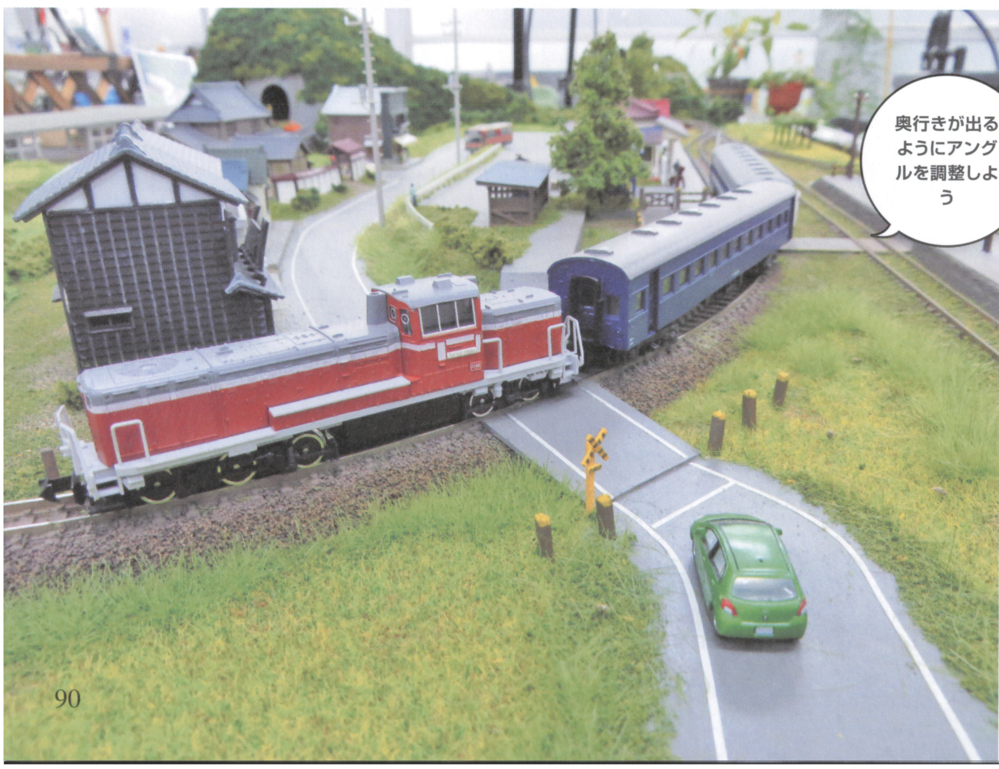
撮影機種＆モード：Panasonic LUMIX TZ40／スローシャッター



露出（明るさ）を抑えて 臨場感のある撮影をしょう

露出を調整し、写真の明るさを抑えて退色した色味で撮影すると、実際の風景のように臨場感ある絵作りができる。

撮影機種＆モード：Nikon COOLPIX P310／ノーマル（露出を変更）



構図を工夫して 理想の世界観を表現

現実では撮影の難しい構図でも、工夫次第で実現できるのが模型写真の楽しいところ。カーブにさしかかる電車と、S字に交換するところ狙って奥行きのある写真に。

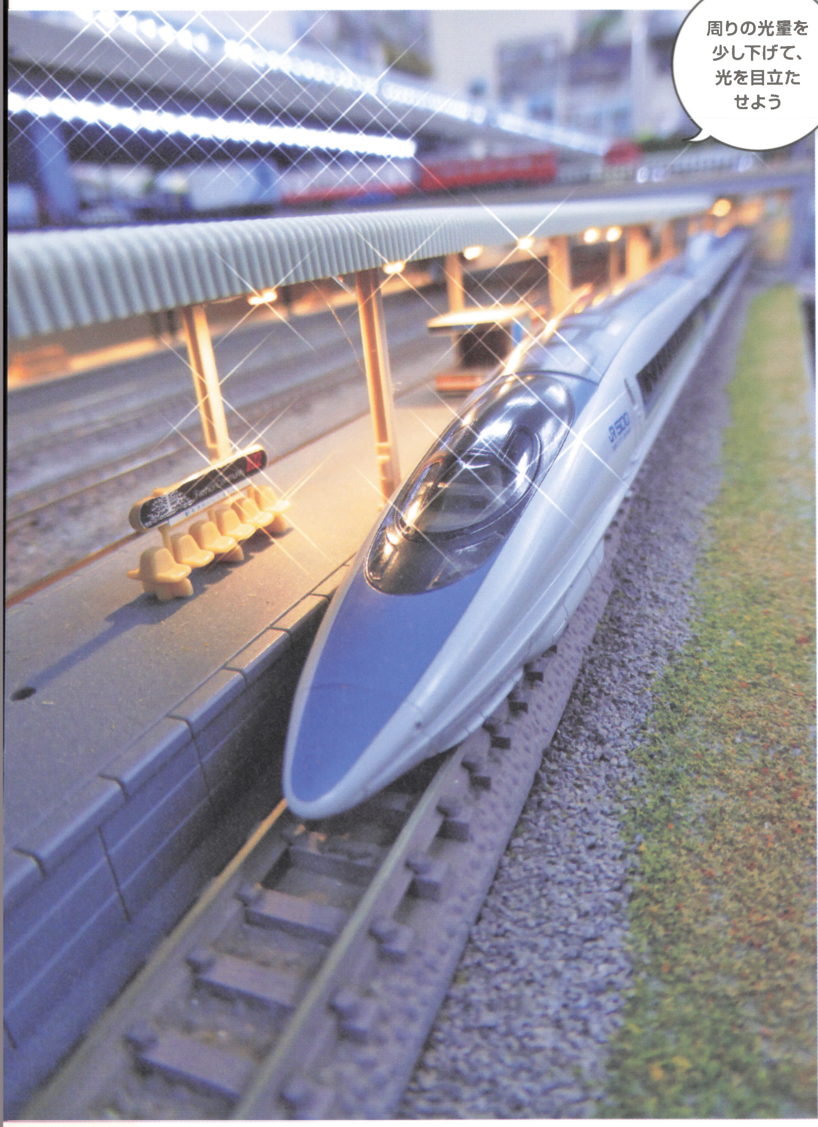
撮影機種＆モード：Panasonic LUMIX TZ40／基本モード



低めのアングルで
リアル感を演出しよう

ホームの高さを考えて、低い位置（線路よりも少し高めの目線）から撮影しよう。こうすれば実物の鉄道写真でもよく見かける光景を鉄道模型でも再現できる。

撮影機種＆モード：Canon Power Shot SX260HS／基本モード



夕暮れ時のホームを美しく表現

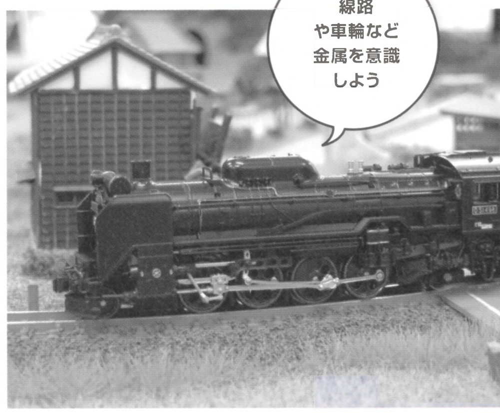
夕暮れどきのホームに止まっている500系の電車をクロススクーリーンモードで撮影。ホームの照明やヘッドライトが光のクロスに！

撮影機種＆モード：Panasonic LUMIX TZ40／クロススクリーンモード

モノクロ写真で
古き良き時代を再現

モノクロモードで撮影すれば、普段と違う雰囲気に挑戦できる。SLなどレトロな車両を撮影すると、古き良き時代を彷彿とさせる写真が撮れるので試してみよう。

撮影機種＆モード：Canon Power Shot SX260HS／モノクロモード





遠近感ある写真で
リアリティを出す

Nikon COOLPIX P310のクローズアップで手ブレ機能を使い、画面を見ながらズームはワイド側で撮影。遠近感が出て本物の鉄道写真のように見える。

撮影機種＆モード：Nikon COOLPIX P310／クローズアップ　手ブレ機能

レトロな雰囲気の
懐かしさを漂わせる

セピアモードを使うと、彩度が抑えられ、退色したレトロ雰囲気に。少し時代をさかのぼったレトロ調の風合いになり、懐かしさが漂う写真に仕上げたいなら試してみよう。

撮影機種＆モード：Canon Power Shot SX260HS／セピアモード



鉄道模型を楽しむお店

**ジオラマとともに好きな鉄道模型を一から作ったり、
既製品に手を加えてオリジナルにしたり、走る電車を眺めたり……。
鉄道マニアの夢がみるみる膨らむ２店舗のご紹介。**

本文：山口幸恵 / 写真：北原千恵美



鉄道模型が走る空間は大人の子ども部屋

バー 銀座パノラマ

カウンターを電車が走るBAR

東京都中央区

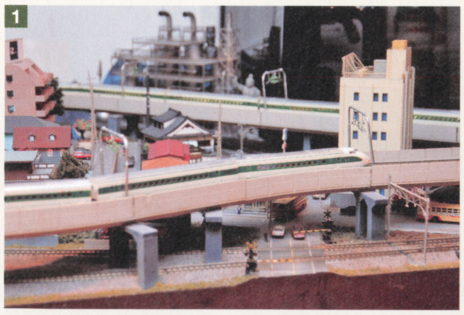


64mの路線とカウンター。席は全部で12席。座る場所によって、違うレイアウトや鉄道模型を眺めることができる。

走行電車を眺めるだけでも楽しい

特筆すべきは、総距離64m・4車線の線路を電車が行き交うレイアウト。オーナーのコレクション4,000両の中から、ダイヤ改正で引退する電車、歴代の山手線、寝台列車など、2週間ごとにテーマを決めて走らせる。銀座や駅のホーム、山岳地帯のジオラマがあり、座る場所によって、全く違った風景が楽しめる。オリジナルのカクテルをメインに、ウイスキー、ブランデーなど200種類以上のお酒が揃う。会社帰りに一杯飲みながら、ほろ酔い気分でのんびりと眺めていたり、1人で来店した客同士が意気投合することも。電車が線路の切り替え部分を走る際、カタンコトンと音が聞こえる。大人が子どもに戻る場所。

1



2



3



1精巧に作られた町並みと走る新幹線。2春には桜、秋には銀杏の木を立てる。山の上の、トトロに出てくるネコバスで遊び心を表現。3銀座の和光、MITSUKOSHI、三愛ビルの谷間を都電が走る。昭和30年代後半の銀座のレイアウト。

DATA

住　所	東京都中央区銀座 8-4-5 GINZA HACHIKAN ビル８階
TEL	03-3289-8700
営業時間	月～金　PM6：00 ～ AM3：00 土・祝　PM6：00 ～ PM11：00 日・年末年始、ゴールデンウィーク、夏季（お盆の頃）　定休
アクセス	JR 新橋駅銀座口より徒歩５分
HP	http://www.ginza-panorama.com/bar/index.html

店長のおすすめ

オーナー自慢のコレクションの一部。季節やイベント、メンテナンスなどによって入れ替わる。





店長・
服部智之さん

全国に8店舗の
鉄道模型専門ショップ

TamTam

鉄道模型専門店
東京都千代田区





1 作り手がワクワクするような、豊富なパーツの品揃えは圧巻。2 オリジナルカラーからJRの制定色まで、多彩にラインナップ。





3 子どもも見やすいよう低い場所に配置されたガラスケース。4 情景模型用品は、眺めているだけでも楽しい。

オリジナル商品や新商品が続々入荷中!

パーツ数の豊富さには目を見張る。TOMIXは全パーツ、小さなメーカーの部品も豊富に揃い、新商品が入荷されると店頭に行列ができるほど。情景模型用の素材やストラクチャーも充実。店員と客が一緒に楽しめる、まさに鉄道ファンのためのショップ。

DATA

住　所	東京都千代田区外神田 6-14-2 さかい末広ビル 4F、5F
TEL	03-5816-5667
営業時間	平　日　AM11：00 ～ PM9:00 土日祝　AM10：00 ～ PM9:00
アクセス	東京メトロ銀座線末広町駅４番出口より徒歩１分
HP	http://www.hs-tamtam.jp/

店長のおすすめ

同店オリジナルのNゲージ用室内灯。中間チップを切れば、車両の両端だけが照らされ幻想的な雰囲気に。



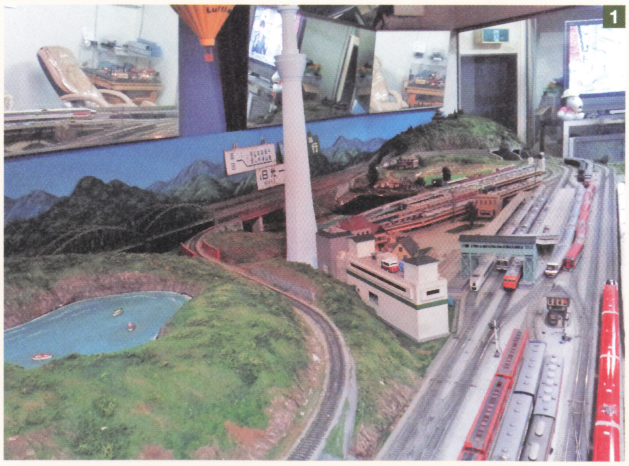
（写真左）阿部玲緒奈さん
（写真右）店長・徳丸好和さん



鉄道模型が走るお風呂屋さん

友の湯

銭湯
東京都江戸川区







1 湖からスカイツリーまで、店主の好きなもので構成されたレイアウト。2 こだわりの軟水のお湯は女性にも人気！3 迫力満点のHOゲージの車両は訪れる人の目を楽しませる。

趣味が高じて鉄道模型を展示

銭湯に何か意外性を持たせて、お客様が楽しんで集まれる場所にしようと、店主がロビーに大きなレイアウトを設置。迫力のあるHOゲージの車両が走る姿が子どもたちにも人気だ。お風呂と鉄道がダブルで楽しめることもあり、鉄道模型好きはもちろん、海外からわざわざ見に来るお客さんもいるのだとか。

DATA

住　所	東京都江戸川区東小岩 5-1-3
TEL	03-3659-8160
営業時間	PM1:30 ～ AM1:00 火曜日定休（年始３が日は時間の変更あり）
アクセス	JR小岩駅南口より徒歩15分
HP	http://tomonoyu.com/



写真提供 友の湯

ロビーの半分を埋め尽くす大きなレイアウトは一見の価値あり。

Gakken Mook

鉄道模型レイアウトファン

2013年4月8日発行

発行人	河上　清
編集人	鈴木 昌子
発行所	株式会社学研パブリッシング 〒141-8412　東京都品川区西五反田2-11-8
発売元	株式会社学研マーケティング 〒141-8415　東京都品川区西五反田2-11-8
印刷所	文理輪転印刷株式会社
編集長	日笠 幹久
総監修	松本 典久
執筆・編集	壁谷 正久(学研パブリッシング) 山田 悟史、木庭 将、伊達砂丘、服部 美加里(スタジオポルト) 近藤 文雄、川上 博司、山口 幸恵、三橋 利江 田村 伸夫
本文・表紙デザイン	石田　崇　　鈴木 勇考 野村 義彦　　吉田 進一　　岩﨑 舞(株式会社ライラック)
表紙撮影	藤田 雄二
撮影	藤田 雄二(学研パブリッシング) 奥村 暢欣(スタジオダング) 北原 千恵美 山口 勉　　照井 博道　　下元 直樹(スタジオ玄)
イラスト	中根 ゆたか
DTP制作	株式会社ノーバディー・ノーズ
取材協力	宮澤 雅文　アトリエminamo 〒194-0013　東京都町田市原町田4-16-21　キムラヤビル2F-1 Tel 042-851-8085
	諸星 昭弘　オモロデザイン 〒239-0841　神奈川県横須賀市野比1-24-17-1F Tel 046-847-2562
	株式会社カトー 〒161-0031　東京都新宿区西落合1-24-10 Tel 03-3954-2533
	株式会社トミーテック(お客様相談室) 〒124-8511　東京都葛飾区立石7-9-10 Tel 03-3695-3161
	株式会社マイクロエース 〒335-0001　埼玉県蕨市北町5-11-2 Tel 048-444-2944
	さかつうギャラリー 〒170-0002　東京都豊島区巣鴨3-25-13クラブリーシュ1階 Tel 03-3949-2892
	原鉄道模型博物館 〒220-0011　神奈川県横浜市西区高島1-1-2横浜三井ビルディング2階 Tel 045-640-6699
	TamTam 秋葉原店 〒101-0021　東京都千代田区外神田6-14-2さかい末広ビル4階、5階 Tel 03-5816-5667
	キヤノン株式会社(コンパクトカメラ　カスタマーセンター) Tel 050-555-90001
	ニコンカスタマーサポートセンター Tel 0570-02-8000
	パナソニック お客様ご相談センター 0120-878-638

この本に関する各種お問い合わせ先
［電話の場合］
編集内容については　Tel 03-6431-1532(編集部直通)
在庫、不良品(落丁、乱丁)については　Tel 03-6431-1205(販売部直通)

［文書の場合］
〒141-8418　東京都品川区西五反田2-11-8
学研お客様センター『鉄道模型レイアウトファン』編集部

この本以外の学研商品に関するお問い合わせは下記まで。
Tel 03-6431-1002(学研お客様センター)

学研の書籍・雑誌についての新刊情報・詳細情報は、下記をご覧下さい。
学研出版サイト　　http://hon.gakken.jp/

アンケート・応募用紙

山折り線

料金受取人払郵便
大崎郵便局承認
6278
差出有効期限
平成25年9月30日

141-8790

大崎郵便局私書箱67号
株式会社学研パブリッシング
趣味実用出版事業室
鉄道模型レイアウトファン編集部行

102

この部分は同封する写真等がなければ切り取ってください。
山折り、または切る

山折り線

太い線を切ってください。

のりしろⒸ

のりしろⒷ

Q1. 面白かった記事に○を、つまらなかった記事に×を記してください。（それぞれ3つまで）

① P3 鉄道模型の達人たち 藤田 弘
② P12 鉄道模型の達人たち 岡倉 禎志
③ P18 鉄道模型の達人たち 岡田 徹也
④ P22 鉄道模型の達人たち 畑川 政勝
⑤ P28 鉄道模型の達人たち 石川 博康
⑥ P31 NGP［Narrow Gauge Party］
⑦ P38 塗装特集 塗装の基礎知識
⑧ P46 塗装特集 塗装にチャレンジ！
⑨ P52 塗装特集 諸星 昭弘の至高のウェザリング術
⑩ P56 塗装特集 会津 和樹のスーパーリアル部分塗装
⑪ P58 鉄道模型レイアウトファン Pick up Model!! 東北新幹線 E-5 徹底解析
⑫ P60 宮澤雅文が作る昼夜のジオラマ 200系が走る春の情景
⑬ P70 ウェザリングの達人 諸星 昭弘 昭和ノスタルジー探訪
⑭ P72 夜をドラマティックに演出する
⑮ P76 吉永 陽一の『空鉄』案内——第1回 上空から見た鉄道のある風景
⑯ P78 家族で楽しむ鉄道ギャラリー
⑰ P83 世界最大級の玩具見本市 ニュルンベルクトイフェア2013最新レポート
⑱ P88 皆さんのご自慢の作品、勢ぞろい！ 読者の投稿コーナー
⑲ P89 コンデジで！ 鉄道模型を撮ろう
⑳ P92 鉄道模型を楽しむお店

のりしろⒶ

山折り線

Q2. 本誌をどちらで知りましたか？

1. 書店で見て　　2. 人から聞いて　　3. その他［　　　　］

Q3. 本誌を買う決め手になった記事をQ1から3つあげて、理由を以下から選んでご記入ください。

番号［　　］［　　］［　　］
1. レイアウト作例が出ていたから　　2. 塗装技術が出ていたから　　3. その他［　　　　］

Q4. 鉄道関連の本で定期的に購読しているものがあれば誌名をご記入ください。

［　　　　　　　　］

Q5. 鉄道模型を自作していますか？ している場合はキャリアを教えてください。

はい ・ いいえ　　作りはじめてから約［　　］年

**Q6. 本物の鉄道車両に乗りに行ったり、撮影に行ったりされますか？
「はい」・「いいえ」のどちらかに○をつけてください。**

はい ・ いいえ





鉄道模型 レイアウトファン





9784056069624

1929476014009

ISBN978-4-05-606962-4

C9476 ¥1400E

雑誌62565-17
Ⓗ2014年4月
GAKKEN 1860696200
定価1,470円 本体1,400円

鉄道色塗料メーカー別

色見本帳

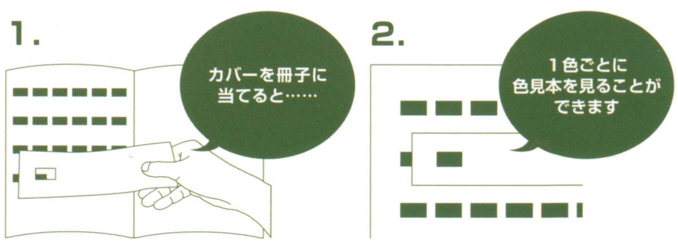
色見本カバー

カッターで
切り取る

きりとり線

［色見本カバーの使い方］

穴をカッターで切るとると、1色ずつ見ることができるカバーが出来上がります。塗装に使用するときの色選びに活用してください。



鉄道色塗料メーカー別

色見本帳

Contents

ここで紹介した色見本は、製品の色調を元に編集部で再現したものです。印刷の都合上、実際の塗料とイメージが異なる場合がございます。予めご了承ください。商品形体、価格は3月1日時点の情報です。

グリーンマックス〈アクリル塗料／缶スプレー〉

鉄道スプレー



Nゲージメーカーとして知られるグリーンマックスでは鉄道車両向けに調色したアクリル塗料を缶スプレーと塗料原液の2パターンで発売。缶スプレーは通常タイプと塗料を増やしたロングタイプがある。

内容量／
塗料90ml各色￥630(税込)
ロングタイプ塗料180ml
各色￥1,050(税込)

1 赤2号
交流・交直流EL、特急EC・DC窓まわり、新潟色、京王帯、京阪特急下半

2 ぶどう色2号
旧型EC・PC・EL全般、秩父帯

3 黄かん色
湘南色窓まわり、東武100・6050系帯

4 クリーム色4号
特急EC・DC、急行一般DC旧色、京成赤電帯、阪神上半

5 クリーム色1号
スカ色窓まわり、20系帯、はつかり客車帯、山陽旧色上半

6 青22号
京浜東北線、119系旧色、旧2等青帯

7 青15号
スカ色、直流EL、一般PC

8 銀色
特急屋根、ステンレスボディ、伊豆急100系帯

9 ねずみ色
屋根、JR屋上機器など、床下機器、箱根登山、窓まわり、神戸旧色

10 黒色
床下機器、東武100系窓まわり、山陽帯

11 朱色1号
中央線(首都圏)、大阪環状線通勤形EC

12 黄5号
JR通勤車、新潟色、秩父富士山地鉄新上半、東急3000系旧色、小田急旧色

13 緑2号
湘南色

14 灰色9号
関西・阪和113系、119系旧色、301系・地下型103系、京成新色、屋上機器

15 黄緑6号
山手線・関西線用通勤形EC車体

16 青20号
新ブルトレ、常磐415系帯、新幹線0・100系、伊豆箱根、小田急旧色下半、富山地鉄旧色

17 オレンジA
近鉄特急、京阪特急上半

18 ブルーA
近鉄特急、上田下半、東急3000系旧色、山陽旧色下半、阪神青銅

19 ベージュA
西武101系窓まわり・旧色上半、同系列地方私鉄、弘南上半、秩父旧色、東武旧色、伊豆箱根

20 ラズベリーA
西武旧色下半・同系列地方私鉄、伊豆箱根、赤13号(交直ローズ)流用可

21 アイボリーA
小田急通勤車、上田上半、神戸、一畑2100系下半、近鉄、阪急、クリーム10号流用可能

22 ブルーB
小田急通勤車帯、東武8000系新色帯

23 イエローA
西武101・2000系、営団7000系帯

24 ライトブルーA
東武8000系新色帯、JR四国EC・DC帯

25 緑15号
JR205系、東海色帯、新幹線200系、営団6000系、富山地鉄新下半

26 マルーンA
近鉄一般車、東武帯

27 レッドA
西武5000系帯、琴電下半、東急帯、西鉄帯、神戸阪神赤胴、京成新色帯、山陽

28 アイボリーB
西武5000系、東武旧色、京王、山陽、能勢旧窓まわり、琴電上半、西鉄

29 バーミリオンA
京急全般、旧色3等赤帯

30 ライトグリーンA
東急3000系・5000系、京王旧型、江ノ電


501

307
東武　新車体色

ジャスミンホワイト

308
東武6050系（スペーシア）帯色

サニーコーラル

309
東武6050系（スペーシア）帯色

パープルルビー

310
東武8000系など通勤車新色帯色

ロイヤルブルー

311
東武8000系など通勤車新色帯色

フレッシュブルー

312
阪神軌道線旧車体上部色

ベージュ

313
阪神軌道線旧車体下部色

マルーン

314
阪神軌道線新車体上部色

ベージュ

315
阪神軌道線新車体下部

マルーン

31
朱色4号

国鉄一般型DC･DL、東武旧色窓まわり、箱根登山、神戸旧色

32
マルーンB

阪急全般、弘南下半、秩父旧色、東武旧色快速下半、能勢旧色

33
ダークグリーン

京阪下半

34
ライトグリーンB

京阪上半、旧色つばめ青大将、グリーン車帯

35
ダークグレー

屋根･床下機器など

36
青緑1号

常磐線EC

37
白3号

JR211･205系京葉前面、東武、京急帯、旧一等白帯、箱根登山帯、富山地鉄旧色帯

38
赤14号

JR205系京葉帯、121系旧色帯

39
アルミシルバー

営団6000･7000･8000系、小田急1000系

40
クリアコート(光沢)

ツヤあり、表面保護、透明

41
ブルーC

伊豆急上半

42
ブルーD

伊豆急下半

43
朱色5号

一般･通勤形DC、首都圏色

44
クリアコート(半光沢)

表面保護、半ツヤ、透明

グリーンマックス〈アクリル塗料〉

鉄道カラー



グリーンマックスは缶スプレーと同じ材質のアクリル塗料を原液でも発売。ただし一部の色は缶スプレーのみの発売。溶剤はGSIクレオスのMr.カラーうすめ液またはMr.カラーレベリングうすめ液を指定。Mr.カラーと塗料の混合調色も可能。

内容量/
塗料18ml
各色￥262(税込)

1
赤2号

交流･交直流EL、特急EC･DC窓まわり、新潟色、京王帯、京阪特急下半

2
ぶどう色2号

旧型EC･PC･EL全般、秩父帯

3
黄かん色

湘南色窓まわり、東武100･6050系帯

4
クリーム色4号

特急EC･DC、急行一般DC旧色、京成赤電帯、阪神上半

5
クリーム色1号

スカ色窓まわり、20系帯、はつかり客車帯、山陽旧色上半

6
青22号

京浜東北線、119系旧色、旧2等青帯

7
青15号

スカ色、直流EL、一般PC

8
銀色

特急屋根、ステンレスボディ、伊豆急100系帯

9
ねずみ色

屋根、JR屋上機器など、床下機器、箱根登山、窓まわり、神戸旧色

10
黒色

床下機器、東武100系窓まわり、山陽帯

11
朱色1号

中央線(首都圏)、大阪環状線通勤形EC

12
黄5号

JR通勤車、新潟色、秩父富士山地鉄新上半、東急3000系旧色、小田急旧色

13	**緑2号**	湘南色
14	**灰色9号**	関西・阪和113系、119系旧色、301系・地下型103系、京成新色、屋上機器
15	**黄緑6号**	山手線・関西線用通勤形EC車体
16	**青20号**	新ブルトレ、常磐415系帯、新幹線0・100系、伊豆箱根、小田急旧色下半、富山地鉄旧色
17	**オレンジA**	近鉄特急、京阪特急上半
18	**ブルーA**	近鉄特急、上田下半、東急3000系旧色、山陽旧色下半、阪神青銅
19	**ベージュA**	西武101系窓まわり・旧色上半、同系列地方私鉄、弘南上半、秩父旧色、東武旧色、伊豆箱根
20	**ラズベリーA**	西武旧色下半・同系列地方私鉄、伊豆箱根、赤13号（交直ローズ）流用可
21	**アイボリーA**	小田急通勤車、上田上半、神戸、一畑2100系下半、近鉄、阪急、クリーム10号流用可能
22	**ブルーB**	小田急通勤車帯、東武8000系新色帯
23	**イエローA**	西武101・2000系、営団7000系帯
24	**ライトブルーA**	東武8000系新色帯、JR四国EC・DC帯
25	**緑15号**	JR205系、東海色帯、新幹線200系、営団6000系、富山地鉄新下半
26	**マルーンA**	近鉄一般車、東武帯
27	**レッドA**	西武5000系帯、琴電下半、東急帯、西鉄帯、神戸阪神赤胴、京成新色帯、山陽
28	**アイボリーB**	西武5000系、東武旧色、京王、山陽、能勢旧窓まわり、琴電上半、西鉄
29	**バーミリオンA**	京急全般、旧色3等赤帯
30	**ライトグリーンA**	東急3000系・5000系、京王旧型、江ノ電
31	**朱色4号**	国鉄一般型DC・DL、東武旧色窓まわり、箱根登山、神戸旧色
32	**マルーンB**	阪急全般、弘南下半、秩父旧色、東武旧色快速下半、能勢旧色
35	**ダークグレー**	屋根・床下機器など
36	**青緑1号**	常磐線EC
37	**白3号**	JR211・205系京葉前面、東武、京急帯、旧一等白帯、箱根登山帯、富山地鉄旧色帯
38	**赤14号**	JR205系京葉帯、121系旧色帯
39	**アルミシルバー**	営団6000・7000・8000系、小田急1000系
40	**クリアコート（光沢）**	ツヤあり、表面保護、透明
41	**ブルーC**	伊豆急上半
42	**ブルーD**	伊豆急下半
43	**朱色5号**	一般・通勤形DC、首都圏色
44	**クリアコート（半光沢）**	表面保護、半ツヤ、透明

215	車掌室室内	クリーム色5号
216	20系内張	クリーム色9号
217	イスの上張り	黄4号
218	電車、気動車、客車内張	淡緑1号
220	電機、ディーゼル機、気動車、電車、新幹線、M車室内張	淡緑3号
221	20系客車内張	淡緑7号
222	客車、電車、気動車、新幹線グリーンマーク	黄緑7号
223	電車ケコミ、つばめ、はと用機関車台車	緑3号
224	電機、ディーゼル機、機械室機器	灰緑2号
225	電機、ディーゼル機、電車、気動車M室機器	灰緑3号
226	旧気動車屋根	灰青色1号
227	ビニールクロスカーテン	灰青色3号
228	二等車など級帯（三等級時代）	青1号
229	旧スカ外部	青2号
230	旧気動車（一般）外部	青3号
232	配管色・水	青9号
233	新幹線ビュッフェ天井	青21号
234	有蓋車内張、客車、電車、気動車、ケコミ、腰掛骨組	灰色1号
235	103系1000、1200代車体外部	灰色8号
236	新幹線天井	灰色16号
237	客車リクライニング車カーテンキセ	赤7号
238	EF200・EF65・66貨物色　EF66100ボディ	ブルー
239	EF200・EF65・66貨物色　EF66100ボディ	ライトグレー
240	EF200床下機器　EF65・66貨物色　スカート床下機器	ダークグレー
241	EF200・EF65・66貨物色　EF66100ドアー部	イエロー
242	EF65貨物色　EF66100ボディ上部	ライトブルー
243	ＥＦ200スカート　EF66100屋根	グレー
244	EF200ボディー帯・Hゴム EF65・66貨物色EF66100、窓まわりHゴム	黒
245	JR貨物　コキ100	ブルー
246	JR貨物コンテナ色	紫
301	トワイライトエクスプレス色	濃緑
302	南海1000系帯	ブルー
303	南海1000系帯	オレンジ
304	南海1000系本体	グレー
305	名古屋鉄道旧特急色	クリーム
306	名古屋鉄道旧特急色	ブラウン

165
東武旧車体色8000・3050系
セージクリーム

166
小田急10000形
ワインレッド

167
小田急10000形
ルビー

168
小田急10000形
クリーム

169
小田急30000形
ハーモニックパープルブロンズメタリック

170
小田急7000形・10000形ボディー色
ダークブラウン

171
小田急20000形
ホワイト

172
小田急20000形
タヒチアンブルー

173
小田急20000形
ピンク

174
小田急20000形
前面ハイメル

175
西武鉄道10000系
グレー

176
西武鉄道10000系
ダークグレー

177
西武鉄道10000系
ブラック

178
西武鉄道4000系
ホワイト

179
西武鉄道6000系
シルバー

180
西武鉄道6000系
グレー

181
西武鉄道6000系
ブルー

182
西武鉄道6000系
ブラック

183
京王帝都（京王線井ノ頭線）
ライトグリーン

184
京成青電窓まわり(S30中頃)
淡緑色

185
京成青電幕板腰板(S30中頃)
濃青色

186
京成青電窓まわり(S40頃)
灰緑色

187
京成青電幕板腰板(S40頃)
濃青色

201
東北・ 上越新幹線、185系
緑色14号

202
旧二等、貴賓車青帯
青1号

203
トキ25000 コンテナ車 ホキ2500外部
赤3号、赤茶色のコキ50000、ホキ9500など

204
旧電機、客車外部
国鉄旧型EL・PCなど

205
旧大阪急電
ぶどう色3号、80系大阪急電色幕板・腰板

206
電車鋼製引戸内部 客車出入口 客車 電車カーテンキセ
黄カッ色1号

207
旧気動車（一般）外部
黄カッ色2号

208
スロ50～54、60室内腰板
薄茶色

209
スロ50～54、60幕板 吹寄
薄茶色2号

211
客車、電車、気動車、グリーン車内張
薄茶色4号

212
配管色・電気
薄茶色5号

213
交流電車、軽量客車、特急電車、気動車、急行電車、気動車内張
薄茶色6号

214
一等車など級帯旧スカ外部
クリーム色2号、旧スカ色など

ジェイズ〈アクリル塗料／缶スプレー〉

鉄道模型車輌色スプレー式塗料

鉄道模型パーツメーカーとして知られるジェイズから缶スプレーでアクリル塗料が発売されている。製造元は家庭塗料で知られるアサヒペン。一般の塗料のほか、屋根板などの表現に便利なスエード調塗料もある。



内容量／
塗料90ml
全容量300ml
¥1,344(税込)

1 青大将色
つばめ・はと用EL、PC車体外部(青大将)

2 ローズピンク
赤13号、交直流EL・ECなど

3 あさま ベースグレー
189系・489系あさま色

4 あさま フォギーグレー
189系・489系あさま色

5 あさまアイビーグリーン
189系・489系あさま色

6 ぶどう1号
国鉄旧型EL・PCなど

7 急行用気動車色 赤色
赤11号、急行DC窓まわり

8 急行用気動車色 クリーム色
クリーム色4号、特急EC・DC・急行DC、旧一般型DC、交直流急行形EC

9 溜め色
旧型EL・EC・PC・全般

10 屋根グレー用灰色
GU「あさま」屋根色

11 やや光沢クリヤ

12 月光 青色
青15号、スカ色、直流EL、一般PC

13 月光 クリーム色
国鉄EL・EC・PCなど、スカ色窓まわり

14 貨車標準色 (とび色2号)
有蓋車(ワム80000、ワキ5000など)

15 特急電車気動車 赤色
赤2号、20の北斗星赤色より明るい

16 特急電車気動車 クリーム色
クリーム4号

17 ツヤ消しクリヤ

18 新製全検時黒色
極ツヤあり

19 濃い屋根グレー用 灰色
ジェイズ製品中の灰色で最もダーク

20 北斗星 赤色
赤2号、交流・交直流EL、特急EC・DC窓まわりなど

21 明るい屋根グレー用 灰色
ねずみ1号、DL、EC屋根など

22 スカ色青色
青15号、スカ色、直流EL、一般PC

23 小田急電鉄 アイボリー
小田急通勤車両のベースのアイボリー

24 小田急電鉄ブルー
小田急通勤車両の帯色のブルー

25 ツヤ消し黒
SL・FCなど

26 あずさ アルパインブルー
183系あずさ色

27 あずさファンタジー バイオレット
E351系あずさ色

28 踊り子 緑色 (緑14号)
200系、185系

29 新長野色窓下帯色 緑色
115系

30 JR貨物色 ライトパープル
EF65など

31
JR貨物色
ディープブルー
EF66など

32
JR貨物色
スカイブルー
EF67など

33
ぶどう2号
旧型EL・EC・PC・全般

34
スカイブルー
(青22号)
103系京浜東北線など

35
湘南色(黄かん色)
湘南色窓まわり

36
湘南色(緑2号)
湘南色

37
コキ・トキ・ホキ
(赤3号)
赤茶色のコキ50000、ホキ9500など

38
オレンジバーミリオン
(朱色1号)
中央線(首都圏)、大阪環状線通勤形EC

39
カナリヤイエロー
(黄5号)
総武中央緩行など

40
気動車首都圏色
(朱色5号)
一般・通勤形DC、首都圏色

41
ホワイト(白3号)

42
阪急電鉄マルーン
やや光沢

43
阪急電鉄アイボリー
やや光沢

44
14系・24系ブルトレブルー
(青20号)
新ブルトレなど

45
うぐいす(黄緑6号)
山手線・関西線用通勤形EC車体

46
戦前客車色
眺める角度によっては黒に近い

ジェイズ〈アクリル塗料/缶スプレー〉

鉄道模型車輌色スエード調スプレー



内容量/
塗料135ml
全容量300ml
¥2,247(税込)

鉄道模型パーツメーカーとして知られるジェイズからスエード調塗料も缶スプレー方式で発売されている。塗装面がざらついた感じに仕上がり、屋根板などの表現に便利。製造元は家庭塗料で知られるアサヒペン。

91
マットブラック
SL・FCなど

92
ダークグレー
屋根・床下機器など

93
グレー
屋根・床下機器など

130
長崎市電帯色
赤

131
広島市電
グリーン

132
神戸市電上部色
ベージュ

133
神戸市電下部色
グリーン

134
上田交通上部色
クリーム

135
上田交通下部色
濃紺

136
大阪市電上半色
黄

137
大阪市電下半色
あずき

138
山陽電鉄ボディー
クリーム

139
山陽電鉄帯色
朱

140
183系はしだて車体色
ノースグレー

141
183系はしだて車体色
ベージュ

141B
183系はしだて帯色
青

142
江ノ電 車体色
黄

143
江ノ電 車体色
緑

144
西鉄5000系 車体色
アイスグリーン

145
西鉄5000系 車体色
ボンレッド

146
西鉄8000系 車体色
ケープアイボリー

147
西鉄8000系 車体色
カーディナルレッド

148
富山地鉄14760系車体上部色
ダブグレー

149
富山地鉄14760系車体帯色
シンカシャレッド

150
富山地鉄14760系車体下部色
オパールホワイト

151
東急（玉川線）車体色
もえぎ

152
近鉄車体上部色
アースブラウン

153
近鉄車体下部色
クリスタルホワイト

154
近鉄車体帯色
サンフラワーイエロー

155
キハ283系
ブルー

156
キハ283系
赤

157
キハ283系
ライトグリーン

158
名鉄キハ8500系特急気動車
ダークブラウン

159
名鉄キハ8500系特急気動車
マスタード

160
名鉄キハ8500系特急気動車
ソフトグリーン

161
名鉄キハ8500系特急気動車
アイボリー

162
江ノ島電鉄2000形
青緑色

163
大阪市営地下鉄上半色(S33～54頃)
アイボリー

164
大阪市営地下鉄下半色(S33～54頃)
オレンジ

94
近畿日本鉄道
ダークグリーン

95
新京成電鉄（腰部）
マルーン

96
新京成電鉄（窓部幕部）
キャンディピンク

97
小田急電鉄（車体全体）
ケイプアイボリー

98
小田急電鉄（窓下帯）
ローヤルブルー

99B
特急つばめ・はと（スハ44）
グリーン

100
国鉄旧型客車（帯）
赤（三等）

101
国鉄快速用
グレー

102
ステンレスＥＦ30・EF81
メタリック

103
キハ40・47系など新塗装気動車用
朱色5号、通勤形DC車体外部（首都圏色）

104
オハ50など特急新塗色用
赤2号、交流・交直流EL、特急EC・DC窓まわりなど

105
京福電鉄（上半色）
ブラウンベージュ

106
京福電鉄（下半色）
深緑

107
京福電鉄（越前線）
クリーム

108
京福電鉄（越前線）
赤

109
神戸電鉄（上半色）
サーモンピンク

110
神戸電鉄（下半色）
グレー

111
下津井電鉄（上半色）
赤

112
下津井電鉄（下半色）
クリーム

113
西武鉄道5000系
アイボリー

114
西武鉄道5000系
赤

115
西武鉄道101系
黄

116
相模鉄道6000系
濃緑

117
相模鉄道6000系
赤

118
相模鉄道6000系
灰

119
京成電鉄AE車
クリーム

120
京成電鉄AE車
マルーン

121
東武鉄道1800系
赤

122
西日本鉄道2000系
黄

123
西日本鉄道2000系
赤

124
近鉄
ニューマルーン

125
近鉄
ニューグレー

126
南海サザン
淡緑

127
南海サザン
濃緑

128
南海（新こうや号）
赤

129
南海（新こうや号）
アイボリー

モリタ〈アクリル塗料〉

鉄道カラー



各種模型用パーツや塗料を製造販売するモリタから鉄道車両用調色されたアクリル塗料を発売。溶剤はGSIクレオスのMr.カラーうすめ液またはMr.カラーレベリングうすめ液を指定。Mr.カラーと塗料の混合調色も可能だ。

内容量/
塗料15ml
各色￥368(税込)

番号	色名	用途
575	青15号	10・20系客車の車体外部色、国鉄新性能電気機関車車体色
576	青20号	0系・100系新幹線、12系新型客車車体色
577	赤13号	EF81車体色、401・451系車体色
578	ぶどう色2号	旧型EL・EC・PC・全般
579	朱色4号	国鉄一般型DL・DC
580	とび色2号	ワム80000、ワキ5000の車体外部色
581	ぶどう色1号	昭和34年までの一般客車、電気機関車の車体色
582	サンドイエロー	JR貨物更新色
583	クリーム2号	70系旧スカ色窓まわり、キハ20、65系旧準急車体色
584	赤11号	キハ55系、キハ58系157系、準急色の雨樋、窓まわり、裾
585	黄カン色	湘南色窓まわり、急行便貨車の標識帯
586	セイジクリーム	東武鉄道旧型車両の車体外部色

ガイアノーツ〈アクリル塗料〉

鉄道模型用カラー



ガイアノーツも鉄道模型用に調色したシリーズも発売。同社HPでは鉄道模型用カラーを溶剤系アクリル樹脂塗料(通称ラッカー系塗料)としているが、本書で紹介したアクリル塗料と同じだ。溶剤はガイアカラー薄め液を指定。

内容量/
塗料15ml
￥263～368(税込)

番号	色名	用途
27500	1000 ステンレスシルバー	ライトステンレスシルバーとダークステンレスシルバーの中間的な色のステンレスシルバー
27501	1001 ライトステンレスシルバー	近代の通勤・近郊EC用ステンレス車体。ガイアカラーの細かい粒子にパール系の色を加え明るいステンレスを表現
27502	1002 ダークステンレスシルバー	近代の通勤・近郊EC用ステンレス車体。ガイアカラーの細かい粒子に黒いパール系の色を加え暗いステンレスを表現
27503	1003 青15号	スカ色、直流EL、一般PC
27504	1004 ぶどう色2号	旧型EL・EC・PC・全般
27505	1005 ねずみ色1号	屋根・床下機器など
27506	1006 灰色9号	車体・屋上機器など
27507	1007 ダークグレー	屋根色など
27508	1008 クリーム1号	国鉄EL・EC・PCなど
27509	1009 ローズピンク	赤13号、交直流EL・ECなど
27510	1010 ぶどう色1号	国鉄旧型EL・PCなど
27511	1011 黒	SL・FCなど

27512
1012 赤サビ

鉄がさびた赤サビの表現を目的にした塗料。仕上りのテクスチャ効果もある

27513
1013 黄サビ

パンタまわりの黄サビの表現を目的にした塗料。仕上りのテクスチャ効果もある

27521
1021 コンテナブルー

JR貨物コンテナカラー（JR貨物承認）

27522
1022 コンテナレッド

JR貨物コンテナカラー（JR貨物承認）

27523
1023 名鉄スカーレット

名鉄の鮮やかなスカーレット（名古屋鉄道承諾）

27525
1024 西武101系イエロー

西武鉄道用の少し赤みの明度のある黄色

27525
1025 西武2000系イエロー

西武鉄道用のとても鮮やかな黄色

27526
1026 西武ベージュ

西武鉄道の赤電用カラー

27527
1027 西武レッド

西武鉄道用のいわゆるラズベリーレッド

F MODELS〈アクリル塗料〉

オリジナル鉄道模型用カラー「FARBE」

鉄道模型専門ショップのF MODELSではオリジナル製品も開発、鉄道模型用に調色した塗料もラインナップ。塗料の材質はガイアノーツの鉄道模型用カラーに順じており、溶剤はガイアカラー薄め液を使うのがいい。

内容量／
塗料15ml各色
¥273（各税込）



FARBE001
コンテナレッド

JR貨物コンテナカラー

FARBE002
床下グレー

屋根・床下機器など

FARBE003
京浜ブルー

FARBE004
とび色

有蓋車（ワム80000、ワキ5000など）

FARBE005
黄色1号

液化塩素タンク車など

FARBE006
朱色1号

中央線（首都圏）、大阪環状線通勤形EC

FARBE007
黄緑6号

山手線・関西線用通勤形EC車体

FARBE008
青色22号

103系京浜東北線など

FARBE009
青緑1号

常磐線EC

FARBE010
青15号

スカ色、直流EL、一般PC

FARBE011
青20号

0系・100系新幹線、新ブルトレなど

FARBE012
ぶどう色2号

旧型EL・EC・PC・全般

FARBE013
緑2号

湘南色

FARBE014
黄かん色

湘南色窓まわり

FARBE015
クリーム4号

クリーム色4号、特急EC・DC・急行DC、旧一般型DC、交直流急行形EC

FARBE016
赤2号

赤2号、交流・交直流EL、特急EC・DC窓まわりなど

FARBE017
ねずみ色

DL、EC屋根など

FARBE018
ぶどう1号

国鉄旧型EL・PCなど

59D
阪急電鉄旧屋根、床下色
グレー

59E
阪急電鉄新屋根、床下色
グレー

59F
阪急電鉄室内パネル色
クリーム

59G
阪急窓枠
ニス色

60
京阪電鉄（特急上半色）
黄

60B
京阪 床下色
グレー

60C
京阪8000系 上部色
黄

61
京阪電鉄（特急下半色）
赤

61B
京阪8000系 下部色
赤

62
京阪電鉄（各停上半色）
草

62B
京津線80形 車体色
淡緑

63
京阪電鉄（各停下半色）
濃緑

63B
京津線80形 車体色
濃緑

63C
京阪電鉄10000系車体色
ターコイズグリーン

73
小田急電鉄
オレンジバーミリオン

74
小田急電鉄
グレー

75
東京急行
ライトグリーン

76
名鉄パノラマカー7000
スカーレット

77
名鉄3800
ストロークリーム

78
名鉄800、3500
淡緑

79
伊豆急（上半色）
オーシャングリーン

80
伊豆急（下半色）
ハワイアンブルー

81
近畿日本鉄道
新マルーン

82
南海電鉄（こうや号）
赤

83
南海電鉄（こうや号）
クリーム

84
南海電鉄（本体）
緑

84B
南海旧色窓枠
ニス色

85
山陽電鉄（上半色）
クリーム

86
山陽電鉄（下半色）
ブルー

87
西日本鉄道
赤

88
西日本鉄道
ベージュ

89
通勤電車103系
エメラルドグリーン、青緑1号

90
京浜急行電鉄
赤

91
西武鉄道701系
トニーベージュ

92
西武鉄道701系
ディープランズベリー

93
近畿日本鉄道
オレンジイエロー

27
電気機関車、 貨車、急行帯
黄

28
通勤電車103系
スカイブルー、青色22号

29
ディーゼル機関車ボディー
鼠、DL、EC屋根など

30
旧私鉄屋根鉛丹色
赤茶

31
都営地下鉄（上半色）
タウニベージ

32
都営地下鉄（帯）
メタリックシルバー

33
都営地下鉄（下半色）
タンジェリン

34
富士急行（上半色）
オーシャングリーン

35
富士急行（下半色）
サラソダブルー

36
東武鉄道（特・急・快）
ローヤルマルーン

37
東武鉄道（全形式）
ローヤルベージュ

38
東武（特・急・快以外全形式）
オレンジ

39
小田急電鉄
ブルー

40
小田急電鉄
イエロー

41
京王帝都（京王線5000系）
アイボリー

42
京王帝都（京王線5000系・帯）
赤

43
京成電鉄（腰部）
ファイアーオレンジ

44
京成電鉄（上半色）
ボーンアイボリー

45
京成電鉄（帯）
ミスティベランダ

46
秩父（下半色・屋根張り上げ）
マルーン

47
秩父鉄道（上半色）
ウォームブラウン

48
長野電鉄
ファーストレッド

49
長野電鉄
ストロークリーム

50
南海電鉄（急行11001）
淡緑

51
南海電鉄（2051系下半色）
緑

52
阪神電鉄（上半色）
クリーム

53
阪神電鉄（急行下半色）
赤

54
阪神電鉄（各停下半色）
青

55
近畿日本鉄道（ビスターカー）
オレンジ

55B
近鉄特急エースカー
オレンジ

56
近畿日本鉄道（ビスターカー）
青

56B
近鉄特急エースカー
ブルー

57
近畿日本鉄道（奈良線特急）
クリーム

59A
阪急電鉄（全形式）
マルーン

59B
阪急電鉄
新マルーン

59C
阪急電鉄6300系屋根
アイボリー

FARBE019
赤11号

交直流EL、交直流急行形、近郊形EC車体外部

FARBE020
朱色4号

国鉄一般型DL・DC

FARBE021
朱色5号

一般・通勤形DC車体外部(首都圏色)

FARBE022
淡緑5号

つばめ・はと用EL、PC車体外部(青大将)

FARBE023
黄色1号

液化塩素タンク車など

FARBE024
クリーム1号

国鉄EL・EC・PCなど

日光モデル〈ラッカー塗料〉

特製調色塗料

HOの台車メーカーとして知られる日光モデルでは鉄道車両向けに調色したラッカー塗料を発売。ラインナップは国鉄色を中心としている。溶剤は一般的なラッカーシンナー。吹き付け塗装がベストだ。

内容量/
塗料1/12 l
¥525(税込)



クリーム色1号

横須賀線、117系車体色、EF58以降の直流ELの警戒色

クリーム色2号

旧スカ色、準急用DC車体色、一等車帯(三等級時代)

クリーム色3号

80系大阪急電色、70系阪和快速色窓まわり

クリーム色4号

特急EC・DC・急行DC、旧一般型DC、交直流急行形EC

クリーム色10号

新幹線車体外部、185系、交直流近郊形EC、特急形PC帯

淡緑色2号

EC鋼板屋根、通風器(昭和34年頃)荷物車室内

淡緑色5号

つばめ・はと用EL、PC車体外部(青大将)

淡緑色6号

特別車(グリーン車)帯

灰青色1号

旧DC屋根(昭和34年頃)

灰色8号

103系1000、1200番代車体外部

灰色9号

阪和線、関西線快速EC車体外部、飯田線、身延線飾帯(国鉄時代)

ねずみ色1号

DL、EC屋根、通風器、パンタ、DC台車を除く下まわり

朱色1号

中央線(首都圏)、大阪環状線通勤形EC

朱色3号

修学旅行用EC・DC車体外部、車運車(ク5000)車体外部

朱色4号

DL車体外部、旧一般型DC幕板、腰板

朱色5号

一般・通勤形DC車体外部(キハ37を除く、首都圏色)

赤2号

特急EC、DC窓まわり、交流EL、EC、50系PC車体外部、旧準急用DC帯

赤3号

FC無ガイ車(トキ25000)コンテナ車(コキ50000)ホッパ車(ホキ2500)

赤11号

急行形DC窓まわり、157系EC旧塗色、キハ37、EF67車体外部

赤13号

交直流EL、交直流急行形、近郊形EC車体外部

トビ色2号

有蓋車(ワム80000、ワキ5000、50000)

ブドウ色1号

EL、PC車体外部(昭和33年まで)

ブドウ色2号

旧型EC・近代化前PC・EF58以前のEL、117系EC飾帯

ブドウ色3号

80系大阪急電色幕板・腰板

薄茶色4号
EC、DC、PC座席車(特別車)客室室内、木地塗車の金属部分

黄1号
FC液化塩素タンク車、EH10帯、修学旅行用EC窓まわり

黄5号
総武中央緩行、福知山線、修学旅行用EC窓まわり

黄かん色
湘南色窓まわり

緑1号
70系阪和快速色幕板、腰板

緑2号
湘南色幕板、腰板

緑3号
つばめ・はと用EL台車

緑14号
東北・上越新幹線窓まわり、185系、713系、715系EC飾帯

黄緑6号
山手線・関西線用通勤形EC車体

青緑1号
常磐線快速通勤形EC車体、千代田線乗入用EC飾帯

青1号
二等車帯(三等級時代)

青2号
旧横須賀線色幕板、腰板

青2号
旧一般型DC幕板、腰板、(昭和34年廃止)

青4号
二等車帯(戦前)

青15号
横須賀線幕板、腰板、EF58以降の直流EL車体、20系、一般型PC車体

青20号
東海道、山陽新幹線窓まわり、特急、急行形PC車体外部

青22号
京浜東北、東海道緩行用通勤形EC、飯田線近郊形EC車体外部

黄カッ色1号
PC出入台、PC、ECカーテンキセ、鎧戸羽板、EC鋼製引戸内部(昭和34年頃)

黄カッ色2号
旧一般型DC窓まわり、(昭和34年廃止)

銀色
特急形EC、DC屋根、クーラーキセ、軽量客車の鋼板屋根

黒
EL、DL、EC、PC下まわり、DC台車、SL、FC車体外部、下まわり

白
表記文字、DL飾り帯、FC冷蔵車、液化アンモニア専用タンク車

京浜急行赤
京浜急行、全車車体色

西武イエロー
西武鉄道、101系腰板、幕板、車体外部

西武レッド
西武鉄道、801系までの腰板、幕板

西武ベージュ
西武鉄道、101系までの窓まわり

阪急マルーン
阪急電鉄、全車車体外部

阪急ライトベージュ
阪急電鉄、6300系幕板上部

東急ライトグリーン
東急5000系など

東武セイジクリーム
東武8000系、7800系、3500系など

小田急ローヤルブルー
小田急全車帯

小田急ケープアイボリー
小田急2200系、2400系、2600系、5000系、8000系、9000系など

京阪特急車黄
京阪3000系までの特急車車体上部

京阪特急車赤
京阪3000系までの特急車腰板

京阪一般車若草色
京阪普通車車体上部

京阪一般車青緑
京阪普通車車体腰板

マッハ模型〈ラッカー塗料〉

鉄道調色塗料

鉄道模型用ラッカーとして定番製品。国鉄、JR、私鉄の各車両に対応した色を多種揃えている。マッハカラー溶剤として専用溶剤も発売しているがラッカーシンナーなら利用可能だ。吹き付け塗装がベスト。

内容量/
塗料30ml ¥525(税込)
塗料50ml ¥630(税込)



1
修学旅行用・気動車
修学旅行用EC・DCなど

2
ディーゼル機関車、一般気動車20系
国鉄一般型DL・DC

3
急行気動車キハ58系
赤11号、急行DC窓まわり

4
交直電機EF80、交直電車471系
赤13号、交直流EL・ECなど

5
交流電機、特急電車、特急気動車
赤2号、交流・交直流EL、特急EC・DC窓まわりなど

6
東海形、湘南形、近郊111系
黄かん色

7
通勤電車101系(オレンジ)
中央線(首都圏)、大阪環状線通勤形EC

8
パレット貨車、ワム80000
とび色2号、有蓋車(ワム80000、ワキ5000など)

9
直流電機、直流電車、客車
ツヤ消し・ぶどう色2号

9G
直流電機、直流電車、客車
ぶどう色2号

10
東海形、湘南形、近郊111系
緑2号

11
阪和線快速スカ形70系
緑

12
新幹線、ニューブルートレイン
新ブルトレなど

13
直流電機、特急客車、スカ形
ツヤ消し・青15号

13G
直流電機、特急客車、スカ形
青15号

14
阪和線快速スカ形70系
クリーム

15
特急、交直電車、キハ82、20など
クリーム色4号

16
新幹線、185系
クリーム色10号、0系、185系など

17
直流電機、特急客車、スカ形
クリーム色1号

18
カナリヤ101系、修学旅行用電車気動車
総武中央緩行など

19
電車、気動車、客車、一等帯
淡緑

20
通勤電車うぐいす色103系
黄緑6号

21
特急車掌車たから号ヨ、コンテナ
淡緑

22
冷蔵貨車、冷凍貨車
白

23
各車輛、屋根床下スカート
ツヤ消し・鼠、EC屋根など

23B
各車輛、屋根床下スカート
ツヤ消しダークグレー

24
蒸機、貨車、気動車除く全車下廻り
ツヤ消し・黒

24G
蒸機、貨車、気動車除く全車下廻り
SL・FCなど

25
客車、特急電車、気動車、貨車、屋根
銀

26
郵便車(郵便マーク)
赤1号